

ISSN 0910—9374

紀 要

第 39 号

秋草学園短期大学

2022 年

紀 要

第 39 号

目 次

[論文]

- 保育者養成課程における科学絵本活用の可能性について
—「環境 I」の授業での『しずくのぼうけん』の活動内容を例として—
…地域保育学科…大嶋 織江 …1

[論文]

- 芭蕉の愛でた風景～関口芭蕉庵……………文化表現学科…小清水 裕子…19

[論文]

- 日本の保育現場に生かすレッジョ・エミリアの幼児教育アプローチ
—プロジェクトの実践から—その 2……………幼児教育学科…鹿戸 一範 …31
豊泉 尚美
伊藤 明芳

[論文]

- 道徳の教科化において受け継がれるべき価値観に関する考察……………幼児教育学科…松木 久子 …47

[論文]

- 生命（いのち）の安全教育の取組みに向けて
—保育学生における「性教育」の意識調査—……………地域保育学科…味田 徳子 …60

[研究ノート]

- 授業評価アンケートにおける学生の取り組み姿勢と授業評価の分析…文化表現学科…江本 全志 …74

[研究ノート]

- 保育所実習の巡回のための地図型情報管理システムの構築の試み…文化表現学科…江本 全志 …84

[研究ノート]

- 保育課程論でのアクティブ・ラーニングにおける一考察
—ごっこ遊びを用いた保育者養成の方法について—……………地域保育学科…大嶋 織江 …95

[研究ノート]

- 保育内容「表現」に関わるオンライン授業を通じた試み
—ピクトグラムをモチーフとした音楽・身体・造形の表現活動の取り組み—
…幼児教育学科…小口 偉 …113
長谷川 恭子
塩崎 みづほ

[研究ノート]

- STEM分野における女性研究者の論文生産性とキャリア形成
—科学技術人材の多様性とイノベーションをめざして—……………地域保育学科…信田 理奈 …123

[書評]

- 『ベルリン1933 一壁を背にして上・下』
岡田浩平先生との思い出とともに……………幼児教育学科…松木 久子 …141

[論文]

保育者養成課程における科学絵本活用の可能性について
— 「環境 I」の授業での『しずくのぼうけん』の活動内容を例として —

*大嶋 織江

Possibility of using science picture books in childcare training courses
As an example of the activity content of “The Drop’s Adventure” in the
“Environment I” class

Orie Oshima

キーワード： 保育者養成、科学絵本、「環境 I」、『しずくのぼうけん』

Key Words: Childcare worker training, Science picture book, Environment I,
“The Drop’s Adventure”

要約： 「環境 I」の授業の到達目標及びテーマとして、次にあげる3つを目標にしている。1. 幼児にとっての環境の大切さを学ぶ。2. 幼児が意欲的にかかわる環境づくりを学ぶ。3. 学習したことと実際の保育を結びつけるため、具体的イメージを持てるようにする。これらの授業の目標を達成するための取り組みのひとつとして、H 保育者養成校「環境 I」の授業において、『しずくのぼうけん』を用いた活動内容を実践した結果を報告する。また、先行研究と『しずくのぼうけん』活動内容のアンケート分析結果から、保育者養成課程における科学絵本活用の意義と可能性について報告する。

1. はじめに

近年、科学教育における科学絵本の活用の有効性が期待され、その効果が検討されている(滝川,2010)。したがって、本研究では、幼児期の子どもたちを対象とした科学教育を促進するための方法のひとつとして、「科学絵本」に着目する。科学絵本とは、その分類の内容には様々な例があるものの、瀧川(2006)の定義によれば、「物語性」と「着眼点」を併せ持つものとされている。物語性とは、図鑑のようにページごとに独立したものではなく、ページをめくって展開していく世界である。着眼点とは、読者にとっての日常世界(あるいは未知の世界、目に見えない世界)を再発見(新発見)するための道具、つまり日常世界についての事実・事象を見出していく道具である。このような特徴を持つ科学絵本には、将来の科学技術社会を担う子どもたちの科学への興味・関心を高める、という役割を期待することができることから、近年、科学絵本の役割が改めて評価されてきている(滝川,2010)。これまでに、科学絵本を活用した研究としては、例えば、桑原ほか(2015)では、「科学絵本を活用した小学校理科授業:4年生『空気』・3年生『かげ』の授業デザイン」がある。その研究のアンケート結果からは、教師がそれらの授業をしたアンケートから、授業を通じた児童の理解の向上と児童らの理解支援に有効であると評価していることが示されている。さらに、出口・桑原(2015)の「幼児教育における科学絵本の活用可能性—幼稚園を対象とした調査を通して—」では、先に科学絵本の分類に関して、教材としての科学絵本の充実状況を把握するために、幼児対象の科学絵本の分類を行った北野ら(2012)を参考に、自らも、幼稚園を対象に科学絵本活用の度合いを分類し、その結果が、北野ら(2012)の調査「動物」「植物」分野の科学絵本が全体の70%を占めており、科学絵本で扱われている題材が大きく偏っていることを明らかにしたものとほぼ同様の結果を得ている。また、最近の研究では、大貫(2022)が、「幼少期における絵本を活用した科学的探究の指導の方策に関する検討—米国における Picture Perfect Science Lesson の取り組みに着目して—」などがある。大貫(2022)は、米国の科学教育の歴史を紐解き、その中で、5E 指導モデルを用いて概念理解を促す新たな指導の方策として、米国で初等教育のカリキュラム開発に携わるモーガン(Morgan,E)とアンズベリー(Ansberry,K)が提唱する「絵に描いたように完璧な科学の授業(Picture-Perfect Science Lesson:以下 PPSL)(注 1)」についての指導方策について述べたものがある。これらの先行研究から、科学絵本の活用の有効性が期待され、その効果が検討されていることから、科学絵本を幼児期の子どもたちに使用し、保育をすることの有効性と意義を筆者は感じた。しかしながら、出口・桑原(2015)の幼稚園教諭の理科の認識の調査によると、幼稚園教諭らは、概してさほど理科は好きではなく、得意でもない傾向にあることが示唆されている。

そこで、本研究では、この問題に対し、このような傾向にある幼稚園教諭らが、子どもたちに科学の楽しさや不思議さを伝えることを目的として「科学絵本を活用する」授業をデザインした。以下に、H 保育者養成校「環境 I」の授業で行った科学絵本『しずくのぼうけん』を用いた

活動内容の報告を行い、加えて、先行研究との関係から保育者養成課程における科学絵本活用の意義と可能性について報告する。

2. 先行研究からみた幼児期における科学教育の動向

日本では、1950年代から1960年代にかけて、近代科学の成果と生活が強く結びつくに従って、科学教育の重要性が指摘され、幼児教育においても、活動領域の中に『自然』という項目が置かれ、日常生活での自然とのふれあいから『科学』を学習させたいとする流れがあった(坂田・熊野,2001)。さらに坂田(2002)は、現在、幼稚園にあたる3歳から5歳の子どもたちにいわゆる理科教育は行われていないが、幼児期に自然と触れ合うことや、様々な事象を「不思議に思うこと」の大切さは、当時の幼稚園教育要領の領域「環境」においても明示されているとし、また近年、子どもたちに多くの自然体験を提供しようと幼児の活動を組み立てたり、保育研究等を行ったりする幼稚園も見られてきたとしている。

例えば、その具体例として、坂田・熊野(2006)では、静岡県浜松市にある私立早出幼稚園が平成8年度より5年間にわたり、自然体験をテーマとし、「地域家庭での日常的な自然体験が不足する傾向にあるなか、幼稚園や学校が子どもたちへの自然体験を保障できる場である(早出幼稚園 2001)」立場として、園内ビオトープを整備したことや、静岡県相良町にある私立すすき幼稚園の裏山を整備し、「わくわくワールド」と名づけられた自然体験を取り入れた活動を展開していることなどをあげている。

そのような状況の中、坂田・熊野(2004)では、自ら幼稚園の日常である「科学的事象」が教師たちにどのように捉えられ、子どもたちがそれらにどうはたらきかけているのか、調査研究を行っている。その結果、科学的な事象に出会っている子どもに対して、「気づき」(子どもの五感を通しておどろき、感動を認識すること)を促し、考えを深めるよう対応することを科学教育と捉えるならば、幼稚園で日常的に行われている教師と幼児の活動が、十分に科学教育の機会となり得ることを自ら実践した幼稚園の事例を通して明らかにしている。

一方、アメリカ合衆国では、1996年にNational Science Education Standards が発表され、これには、「科学的探究がもたらした成果が満ちあふれている今、科学的リテラシーがすべての人々にとって重要なものとなった」とあり、「科学的リテラシーを身に付けた市民のあるべき姿」を提示し、そのために、このスタンダードが「すべての児童・生徒(K-12)のための科学教育スタンダードである」こと、また、「すべての児童・生徒に学ぶ機会を与えなければならない」ことを強調している(坂田・熊野,2001)。

さらに坂田・熊野(2006)では、アメリカ合衆国の実践プログラムを検討し、具体的には、FOSSプログラム(注2)やHelping Your Child Learn Science(注3)について検討している。また、カナダ・アルバータ州の現状についてもカナダでの現状を知るために、科学教育者 Dr.Blades と幼児教育専門家 Ms.Blades にインタビューを行い(2001.12.10)、カナダでは幼児の教育は、科

学教育を含め大変重要視されており、全カナダ・カリキュラムに組み込まれて実施されていることを調査結果としてあげている。

しかしながら、日本の現在の幼稚園教育要領(2017年告示)の中の領域「環境」では、科学教育に関連するものとして、内容「(8)身近な物や遊具に興味をもって関わり、自分なりに比べたり、関連づけたりしながら考えたり、試したりして工夫して遊ぶ。」において「自分なりに比べたり、関連づけたりしながら」が付け加えられ、思考力・判断力・表現力等の基礎を培うことが明記されているものの、科学教育という具体的な言葉や表現は未だ、取り入れられていないのが現状である。前述した通り、出口・桑原(2015)の幼稚園教諭の理科の認識の調査によると、幼稚園教諭らは、概してさほど理科は好きではなく、得意でもない傾向があること、また、現行の幼稚園教育要領の領域「環境」においても、科学教育という文言がないことから、幼稚園教諭らにとって、科学教育は馴染みのないものになってしまうだろう。

しかし、先行研究からも明らかであるように、アメリカやカナダでは、すでに幼児にも科学教育が活発に行われており、その成果なども報告されている。幼児期に科学教育を行うことは、自然現象に不思議を感じたり、疑問に思ったりする機会を創ることに繋がり、そのことは、将来の科学の発展に繋がっていく萌芽となるだろう。

そうであるならば、将来、幼児期の子どもを育む保育者養成課程の学生に科学教育に興味や関心をもってもらふ授業をデザインすることは、必然であると考えられる。

3. 先行研究からみた科学絵本の現状

前述した出口・桑原(2015)の「幼児教育における科学絵本の活用可能性—幼稚園を対象とした調査を通して—」では、先に科学絵本の分類に関して、教材としての科学絵本の充実状況を把握するために、幼児対象の科学絵本の分類を行った北野ら(2012)を参考に、自らも、幼稚園を対象に科学絵本活用の度合いを分類し、その結果が、北野ら(2012)の調査「動物」「植物」分野の科学絵本が全体の約70%を占めており、科学絵本で扱われている題材が大きく偏っていることを明らかにしたものと同様の結果を得ている。

さらに、中川・北野(2014)の「絵本を通じた幼児期の科学教育実践—子どもの視点から考える—」では、教材としての科学絵本を検討するため、科学絵本の出版状況及び、絵本内容の分析を行い、科学絵本の現状について調べている。そこでは、小学校低学年以下の科学絵本を対象に参考文献や絵本ポータルサイトで紹介されている科学絵本を、381冊を分析の対象とし、分析にあたっては、絵本内容からハーレン・リップキン(2007)の文献を参考に13の科学分野に分類し、分析が行われた。その結果、「動物」が50.4%、「植物」が19.4%となっており、動植物だけで全体の約70%を占めていたとしている。一方で「天気」「水」「光」「簡単な機械」「音」「岩石・鉱物」「空気」「磁石」「重力」の9分野は出版数が10冊以下となっており、ここでも、扱われている科学絵本の科学分野に大きな偏りがあることが明らかにされた。

しかしながら、幼児の遊びにみられる科学的探究の姿は動植物以外の科学にもひろがっており、子どもの多様な科学的な興味や関心に応えるためにも、動植物以外の科学絵本にも目を向ける必要があると考える。そこで今回、科学絵本を用いた授業デザインを行うにあたり、動植物以外の科学絵本に焦点をあてることにした。次章では、水に関する科学絵本『しずくのぼうけん』を用いた「環境 I」の授業デザインについての実践報告をする。

4. 研究方法：科学絵本を活用した「環境 I」の授業デザイン

4-1. 「環境 I」の授業の到達目標及びテーマ

「環境 I」の授業の到達目標及びテーマとして、次にあげる3つを目標にしている。

1. 幼児にとっての環境の大切さを学ぶ。
2. 幼児が意欲的にかかわる環境づくりを学ぶ。
3. 学習したことと実際の保育を結びつけるため、具体的イメージを持てるようにする。

これらの授業の目標を達成するための取り組みのひとつとして、「環境 I」の授業において、『しずくのぼうけん』を用いた活動内容を実践した結果を報告する。

4-2. 科学絵本『しずくのぼうけん』の活用

(1) 対象と実施時期

対象は神奈川県内の女子校 H 保育者養成校 2 部 1 年の A クラス 29 名、B クラス 32 名であった。授業の実施日は、2022 年 6 月 1 日および 2022 年 6 月 8 日の 2 回の授業を通して活動をおこなった。さらに、2 回の授業を通しておこなった活動に対するアンケート調査を実施した。

(2) 背景と目的

本研究の背景としては、幼稚園教諭の理科の認識調査、出口・桑原(2015)などが明らかにしたように、幼稚園教諭らは、概してさほど理科は好きではなく、得意でもない傾向があること、また、現行の幼稚園教育要領の領域「環境」においても、科学教育という文言がないことから、幼稚園教諭らにとって、科学教育は馴染みのないものになってしまう恐れがあると考えた。しかしながら、幼稚園教育要領でも述べられているとおり、「幼児期の教育は、幼児の特性を踏まえ環境を通して行うものであることを基本とする。」とされていることから、幼児にとっての環境のひとつである遊び環境としての自然環境は、幼児の学びに対して大きな影響を与えるものであることが推察される。しかし、出口・桑原(2015)によると、自らが幼稚園を対象にした科学絵本活用の度合いを分類した結果、北野ら(2012)の調査結果と同様に、「動物」「植物」分野の科学絵本が全体の 70%を占めており、科学絵本で扱われている題材が大きく偏っていることが明らかにされていた。しかしながら、自然環境にある幼児の興味や対象は「動物」「植物」以外にも向けられている。そうであるならば、将来、幼児期の子どもを育む保育者養成課程の学生に「動物」「植物」以外の科学教

育にも興味や関心をもってもらう授業をデザインすることは必然であると考えた。そこで、授業は単元の目的として、水の性質や不思議を知ること、また、水の大切さについて考えることを目的としてデザインすることにした。さらに授業の効果として、学生が理解した内容を分かりやすく子どもたちに伝える手段を考えること、また、SDGs について考えることや現在の環境問題を考えるきっかけになることも目的とした。

(3) 調査の概要

調査の方法は、科学絵本『しずくのぼうけん』活動内容についての質問を紙面にておこなった。質問1から質問7までを選択式評価とした。評価基準は、1. とてもそう思う、2. ややそう思う、3. あまりそう思わない、4. 思わない、の4件法で回答を求めた。質問8については、絵本『しずくのぼうけん』を用いた活動をしてみての感想を自由記述で書くとした。結果としては、47 件の回答を得た。回答率は、全体数に対して、77%であった。回答者の属性は、女子校であるため、全員が女子であった。また、2 部 1 年であったため、昼間は保育助手やアルバイトをしており、夜間に養成校に通っている学生が対象であった。なお、アンケートの詳細については、資料1を参照していただきたい。

(4) 科学絵本

導入に用いた科学絵本は『しずくのぼうけん』(マリア・テルコフスカ作、うちだりさこ訳、ボフダン・ブテンコ絵,1969)であった。

(5) 単元 (お話の絵を描く『しずくのぼうけん』活動内容)

科学絵本『しずくのぼうけん』を導入した授業が行われた単元は、「お話の絵を描く『しずくのぼうけん』活動内容」であった。授業は単元の目的として、水の性質や不思議を知ること、また、水の大切さについて考えることを目的としてデザインされた。なお授業は、「環境 I」の授業担当である筆者がおこなった。

(6) 授業の展開 : 『しずくのぼうけん』活動内容と科学絵本の活用

実施日 2 日間(90 分授業のうち 45 分程度の時間配分×2 日間とした。)における活動内容と科学絵本の活用を以下に説明する。

< 1 日目の授業 >

- ① YouTube 鑑賞で、絵本『しずくのぼうけん』の読み聞かせを導入として学生におこなった。この時、幼稚園などで、子どもに行う活動をまず、実体験しておくことが大切であることを伝えた。また後に、この読み聞かせの中の場面で自分が 1 番印象に残った場面の絵を描くことも伝えた。
- ② 絵本『しずくのぼうけん』をきっかけに SDGs について考えることを目的に、講義をおこなった。講義の内容は、今回の『しずくのぼうけん』に関連性のあるものを選択して講義した。具体的には、SDGs の 17 の目標、持続可能な社会形成に関係する課題の中から、6 番の安全な水とトイレを世界中に、11 番の住み続けられるまちづくりを、12 番のつくる責任つかう責任、13 番の気候変動に具体的な対策を、について講義し

た。6 番、11 番、12 番については、幼稚園の子どもにも使用できると考えられるトーマスとなかまたちシリーズの YouTube 鑑賞をさせた。13 番については、重要と思う項目をあげ、パワーポイントで説明をした。

- ③ 水の大切さについてのグループワーク(水育)を学生にさせた。グループワークのテーマを水の大切さを考えると、水不足の原因について考えてみることに、さらに、水問題に関しての対策として、私たちにできることを考える内容とした。できることの対策としては、具体的に、1.水の利用方法を見直し「節水」を心がけることを目標に具体的にできることを考えてみよう。2.生活排水の汚れを減らすことを目標に具体的にできることを考えてみよう。とし、学生がイメージしやすいように設問内容を具体的にこちらから提示した。

<2 日目の授業>

- ① 始めに「4 歳児設定お話の絵『しずくのぼうけん』活動内容(提出用紙)」を配布した。そこには、○活動のねらい○絵のタイトル○『しずくのぼうけん』の絵の写真○絵本『しずくのぼうけん』を用いた活動をしてみての感想を記入するようになっていた。
- ② 4 歳児設定お話の絵を描く『しずくのぼうけん』のねらいを各自、4 歳児の子どもに物語の絵を描くことを前提に、自らが担任となったとして、考えさせた。
- ③ 4 歳児設定お話の絵を描く『しずくのぼうけん』の子どもの活動を体験させた。具体的には、『しずくのぼうけん』のお話を聞いて、一番印象に残った場面の絵を描くこと。さらに、自分の書いた絵の場面にタイトルをつけさせた。絵のタイトルづけは、作品展などで、実際に保育の現場でも行うことであるからと説明を加えた。
- ④ 最後に絵本『しずくのぼうけん』を用いた活動をしてみてのアンケート(選択式)と感想(自由記述)を行い、活動を終えた。

4-3. 科学絵本『しずくのぼうけん』の活用結果

4-3-1. 選択式アンケート結果

調査結果については、授業の単元の目的と照らし合わせ、以下に述べる 4 項目に分類して纏めた。①水の性質や不思議を知ることに関する結果、②水の大切さについて考えることに関する結果、③理解した内容を分かりやすく子どもたちに伝える手段を考えることに関する結果、④SDGs について考えることや現在の環境問題を考えるきっかけに関する結果とした。以下、①から④の分析結果について述べていくことにする。

① 水の性質や不思議を知ること

水の性質や不思議を知ることに関する質問としては、質問3の「水の不思議(科学変化)について、絵本『しずくのぼうけん』を通して、子どもたちに分かりやすく伝える手段を考えることができた。」が該当する。結果としては、1. とてもそう思うが 30%、2. ややそう思うが 55%となり、

85%の学生が水の不思議について考えることができ、さらに子どもにも伝える手段を考えることができた」と回答していた。

②水の大切さについて考えること

水の大切さについて考えることに関する質問としては、質問2の「今、環境問題として取り上げられている、水の大切さについて絵本『しずくのぼうけん』を通して考えるきっかけとなった。」質問4の「SDGsの関連項目を知ることを通して、水の大切さを考え、水を大切にすることで、持続可能な社会に繋がることが学べた。」質問7の「水の大切さについてのグループワークを通して、水不足の原因やその対策について考えることで、できることをしてみようと思うようになった。」などが該当する。結果としては、質問2が1. とてもそう思うが40%、2. ややそう思うが48%となり、88%の学生が水の大切さについて絵本『しずくのぼうけん』を通して、考えるきっかけを持った」と回答していた。質問4は、1. とてもそう思うが45%、2. ややそう思うが49%となり、94%の学生がSDGsの関連項目の学習によって、水の大切さを理解し、さらに水を大切にすることで持続可能な社会に繋がることが学べたと回答していた。質問7は、1. とてもそう思うが60%、2. ややそう思うが36%となり、96%の学生が水の大切さについてのグループワークによって、水不足の原因や対策を考え、できることをしてみようと思うようになることが明らかになった。

③理解した内容を分かりやすく子どもたちに伝える手段を考えること

理解した内容を分かりやすく子どもたちに伝える手段を考えることに関する質問としては、質問3の「水の不思議(科学変化)について、絵本『しずくのぼうけん』を通して、子どもたちに分かりやすく伝える手段を考えることができた。」質問5の「今、環境問題として取り上げられている、水の大切さについて絵本『しずくのぼうけん』を通して、子どもたちに分かりやすく伝える手段を考えることができた。」が該当する。結果としては、質問3が1. とてもそう思うが30%、2. ややそう思うが55%となり、85%の学生が水の不思議について子どもたちに分かりやすく伝える手段を考えることができた」と回答していた。質問5は、1. とてもそう思うが36%、2. ややそう思うが45%となり、84%の学生が環境問題として取り上げられている水の大切さについて絵本『しずくのぼうけん』を通して、子どもたちに分かりやすく伝える手段を考えることができた」と回答していた。

④SDGsについて考えることや現在の環境問題を考えるきっかけに関すること

SDGsについて考えることや現在の環境問題を考えるきっかけに関する質問としては、質問4の「SDGsの関連項目を知ることを通して、水の大切さを考え、水を大切にすることで、持続可能な社会に繋がることが学べた。」質問5の「今、環境問題として取り上げられている、水の大切さについて絵本『しずくのぼうけん』を通して、子どもたちに分かりやすく伝える手段を考えることができた。」が該当する。結果としては、質問4が1. とてもそう思うが45%、2. ややそう思うが49%となり、94%がSDGsや環境問題について考え、さらに持続可能な社会に向けて水を大切にすることで必要であることが学べたと回答していた。質問5は、1. とてもそう思うが

36%、2. ややそう思うが 45%となり、84%の学生が水の大切さなどの環境問題について考えることができたと回答していた。

4-3-2. 記述式アンケート結果（抜粋）

絵本『しずくのぼうけん』を用いた活動をしてみての感想を書いてください。（自由記述）に関する調査結果について、ここでは、特徴的な学生の感想を抽出する。

「この活動を通して水の大切さを改めて感じた為、保育園で水を出したまましている子を見たら、積極的に声掛けするようになった。また、家でもなるべく節水を心がけるようになった。このまま長く節水を続けてより良い環境にしていきたい。」(学生 A)

「水がどのようにして氷になったり、つららになったり、水道水になったりするのイメージしやすいお話だったから、理科的な要素を子どもたちに伝えるにはとても適していると思いました。でも、水の大切さを伝えるには、これだけでは難しいのではないかと思います。この活動で水について知ることは、子どもでもできると思いました。」(学生 B)

「水の大切さについてグループワークした時に、水を普段どの程度使っているのか知るきっかけとなり、お風呂の量や洗い物など、平均数値を知り驚きました。私は、SDGs について高校の時から調べて毎日勉強していたので、他の人より詳しい方だと思いましたが、新しいことを知れてよかったです。」(学生 C)

「SDGs のことは、高校で学んで知っていたし、その中に水についてのことがあることも知っていたので、今の環境問題が水にあることは分かっていた。けれど、なぜ、水が不足になっているかを考えたことがなかったので、知ることができました。また、それを知った上で、この先、色々対策できると思うので意識していきたいです。」(学生 D)

「この絵本を用いた活動をして、もっと色々環境に配慮して水を大切に使えるなと思った。果物の皮は絶対に水に流さないでとるけど、米つぶとかは結構そのまま流しちゃうこともあるから、水はからまっちゃったりして、嫌なんだよ。ってことも思い出して大切にしようと思った。子どもに分かりやすい絵本は絵でけっこう全面的に描かれているなとも感じた。」(学生 E)

5. 総合考察

「環境 I」の授業の到達目標及びテーマとして、前出の 4-1. に示した 3 つの目標を達成するための取り組みのひとつとして、H 保育者養成校「環境 I」の授業において、『しずくのぼうけん』

ん』を用いた活動内容を実践してきた。さらに、本研究の実践目的として、出口・桑原(2015)が明らかにした幼稚園教諭の理科の認識調査から、幼稚園教諭らが、さほど理科は好きではなく、得意でもない傾向があることも踏まえ、また、現行の幼稚園教育要領の領域「環境」においても、科学教育という文言がないことから、幼稚園教諭らにとって、科学教育は馴染みのないものになってしまう恐れがあると筆者は考え、科学教育をテーマとして扱った。さらに、出口・桑原(2015)や北野ら(2012)の調査結果から、幼稚園での科学絵本活用の度合いが、「動物」「植物」分野が70%という偏りがあることも、わかった。

したがって、将来、幼児期の子どもを育む保育者養成課程の学生に「動物」「植物」以外の科学教育にも興味や関心をもってもらい授業をデザインすることが、必然であると考えた。そこで、単元の目的として、水の性質や不思議を知ること、また、水の大切さについて考えることを目的としてデザインすることにした。さらに授業の効果として、学生が理解した内容を分かりやすく子どもたちに伝える手段を考えること、また、SDGsについて考えることや現在の環境問題を考えるきっかけになることも目的とした。

本研究の調査結果からは、選択式アンケート結果は、全ての項目において、84%以上の結果が出ており、科学絵本『しずくのぼうけん』を用いた実践は、一定の効果があったといえる。さらに、記述式アンケート結果(抜粋)をして、学生の特徴的なアンケートA～Eを詳細に考察した。以下に考察結果を述べる。

学生 A の感想に関する考察

科学絵本を用いた『しずくのぼうけん』の活動内容の活動経験から、水の大切さを感じたことだけにとどまることなく、行動への変容があったことが特徴としてあげられる。身近な環境問題である水の大切さを改めて考える機会を与えたことによって、自分自身の行動だけでなく、保育園での子どもの水の使い方にも改めて気づき、声掛けなどをするという行動変容を起こすきっかけとなる活動となった。このことから、保育者養成課程において、学生に科学絵本を用いた一連の活動を与えることによって、環境問題に対する気づきや行動変容に導く可能性があることがわかった。

学生 B の感想に関する考察

学生 B の感想では、科学絵本『しずくのぼうけん』から水の性質などの理科学的な要素を子どもに伝えるのにイメージしやすいお話であるけれども、水の大切さを伝えるには、不十分との感想を述べていた。確かに、この絵本では、主人公であるしずくが、固体になったり、液体になったり、気体になったりと水の変化について、子どもが楽しく学べる内容になっているが、水の大切さを直接的に訴えている場面はない。したがって、水の大切さを子どもに伝えるには、この『しずくのぼうけん』を今回、学生に行ったように、その後の活動に繋げて、水に関するグループワークなどを子どもにも行う必要はある。しかしながら、現在の環境問題のひとつである”水“に焦点をあてる導入として使用することは可能であると考えられ、子どもが”水“に興味や関

心をこの絵本を通じてもった段階で、水の大切さを考えていきっかけ作りとしてほしい。今回の保育者養成課程での活動から科学絵本『しずくのぼうけん』の幼稚園や保育園での使用方法についても、今後、詳細に改めて考えていく必要があると考える。

学生 C と学生 D の感想に関する考察

学生 C と学生 D の感想には、SDGs のことが取り上げられている。全体的な感想にも SDGs のことが取り上げられているものも多々あったため、特徴的な事例として、ここに取り上げた。ここで言われている「水の大切さについて」は、SDGs のゴール6「安全な水とトイレを世界中に」にあてはまる。私たち日本人は、当たり前のように水道から出る水を飲み、清潔できれいなトイレを使っているが、このように安全で衛生的に水を利用できる環境が整っている国は世界では珍しい。世界では、3 人に 1 人がトイレや公衆便所などの基本的な衛生施設を利用できないと言われている(ユニセフ報告書)。また、日本は世界でも水の使用量が多い国であり、(水道技術研究センター,2017,水道の国際比較に関する研究,国外の生活用水使用量)さらに、様々なものを輸入に頼っている日本は、その生産に必要な水を間接的にも多く消費している。例えば、輸入されたお米、輸入された肉や野菜で作られたカレーを食べるということは、海外で使われた多くの水を消費しているということになる。それは、バーチャルウォーターというもので計算できる。2025 年には世界の人口の 3 分の2が水不足になると予測されており、私たち日本人が多くの水を使うことにより、途上国の生活を破壊することにも繋がることを意識してほしい。具体的に私たちが出来ることとしては、今回のグループワークでも取り上げたが、「水の大切さや他の国の状況について考えてみる。」ことや「お風呂や洗濯、トイレなど、水の無駄使いを意識する。」また、「台所などから油などを流さないなど、水を汚さないようにする。」などが考えられる。学生には、自国のことだけでなく、海外の状況まで多面的に物事を見る力を養ってほしい。そのためには、保育者養成課程で、科学絵本をきっかけとして、環境問題にまで発展させた授業展開をすることは、ひとつの方法として、有効であると考えられる。

学生 E の感想に関する考察

学生 E の感想からは、科学絵本を用いたことにより、子どもに分かりやすい説明の仕方を、水の立場になって考えられていることが、特徴としてあげられる。水を擬人化した『しずくのぼうけん』という科学絵本を使用することによって、水の立場になって、子どもに説明する方法を考察することができた事例といえる。

以上の結果から、次にあげる5つの効果があることが、わかった。

1. 保育者養成課程において、学生に科学絵本を用いた一連の活動を与えることによって、環境問題に対する気づきや行動変容に導く可能性があることがわかった。

2. 科学絵本『しずくのぼうけん』から水の性質などの理科学的な要素を子どもに伝えるのにイメージしやすい可能性があることがわかった。
3. 科学絵本『しずくのぼうけん』に環境問題である“水”のグループワークを組み合わせる行うことによって、SDGsの項目の例えば6. 安全な水とトイレを世界中になどの持続可能社会に繋がる取り組みについての意識を高める可能性があることがわかった。
4. 水を擬人化した『しずくのぼうけん』という科学絵本を使用することによって、水の立場になって、子どもに説明する方法を考察できる可能性があることがわかった。
5. 保育者養成課程で、科学絵本をきっかけとして、環境問題にまで、発展させた授業展開をするひとつの方法としての可能性があることがわかった。

しかしながら、学生Bの感想では、科学絵本『しずくのぼうけん』から水の性質などの理科学的な要素を子どもに伝えるのにイメージしやすいお話ではあるけれども、水の大切さを伝えるには、不十分との感想もあり、今回の保育者養成課程での活動から、科学絵本『しずくのぼうけん』の幼稚園や保育園での使用方法については、今後、詳細に改めて考えていく必要があると考える。

6. おわりに

本研究では、幼児期の科学教育を充実させるための科学絵本の可能性を検討することを目的として、保育者養成課程「環境 I」の授業での『しずくのぼうけん』の活動内容を例として調査研究をおこなった。その結果、前章に示したように、保育者養成課程に科学絵本を活用して授業を行うことにより、学生の科学(水の変化)に関する意識の向上や気づきが見られることがわかった。さらには、その自らの「気づき」を子どもに分かりやすく伝える手段を考えることやSDGsや環境問題についても学生の意識や理解を向上させる結果となった。

最後に、前章の調査結果と先行研究を踏まえ、幼児教育における科学教育を充実させるための科学絵本の活用の可能性について指摘したい。先行研究をおこなった出口・桑原(2015)からの指摘は、以下の3点であった。

1点目は、子どもが科学絵本に親しむための環境の充実である。その調査から、多くの幼稚園に科学絵本が配置されており、子ども自身が自由に手に取るという扱われ方が多い傾向にあることが示されていた。元来幼稚園教育においては、子どもたち自身の興味・関心に応じて教育活動を展開していく側面も強い傾向にあることから、より多様な分野の科学絵本に触れる機会を増やすことで、動物や植物、さらには他の科学事象・現象にも目を向け、疑問を持ったり、遊びや活動に取り入れたりする姿が期待される(出口・桑原,2015)。

2点目は、幼稚園教諭が科学絵本を活用するための環境の充実である。その調査結果から、多くの幼稚園教諭らはすでに科学絵本をある程度活用しており、また、理科に関する遊びや活動も多く実践していることも明らかにされていた。このような状況の中では、科学絵本が理科に関する活動のきっかけや発展として位置づけられるような教材、補助教材などを今後開

発していくことも、科学絵本をさらに活用するための有効な手段として考えられる(出口・桑原,2015)。

3点目は、出口・桑原(2015)でも提案されているが、動物・植物を初めとした生物以外の分野における、科学絵本を活用した活動の促進を筆者も強調したい。幼稚園に配置された科学絵本の内容や、読み聞かせのあとに行う活動、さらに幼稚園教諭の理科に対する認識の傾向からも、その調査全体を通して生物分野に偏りが見られることが明らかにされていた(出口・桑原,2015)。しかしながら、幼児期においても日常生活で身近に感じられる生物分野以外の科学的な事象・現象も数多く存在する。例えば、自然界の変化(水の変化)などがある。それらの事象・現象に子どもたちの興味・関心を導くきっかけとして、科学絵本の有効性が期待できると筆者は考える。

さらに、出口・桑原(2015)の3点の提案に加えて、筆者は、4点目として、保育者養成課程での科学絵本を用いた動物・植物以外の授業デザインの促進を提案する。本研究の科学絵本『しずくのぼうけん』のアンケート調査結果から、保育者養成課程における科学絵本活用の可能性が明らかになった。今後は、さらに『しずくのぼうけん』以外の科学絵本を用いた授業デザインについても調査研究を継続して行い、保育者養成課程における科学絵本活用の可能性についてさらなる考察をしていきたいと考えている。

(注1) PPSL(Picture-Perfect Science Lesson)

- ・「絵に描いたように完璧な科学の授業」と訳される PPSL は、主に幼稚園段階から小学校5年生の幼児・児童が絵本を主軸に科学的探究を行う中で子どもたちの探究力と読解力の伸長を目指す指導の方策である。

(注2) FOSS プログラム

- ・FOSS プログラムの学習材は、多様な教室のすべての児童に、意義ある科学教育を提供し未来の生活の準備をさせるべくデザインされている。Kindergarten(幼稚園)のためのモジュールは、5つあり、それらは、科学的な内容から2つの領域(生命科学・物理科学)を取り上げ、科学的思考のプロセスとして **Observing**(五感を使って調査すること) **Communicating**(相互に交流すること)や **Comparing**(比較すること)が配慮されている。

(注3) Helping Your Child Learn Science

- ・1992年に連邦政府教育省(U.S. Department of Education)から出版された、幼い子どもたち(3歳から10歳)を持つ保護者にむけた科学アクティビティ集である。示されている科学的プロセスは、**Observing**(五感を使って調査すること), **Prediction**(予想すること), **Testing Prediction**(予想を確かめること), **Try to Make Sense**(理解しようとする努力)である。また、子どもたちが理解できる科学概念として、**Organization**(組織化), **Change**(変化), **Diversity**(多様性)を挙げて

いる。主に家庭でできるアクティビティが提案されているが、他には地域での行えるものとして、博物館、動物園、プラネタリウム、水族館、農場を訪れたときに試みることができるもの、科学を仕事としている人々のこと、ハイキング、おもちゃから学ぶことなども紹介されている。

<引用文献>

- ・マリア・テルリコフスカ 作 うちだりさこ 訳 ボフタン・ブテンコ 絵(1969)
『しずくのぼうけん』福音館書店
- ・文部科学省 2017 年告示
『幼稚園教育要領(原本)』
- ・大貫守(2022)
「幼少期における絵本を活用した科学的探究の指導の方策に関する検討—米国における Picture Perfect Science Lesson の取り組みに着目して—」人間発達学研究 第 13 号
17 頁-30 頁
- ・桑原奈美・出口明子・鈴木由美子・池澤史歩(2015)
「科学絵本を活用した小学校理科授業:4 年生「空気」・3 年生「かげ」の授業デザイン」
日本科学教育学会研究会研究報告 Vol.30 No.3(2015) 105 頁-108 頁
- ・出口明子・桑原奈美(2015)
「幼児教育における科学絵本の活用可能性—幼稚園を対象とした調査を通して—」
宇都宮大学教育学部紀要 第 65 号 第 2 部 別冊 平成 27 年 3 月 21 頁-28 頁
- ・中川茜・北野幸子(2014)
「絵本を通じた幼児期の科学教育実践—子どもの視点から考える—」
日本科学教育学会研究会研究報告 Vol.29 No.3(2014) 75 頁-78 頁
- ・北野幸子・田中孝尚・中川茜(2012)
「幼児対象の科学絵本の実態と活用の可能性」
日本科学教育学会年会論文集 36, 95 頁-96 頁
- ・滝川洋二(2010)
『理科読をはじめよう～子どものふしぎ心を育てる 12 のカギ～』岩上書店
- ・ハーレン,D/J & リプキン M.S. (深田昭三,墨田学 監訳)(2007)
『8 歳までに経験しておきたい科学』北大路書房
- ・坂田尚子・熊野善介(2006)
「幼児を対象とした科学教育アクティビティ作成のビジョン構築に関する研究—グローバル・サイエンス・リテラシーを基盤として—」
科学教育研究 Vol.30 No.1(2006)
- ・瀧川光治(2006)
『日本における幼児期の科学教育史・絵本史研究』風間書房

・坂田尚子・熊野善介(2004)

「幼稚園における科学教育の現状とこれからの展望—静岡大学附属幼稚園,静岡市アソカ幼稚園の事例を通して—」

科学教育研究 Vol.28 No.5 306 頁-314 頁

・坂田尚子(2002)

「幼児を対象とした科学教育のビジョンの構築に関する研究—Global Scientific Literacy を基盤として—」

平成 13 年度静岡大学大学院教育学研究科修士論文 23 頁-32 頁

・坂田尚子・熊野善介(2001)

「日本における幼児への科学教育の現状とこれからの展望—静岡大学附属幼稚園・静岡市アソカ幼稚園の事例を通して—」

日本科学教育学会 年会論文集 25(2001)

・早出幼稚園(2001)

「自然と遊ぼう—早出幼稚園自然体験研究誌—学校法人早出学園早出幼稚園」

<参考文献>

・原口るみ・大貫麻美(2022)

「生活科における子どもの「気付き」を促す科学絵本の活用

東京学芸大学紀要,総合教育科学系 73 巻 607 頁-617 頁

・伊藤孝子(2021)

「領域『環境』の変遷に関する一考察」

滋賀文教短期大学紀要 23 号 11 頁-24 頁

・杉山清志(2020)

「幼児期における『科学する心』と考える力を育む科学的環境のあり方について」

研究紀要 第 42 号 77 頁-93 頁

・仲井勝巳(2015)

「小学校理科・生活科における科学絵本の研究～科学絵本の教材化と授業プランの提案～」

日本理科教育学会全国大会要項(65) 249 頁

・今井邦枝・栗原泰子・野尻裕子(2010)

「幼児向け科学絵本の分析—子どもの『気づき』の視点から—」

川村学園女子大学研究紀要 第 21 巻 第 2 号 19 頁-34 頁

・榎沢良彦・入江礼子編著(2019)

シードブック『保育内容 環境』第 3 版 建帛社 2019 年 4 月 25 日 第 3 版 第 2 刷

・井上美智子著(2012)

『幼児期からの環境教育』昭和堂 2012 年 2 月 28 日 初版第 1 刷

・秋田喜代美・藤江康彦編著 (2022)

『これからの質的研究法』東京図書株式会社 2022 年 5 月 10 日 第 3 版

大嶋織江 秋草学園短期大学 地域保育学科 非常勤講師

資料 1. 科学絵本『しずくのぼうけん』活動内容の学生アンケート結果

回答率:77%

質問1. この授業を受ける以前に、SDGS について知っていましたか。

はい	いいえ
38 (81%)	9 (19%)

質問 2. 今、環境問題として取り上げられている、水の大切さについて絵本『しずくのぼうけん』を通して考えるきっかけとなった。

1.とてもそう思う	2.ややそう思う	3.あまりそう思わない	4.思わない
19 (40%)	23 (48%)	4 (9%)	1 (2%)

質問 3. 水の不思議(科学変化)について、絵本『しずくのぼうけん』を通して、子どもたちに分かりやすく伝える手段を考えることができた。

1.とてもそう思う	2.ややそう思う	3.あまりそう思わない	4.思わない
14 (30%)	26 (55%)	6 (13%)	2 (4%)

質問 4. SDGS の関連項目を知ることを通して、水の大切さを考え、水を大切に作る行動をすることで、持続可能な社会に繋がることが学べた。

1.とてもそう思う	2.ややそう思う	3.あまりそう思わない	4.思わない
21 (45%)	23 (49%)	2 (4%)	1 (2%)

質問 5. 今、環境問題として取り上げられている、水の大切さについて絵本『しずくのぼうけん』を通して、子どもたちに分かりやすく伝える手段を考えることができた。

1.とてもそう思う	2.ややそう思う	3.あまりそう思わない	4.思わない
17 (36%)	21 (45%)	8 (17%)	1(2%)

質問 6. 絵本『しずくのぼうけん』の活動を通して、環境問題を考えるきっかけになった。

1.とてもそう思う	2.ややそう思う	3.あまりそう思わない	4.思わない
16 (34%)	25 (53%)	3 (6%)	2 (4%)

質問 7. 水の大切さについてのグループワークを通して、水不足の原因やその対策について考えることで、できることをしてみようと思うようになった。

1.とてもそう思う	2.ややそう思う	3.あまりそう思わない	4.思わない
28 (60%)	17 (36%)	0 (0%)	2 (4%)

質問 8. (自由記述)

絵本『しずくのぼうけん』を用いた活動をしてみての感想を書いてください。

資料2. 『しずくのぼうけん』活動内容と科学絵本の活用の自由記述アンケート結果(抜粋)

学生の感想(自由記述)	学生の感想(自由記述)
この活動を通して水の大切さを改めて感じた為、保育園で水を出したまましている子を見たら、積極的に声掛けをするようになった。また、家でもなるべく節水を心がけるようになった。このまま長く節水を続けてより良い環境にしていきたい。	水の大切さについて、あまり考えていなかったけど、子どもたちに伝えていけるように自分が考えるきっかけになれたので良かったです。
水がどのようにして流れてくるのか、何も知らない0からのスタートの子どもたちにとっては、考えるにしても知るにしても、よい活動だと思う。今まで、水を無駄遣いすることに何の抵抗もなかった時から、少しは知識をつけて成長できるのではないかと思った。	水がどのようにして氷になったり、つららになったり、水道水になったりするのイメージしやすいお話だったから、理科学的な要素を子どもに伝えるにはとても適していると思いました。でも、水の大切さを伝えるにはこれだけでは難しいのではないかと思いました。この活動で水について知ることは、子どもでもできると思いました。
SDGsについて物語であらわれているとどの年代もわかりやすく伝わりやすいと思いました。水だけでなくSDGsのほかの問題もストーリーのあるお話があったら面白いと思いました。	子どもたちに言葉で水の大切さを伝えることは難しいけれど、絵本を通して分かりやすく伝えることができるのかなと思いました。また、自分たちにとって水大切にすよい機会になったと思いました。
水の大切さについてグループワークをした時に、水を普段どの程度使っているのか知るきっかけとなり、お風呂の量や洗い物など、平均数値を知り驚きました。私は、SDGsについて高校の時から調べて毎日勉強していたので、他の人より詳しい方だと思いましたが新しいことを知れてよかったです。	この絵本も用いた活動をして、もっと色々環境に配慮して水を大切に使えるなと思った。果物の皮は絶対に水にながさないでとるけど、米つぶとかは結構そのまま流しちゃうこともあるから、水はからまっちゃったりして、嫌なんだよ。ってことも思い出して大切にしようと思った。子どもたちに分かりやすい絵本は絵でけっこう全面的に描かれているなども感じた。
水の変化について子どもたちに分かりやすく伝えられると思いました。絵を描くことで色々な画材に触れることができ良いと思いました。この絵本を読んで、水の大切さが子どもたちにもよく伝わりました。	SDGsのことは高校で学んだので知っていたし、その中に水についてのことがあることも知っていたので、今の環境問題が水にあることは分かっていた。けれど、なぜ水が不足になっているか考えたことがなかったので、知ることができました。また、それを知った上で、この先、色々対策できると思うので、意識していきたいです。

[論文]

芭蕉の愛でた風景～関口芭蕉庵

*小清水 裕子

Basho's beloved landscape～Sekiguchi Bashoan

Yuko Koshimizu

キーワード： 関口芭蕉庵、幻住庵、琵琶湖、瀟湘八景、西湖

Key Words: Sekiguchi Bashoan, Genjuan, Like Biwa, eight beautiful sceneries of old China, West Lake of Hangzhou

要約：「関口芭蕉庵」は芭蕉が愛でた風景がそこに展開することを理由に、芭蕉没後に門人が芭蕉庵と五月雨塚を作った。この芭蕉庵は『江戸名所図会』や広重の浮世絵でも画材となり、著名な江戸の史跡となった。そこで、なぜ芭蕉が関口の風景を愛でたかのかを明らかにしてゆく。

芭蕉が関口に滞在していた頃に従事した神田川改修工事と、水戸光圀の小石川後樂園の造営に見られる中国の景観の美意識についても指摘しながら、芭蕉の愛した近江の琵琶湖湖畔の風景が関口が通じていることを挙げ、琵琶湖湖畔の幻住庵と関口芭蕉庵とその景物の関係と、近江八景、瀟湘八景、西湖の享受についても触れる。

芭蕉の愛でた風景～関口芭蕉庵

はじめに

東京都文京区関口の「関口芭蕉庵」は芭蕉が江戸に出てきたばかりの延宝5年(1677)頃、武家として(芭蕉と名乗る以前)神田川の改修工事のために住んでいたとされるあたりで、芭蕉がこよなくこの関口の風景を愛でたことから、芭蕉の死後には弟子たちによって「芭蕉庵」が建立された。後日この芭蕉庵は『江戸名所図会』や広重の浮世絵でも画材となり、著名な「江戸の史跡」となった。

そこで、なぜ芭蕉が関口の風景を愛でたのか。その理由を明らかにしてゆきたい。まず、芭蕉の愛した近江の琵琶湖湖畔の風景に関口が通じていることが挙げられる。琵琶湖湖畔の風景は中国の「瀟湘八景」の影響で「近江八景」として室町以降に享受されていく。つまり芭蕉の愛でた関口の風景は、「近江八景」でもあり、近江八景の源流となる文人の好んだ「瀟湘八景」でもあることは容易に想起できる。しかしそれだけでは不足である。

本稿では「関口芭蕉庵」と「瀟湘八景」に注目し、芭蕉が改修工事に従事した「神田川」と水戸光圀が「西湖図」を意識して作庭を指示した「小石川後樂園」との関わりを明らかにしながら、芭蕉の憧れた中国文人の美意識が関口の風景に投影されていることを述べ、芭蕉の愛でた風景について述べていきたい。



図1・関口芭蕉庵

1 関口芭蕉庵

まず、現在の関口芭蕉庵の所在地は東京都文京区関口二丁目の神田川沿いの、胸突き坂沿いの傾斜地にある。胸突き坂をはさみ、水神宮と向かい合う立地となっている。

東京都文京区教育委員会が関口芭蕉庵入り口に立てた案内板によると、

関口芭蕉庵 文京区関口 2-11-3

この地は、江戸前期の俳人松尾芭蕉が、延宝5年(1677)から延宝8年(1680)まで、神田川改修工事に参画し、「龍隠庵」と呼ばれる庵に住んだと伝えられている。後に世人は「関口芭蕉庵」と呼んだ。

享保 11 年(1726)、芭蕉の 33 回忌に当たり、芭蕉の木像を祀る芭蕉堂が建てられた。その後、去来・其角・嵐雪・丈草の像も堂に安置された。

芭蕉は、早稲田の田んぼを琵琶湖に見立て、その風光を愛したと言われている。そこで、寛延3年(1750)宗瑞・馬光らの俳人が、芭蕉の真筆「五月雨にかくれぬものや瀬田の橋」の短冊を埋めて墓とした。この墓を「さみだれ塚」と称した。塚は芭蕉堂の近くにある。

芭蕉庵の建物は、昭和 12 年(1937)3月、近火で類焼したが、同年8月再建された。しかし、昭和 20 年(1945)5月の戦災で焼失した。

敷地内には、芭蕉堂・さみだれ塚・朱楽菅江歌碑・伊藤松宇の句碑などがあり、往時をしのぶことができる。

文京区 教育委員会

とある。天保五年～七年(1834～1836)にかけて描かれた『江戸名所図会』(図 2、図3は松濤軒斎藤秋長他著 須原屋茂兵衛ほか出版・国会図書館デジタルライブラリー版)の「芭蕉庵 五月雨塚 駒留橋 八幡宮 水神宮」は芭蕉堂がなされてから約一世紀、五月雨塚が建立されて八十年が経過するものの、江戸の人々に名所として認知された芭蕉庵の姿を知ることができる資料である。



図 2・江戸名所図会(図 3 拡大)

図3・江戸名所図会

『江戸名所図会』には、駒留橋のやや下流の小高い丘に芭蕉庵が描かれている。駒留橋を
はさんで芭蕉庵と向かい合う早稲田の水田が描かれている。満々と水をたたえていれば、確
かに一帯の水田が水辺の風景として広がって見えることが想像に難くない。

芭蕉が、この関口の地に滞在していた頃は、まだ「芭蕉」ではなく「桃青」と名乗っていた頃
で、俳諧の宗匠としてのデビュー前となる、延宝五年(1677)の芭蕉の句に

五月雨や竜灯揚る番太郎 桃青 江戸新道(六百番発句合)⁽¹⁾

がある。解釈は

五月雨が降り続いて辺り一面海のようなあ。その海に点々と竜灯の灯りを掲げた
番小屋の番人⁽²⁾

である。この句では、やや俯瞰的に一帯を見渡す視点でもって景物が描かれている。そして
雨によって、一帯は「海＝うみ」の景色に見立てる芭蕉の視座が示されている。芭蕉が関口芭
蕉庵の辺りで、早稲田の遠景を海＝湖に見立てるのは、その景物だけではなく、五月雨、雨、
と言う気象条件が重なればなお一層、早稲田を琵琶湖と見立てるに適した条件が加わるので
ある。

さらに、琵琶湖には「瀬田の唐橋」をはじめとする歌枕が古来からの名所となっている。琵琶
湖湖畔の歌枕から、琵琶湖の風景に橋は必須のものであることが理解できる。一方、関口芭
蕉庵は、やや上流に駒留橋がかかっている、琵琶湖の景物として不可欠な橋の存在と同様
の、海と橋の実景が展開する。芭蕉がこの関口芭蕉庵の地を琵琶湖湖畔の風景と見立て、そ
して愛でたのは実景としての類似点によるものであったことが示されている。

さて、芭蕉が江戸の関口に赴いたのは文京区教育委員会の案内板にある「神田川改修工
事に参画」したことが理由であるが、芭蕉は土木工事の肉体労働者ではなく、

折々に江戸小石川の水道工事の事務に携わる。ただし手伝い程度。⁽³⁾

の労働者と考えられている。実際に芭蕉がどのような仕事に携わっていたのか具体的には明
らかになってはいないものの、芭蕉は、神田川改修工事のために働いたことは確かで、その
神田川の改修工事は、当時の火事に弱い江戸のインフラ整備の一環であり、そしてまた、水
戸光圀の小石川後樂園の造営とも深く関わっている。

2 小石川後樂園に表れた中国の風景

2-1 瀟湘八景

東京都小石川にある「後樂園」は、岡山県の「後樂園」との混同を避けるために、「小石川
後樂園」と称されている。この小石川後樂園の造営に深く関わった人物は、水戸光圀であり、
小石川後樂園の造営にあたり、中国・明の亡命してきた学者、朱舜水の助けを以て、中国風
の庭園がなされた。

小石川後樂園については、東京都公園協会が以下の通り説明している⁽⁴⁾

この地は小石川台地の先端にあり、神田上水を引入れ築庭されました。また光圀の儒学思想の影響の下に築園されており、明るく開放的な六義園と好対照をなしています。

光圀は、自身の中国趣味・儒教的思想を庭園の築造に生かすなど整備に力を注ぎ、特に隣国明の学者で日本に亡命していた朱舜水の意見を取り入れ、随所に中国の景観を配しました。「後樂園」の園名も、光圀が朱舜水に命じて選ばせたもので、宋の范仲淹の『岳陽楼記』中「先天下之憂而憂 後天家之樂而樂」(天下の憂いに先立って憂い、天下の楽しみに後れて楽しむ)から名付けたものです。これは為政者の心得を説くもので、光圀も自らの政治的信条としました。

つまり、中国の景勝が小石川後樂園に再現がされているのである。「後樂園」の名前が宋代の范仲淹『岳陽楼記』の一節から命名されていることからすれば、岳陽楼の建つ中国の湖南省の洞庭湖近辺の美しい景色「瀟湘八景」がインスパイアされていることも容易に理解できる。

まず、岳陽楼であるが、中国最大の湖である、洞庭湖(近年、土砂の流入で面積が小さくなり第一位の面積ではなくなってしまった)の湖畔に建てられた、元々は、三国時代の呉の水軍の練兵台として築かれたものであったと伝わる楼閣である。杜甫をはじめとする中国の文人もたびたびその地を訪れ、詩を詠んでいる。

杜甫の「岳陽楼に登る」では、岳陽楼に登って洞庭湖の壮大な景色を眺めた詩人の現況によせる心境が詠まれた詩として名高い。⁽⁵⁾

登岳陽楼 杜甫

昔聞洞庭水	昔から洞庭湖の壮大さは噂に聞いていたが
今上岳陽樓	今、岳陽楼に登って、(その景色を眺めてみると)
吳楚東南裂	吳と楚の国はこの洞庭湖によって、東南に割かれている
乾坤日夜浮	そして万物は日夜、湖面にそのかげを映している
親朋無一字	(私は今)親類や友人からの手紙は一切無く
老病有孤舟	老いて病気がちな我が身と一艘の舟があるだけだ
戎馬關山北	今なお戦乱は関所の向こうの山の北で続いている
憑軒涕泗流	楼上の手すりに寄りかかっていると涙がとめどなく流れる

また、李白も「洞庭に遊ぶ」を詠んでいる。李白は左遷となり、任地に赴く途中で赦免され、その際に立ち寄った洞庭湖で同じく左遷された友人と同舟し詩を詠んだ。⁽⁶⁾

游洞庭湖 李白

洞庭西望楚江分	洞庭湖で西方を眺めると、楚江が湖から分かれるのが見える
水盡南天不見雲	洞庭湖の尽きる水平線は雲一つ無い南天にあり
日落長沙秋色遠	日が落ち、長沙の辺り、秋の風情が遠くに見える
不知何處弔湘君	そして湘君を弔うにも、どこなのかわからない……

前述の杜甫も李白も唐代の詩人であり、芭蕉が好んだ詩人でもある。「おくのほそみち」では杜甫の「春望」を踏まえて「夏草や・・・」の句が編まれてることは有名で、現在の日本の中学校・高等学校の国語の教科書に芭蕉と杜甫の「春望」が掲載され続けている。

さて、「瀟湘八景」は、北宋後期、宋迪(蘇軾と同時代)が洞庭湖周辺を描いた山水画の「瀟湘八景」が元となり生まれたものである。そして以降「八景画」が流行することになる。この「八景」の流行は日本にも伝えられ、「近江八景」「金沢八景」などが名所となり文人の画材となった。そのことは「日葡辞書」にも記述が認められる。

Facqei (八景) 八つの景 シナ及び日本で有名な八つの景色 ⁽⁷⁾

として、瀟湘夜雨、平沙落雁、煙寺晚鐘、山市晴嵐、江天暮雪、漁村夕照、洞庭秋月、遠浦帰帆の全、八景が紹介されている。

「日葡辞書」の記述にもあるとおり、日本では、まずは琵琶湖に近江八景が誕生する。近江八景については滋賀県が次のように説明している。

近江八景 (滋賀県 HP) ⁽⁸⁾

約 500 年前の室町時代に、中国湖南省にある洞庭湖の八景にちなんで、関白近衛政家が選んだと伝えられています。浮世絵師の安藤広重の風景画により広く知られるようになりました。

とあるように、「近江八景」は石山秋月、瀬田夕照、栗津晴嵐、矢橋帰帆、三井晩鐘、唐崎夜雨、堅田落雁、比良暮雪からなり、既に芭蕉の時代には定着し、広重の浮世絵によって全国に一般に広がったものと考えられる。なお、滋賀県の大津市歴史博物館では近江八景のジオラマと映像と近江八景の浮世絵などの展示がされている。(2022年10月現在)そして広重の「近江八景」の約40年前となる寛政5,6年(1793,1794)にはすでに栄松斎長喜が「近江八景」を描いており、こちらも広重と並び展示されている。下に示した図4「近江八景全図」⁽⁹⁾は石山寺から近江八景を紫式部が望む姿が描かれている。(なお、石山寺は紫式部が源氏物語を執筆した場所だとして巷間に流布する場所である)広重の描いた近江八景は芭蕉よりも時代は下るものの、芭蕉の愛でたという琵琶湖の風景を知ることができるのである。



図4 歌川広重 近江全八景図

また、この琵琶湖湖畔の地は、近江八景が広く知られる以前より、その地は既に広く知られる場所であった。天智天皇が奈良の飛鳥から遷都し近江京とし、繁栄をした場所であり、そのため古来より、歌枕の地として認識されていた。室町時代には既に成立していたとされる『譚枕名寄』⁽¹⁰⁾ 卷第廿二、廿三、廿四はそれぞれ近江国上、中、下、となり、卷第廿二には「近江海篇」が立てられ、琵琶湖が取り上げられている。

2-2 西湖十景

また、小石川後樂園の中には日本初となる「西湖堤」が築かれた。西湖堤とは、中国の浙江省・杭州の西湖に築かれた堤であり、宋代に詩人の蘇軾がその土木事業に官吏として関わったとされる「蘇堤」のことを一般的には「西湖堤」と言っている。小石川後樂園の西湖堤について、東京都公園協会の説明によると⁽¹¹⁾

中国の西湖、蘇堤を写したもの。かつて白い蓮が植えられていた。

日本の庭園で最初に西湖の堤が表現されており、本園を歴史的かつ景観的に特徴付ける重要な庭園構成要素の一つ。

とし、実際に小石川後樂園内の西湖堤の案内看板には、

本園以降の大名庭園の「西湖の堤」の先駆けになった。

と、示されている。



図 5・小石川後樂園 西湖の堤

そもそも西湖に堤が作られたことは、西湖の開拓事業の一環であり、日本では詩人として名高い、白居易や蘇軾が官吏として関わっていたことでも知られている。白居易は 822 年から 25 年に、蘇軾は 1086 年から 1094 年とともに杭州の地方官吏として赴任している。現在、西湖にかかる堤には東西にかかる白堤と、南北にかかる蘇堤とがあり、白堤は、後人が杭州の官吏として西湖の整備に努めた白居易を讃え、白堤と名付けたとされる。また、蘇堤は、官吏

として、公共事業に力を注いで、堤の整備をした蘇軾を讃え蘇堤と名付けられている。蘇堤には現在では蘇軾の銅像が建てられている。そして、日本でも有名な二人の詩人がこの地を読んだ詩が伝えられていた。

餘杭形勝 白居易

餘杭形勝四方無 杭州のような景勝の地はどこにもないでしょう
 州傍青山鯨枕湖 州は青山に沿って、県は西湖にのぞんでいます
 遠郭荷花三十里 街をめぐる蓮の花が三十里も咲き
 拂城松樹一千株 町中に松の木が千本もあります
 夢兒亭古傳名謝 夢兒亭は古いけれど謝靈運の名を伝え
 教妓楼新道姓蘇 教妓楼は新しくその姓は蘇小小の蘇といいます
 独有使君年太老 このような西湖で長官の私一人だけが年老いて、
 風光不稱白髭髮 この美しい景色に白髭のあご髭が釣り合わないのが残念です

飲湖上初晴後雨 蘇軾

水光滌灑晴偏好 さざ波で湖面が日光にきらきら輝き、晴れ渡って美しい
 山色空濛雨亦奇 湖畔の山々が雨に煙ているのもまた美しい
 欲把西湖比西子 西湖を美人の西施にたとえるならば
 淡粧濃抹總相宜 薄化粧もしっかり化粧したのもどちらも良かったのと同じように、
 西湖も晴れも雨もどちらも美しいのです

このように詩人が詠んだ西湖の景色は、やがて「西湖十景」画として日本で流行することになる。「西湖十景」とは「瀟湘八景」を手本として、中国の南宋(1224～64年)に流行する画題で、日本では狩野派が好んで画題としたものである。その西湖の十箇所の名勝は断桥残雪、平湖秋月、曲院風荷、蘇堤春曉、三潭印月、花港觀魚、南屏晚鐘、雷峰夕照、柳浪聞鶯、双峰挿雲である。そして西湖十景のうちの蘇堤春曉が日本に伝わる西湖堤とされ、西湖十景の画題の周知とともに、拡散されたものと思われる。

2-3 小石川後樂園に再現された瀟湘と西湖

小石川後樂園は、その名前を『岳陽樓記』から得ていることから、中国・湖南省の洞庭湖を中心とした瀟湘八景と、中国浙江省の西湖の名勝西湖堤の再現から、西湖十景、両方を取り入れた、最上の庭園である。そしてこの庭園の造営のためには川と水が不可欠の要素となるのである。つまり神田川改修工事はそのためにも重要な工事であった。当然、芭蕉は、この小石川後樂園の造営と同時期生きていたわけであるから、小石川後樂園に再現された中国風の庭園のことは認知していたはずである。

そして延宝五年(1677)の芭蕉の作品に小石川を入れて詠んだ作品が一句存在する。

一時雨礫や降て小石川 桃青 江戸広小路

(解釈) ここは小石川。とすれば、時雨がバラバラと降りすぎたと思ったのには名にふさわしくひとしきり礫が降ったのかな

前述の「五月雨や竜灯揚る番太郎」もやはり雨であり、この小石川を詠み込んだものも雨となっており、水の風景であることには注視したい。

3 芭蕉の愛した琵琶湖湖畔

芭蕉は、晩年、琵琶湖湖畔の近江の地を特に愛した。やがては「おくのほそ道」としてまとめられる、東北・北陸への吟行に出かける、その年、元禄元年(1688)年の夏にも芭蕉は琵琶湖湖畔に滞在し、関口芭蕉庵の五月雨塚に埋められた前掲の

五月雨にかくれぬものや瀬田の橋

の句を詠んでいる。また、翌年、吟行から帰着した元禄二年(1689)の冬から、多くの時間を琵琶湖湖畔で過ごしている。後に遺言により芭蕉が葬られる「義仲寺」への滞在と比較すると、時間的には短い期間ではあったが、「幻住庵」で過ごしたことは芭蕉にとっては、近江八景を堪能する上でも名文『幻住庵記』をなすことでも貴重な時間であった。



図 6・幻住庵

芭蕉の過ごした幻住庵とは、文化庁の「琵琶湖大津歴史百科—幻住庵」⁽¹²⁾によると、

貞享 2 年(1685)、初めて大津を訪れた松尾芭蕉は、以降、大津の風光をこよなく愛し、多くの門人をもつこととなります。幻住庵は、門人の一人・菅沼曲水が叔父の庵を改修し、芭蕉に提供したもので、近津尾(ちかつお)神社境内にありました。そしてこの地で、名文として有名な『幻住庵記』が生まれました——。平成 3 年に幻住庵の建物が新築、公開されています。

幻住庵は近江八景の石山寺に近い小高い場所にあった。現在、幻住庵は三代目の幻住庵となる。(幻住庵保勝会によって幻住庵芭蕉祭が開催されており、令和4年は10月2日に第88回の芭蕉祭が開催された。)この三代目の幻住庵は近津尾神社の境内をさらに登った場所に再建されているが、本来の幻住庵のあった場所にはその跡を示す石碑が近津尾神社社務所の隣に建立されている。往時も幻住庵は琵琶湖の見晴らしの良い場所に立っていたのである。つまり、近江八景を俯瞰する景観は、(やや幻住庵が琵琶湖から奥まっている為に視界はやや狭小ではあるが)広重の描いた前掲の図4・近江八景全図に近い。

この幻住庵からの、橋のかかった水辺の景色の俯瞰一橋があつて海＝湖＝水辺の景観が広がる構図は、前掲図3・江戸名所図会の関口芭蕉庵が描かれた構図と通じるものがある。

また、瀬田の唐橋の句は雨の句であり、五月雨に潤った大地は海と見立てる芭蕉の視座から、芭蕉の俯瞰する景観は幻住庵では瀬田の唐橋が、関口芭蕉庵では駒留橋が。そして五月雨の琵琶湖と、五月雨で海と見立てる早稲田の田園が広がるのである。

そうであるならば、五月雨塚に瀬田の唐橋を詠んだ五月雨の句を埋めたことは、芭蕉を理解する門弟には非常に恣意的なものであったであろう。芭蕉の愛した琵琶湖の、近江八景としても名高い、琵琶湖の景観のランドマークとなる五月雨の瀬田の唐橋、そして、五月雨によって芭蕉の目には海と見立てる景観への視座は、関口芭蕉庵と幻住庵の一体化を物語っているのである。

さて、幻住庵は「幻住庵記」をまとめた場所として名高い。「幻住庵記」の結びに、

卯月の初めいとかりそめに入りし山の、やがて出でじとさへ思ひそみぬ。さすがに春の名残も遠からず、つつじ咲き残り、山藤松にかかりて、時鳥しばしば過ぐるほど、宿かし鳥のたよりさへあるを、木啄のつつくともいはじなど、そぞろに興じて、魂、呉・楚東南に走り、身は瀟湘・洞庭に立つ。楽天は五臓の神を破り、老杜は瘦せたり。賢愚文質の等しからざるも、いづれか幻の住みかならずやと、思ひ捨てて臥しぬ。

とある。「やがて出でじ」と思うほどに、この幻住庵は芭蕉にとっては佳い住処であった。そこは花が咲き、鳥の鳴く豊かな自然に囲まれていることと、芭蕉の尊敬する中国の詩人たちの心境の投影が叶いやすい場所であったことが示されている。

「魂、呉・楚東南に走り、身は瀟湘・洞庭に立つ」は、前出、杜甫の「登岳陽楼」の第三句「呉楚東南裂」の心境に通じている。つまり、琵琶湖の水の風景を俯瞰する視座が中国の詩人、杜甫の岳陽楼に登って洞庭湖を俯瞰するに相通じていることを表している。

また、芭蕉が句を詠むことは、「楽天は五臓の神を破り、老杜は瘦せたり。」と、これもまた、中国の詩人に相通じているのである。

同じように、「おくのほそ道」の松島で芭蕉は、

そもそも、ことふりにたれど、松島は扶桑第一の好風にして、およそ洞庭、西湖を恥ぢず。

と、中国の景観美の代表の瀟湘と西湖を用いて、松島の景観の美しさを愛でている。これは、芭蕉の美的意識の中には、日本の文人だけではなく、中国の詩人や瀟湘八景図や西湖図に依拠する美的意識が存在することを示している。

まとめ

芭蕉は関口の風景を幻住庵からの近江八景の瀬田の唐橋・石山寺の近辺と見立てて愛でた。しかし関口の風景が芭蕉の好む近江の風景に似ているだけの理由で愛でていると捉えるのは不足である。水戸光圀が小石川後樂園を西湖図に見立てた庭園を造園するため、利水事業も併せて行った。その利水事業に神田川の改修工事を行ったことで、遠からず芭蕉は小石川後樂園の造営に関わった。この芭蕉の事績はかつて中国で公共のために西湖の開拓・整備をした詩人、白居易や蘇軾とその姿が重なる。神田川の水利事業は、直接的には西湖提に繋がり、その事業に関わった詩人の姿につながるのである。

また、小石川後樂園が西湖でもあり、また岳陽楼の洞庭湖でもあるならば、その少し上流部の関口は瀟湘と見立てることができる。

そして、その関口の風景は、。文人の好んだ山水の風景である瀟湘八景の実景の投影でもあるのだ。つまり関口は近江の景色に似ていることから、近江八景の元となる瀟湘八景を想起するのではなく、神田川によって繋がる小石川後樂園との関係から、直接、瀟湘と見立てるべきなのである。

さらに言を進めると、芭蕉は西湖や瀟湘の景物を歌った詩人たち、杜甫、李白、白居易、蘇軾の詩文の世界や、絵画的な名勝である瀟湘八景と西湖十景をも関口の風景の一部として愛でていたのではないか。

「注」

-
- (1) 本文は、井本農一 堀信夫注解(2003年7月)『松尾芭蕉集』①②小学館を元に作成しました。
 - (2) 解釈は、堀切実 田中喜信 佐藤勝明編(2014年10月)『諸注評釈新芭蕉俳句大成』明治書院を元に作成しました。
 - (3) 久富哲雄「松尾芭蕉略年譜」(2003年7月)『松尾芭蕉集①』小学館
 - (4) 東京都公園協会 HP「小石川後樂園」(<https://www.tokyo-park.or.jp/park/format/about030.html>)
 - (5) 漢詩の本文・解釈は吉崎一衛『漢詩の旅』(2006年7月)明治書院を元に作成しました。
 - (6) 注(5)と同じ
 - (7) 土井忠生ほか編訳『邦訳日葡辞書』(1995年11月)岩波書店
 - (8) 「近江八景」滋賀県 HP(<https://www.pref.shiga.lg.jp/kengai/interview/22105.html>)
 - (9) ウィスコンシン大学マディソン校所蔵「Ishiyama Temple, from the series Eight Views of Omi Province」(1868-1925) <https://data.ukiyo-e.org/chazen/images/4b5d8240b568af1706a08431aad400f3.jpg>

-
- (10) 渋谷虎雄『校本譚枕名寄』(1977年3月)おうふう社
(11) 東京都公園協会 HP「西湖の堤」(<https://www.tokyo-park.or.jp/park/format/view030.html>)
(12) 文化庁 HP(<https://rekishihyakka.jp/culturalheritages/146/>)

「参考文献」

目加田誠『新釈漢文大系 19 唐詩選』(1964)明治書院
上海辞書出版社・鈴木博訳『中国名勝旧跡事典』(1969)ペリカン社
大津市歴史博物館『近江八景』(2010)大津市歴史博物館図録
出光美術館『名勝八景』(2019)出光美術館図録

*小清水 裕子 秋草学園短期大学 文化表現学科 非常勤講師

[論文]

日本の保育現場に生かすレッジョ・エミリアの幼児教育アプローチ
—プロジェクトの実践から— その2

* 鹿戸 一範
** 豊泉 尚美
*** 伊藤 明芳

Reggio Emilia's Early Childhood Education Approach for Childcare in Japan
— Focusing on the practice of the Project —

Kazunori Shikato
Naomi Toyozumi
Akiyoshi Ito

キーワード： レッジョ・エミリア、プロジェクト、子どもの主体性、表現活動

Key Words: Reggio Emilia, Project, Children's autonomy, Self-expression activities

要約： レッジョ・エミリアの幼児教育の特徴である「プロジェクト」は、子どもの興味・関心を基に、子どもの主体性を尊重しつつ、保育者と共に学びを深めていく活動である。本研究では、「子どもたち、親、保育士」を3つの主体と捉え、それぞれがどのようにプロジェクトへ関わり、プロジェクトとの関わりによって、どのような変化が生じたか、またプロジェクトの実践に当たり空間環境もその効果に影響を与えるのではないかと仮説の下、その現状について調査し考察することを目的とした。調査の結果、プロジェクトの実践は「子どもたち、親、保育士」それぞれに好影響を及ぼすことを確認できた。また、レッジョ・エミリアのような恵まれた物的環境はなくとも、保育士らは空間のデザ

インの工夫やドキュメンテーションの積極的な活用により、ハード面での不十分さをカバーし効果を挙げていることを確認した。

I はじめに —研究の背景と目的—

イタリアの小都市レッジョ・エミリアの幼児教育は、1980年代から今日まで注目を集め、そこで行われる教育的アプローチは、様々な国や地域で広がりを見せてきた。レッジョ・エミリアの幼児教育にとりわけ特徴的な、協同的な学びを通して子どもの主体性を促す「プロジェクト」（後述）が各地の保育施設や幼児教育の現場で行われている。

日本の幼児教育においてプロジェクトを導入している場合は、現状多くはないが、中央教育審議会幼稚園教育部会による「子どもを取り巻く環境の変化を踏まえた今後の幼児教育の在り方について（答申）」（平成17年）では、以下のように明記されているⁱ。

- ・幼稚園等施設において、小学校入学前の主に5歳児を対象として、幼児どうしが、教師の援助の下で、共通の目的・挑戦的な課題など、一つの目標を作り出し、協力工夫して解決していく活動を「協同的な学び」として位置付け、その取組を推奨する必要がある。

- ・遊びの中での興味や関心に沿った活動から、興味や関心を生かした学びへ、さらに教科等を中心とした学習へのつながりを踏まえ、幼児期から児童期への教育の流れを意識して、幼児教育における教育内容や方法を充実する必要がある。

ここに「協同的な学び」「興味や関心を生かした学び」といった、プロジェクトとの関連性が非常に高いキーワードが示されていることから、レッジョ・エミリアの思想と保育実践が、日本の幼児教育においても大きな影響を及ぼしていると推測することができる。

筆者らは、レッジョ・エミリアの幼児教育の思想中核をなすプロジェクトを関東某県にあるM市内の3か所の保育所で担任保育士らと共に実践してきた。

筆者らの以前の研究において、プロジェクトの実践により、協同的な学びを通して子どもの主体性を促すことを確認した。同時に、従来の保育や子ども観から捉え直し、保育に向かうべきだとする保育士の意識の変化を明らかにしたⁱⁱ。

本研究では、「子どもたち、親、保育士」を3つの主体と捉え、それぞれがどのようにプロジェクトへ関わり、その継続によって、どのような変化が生じたか、またプロジェクトの実践に当たり空間環境もその効果に影響を与えるのではないかと仮説の下、プロジェクトがどのような空間環境において実践されたかその現状について調査し考察することを目的とする。なお本研究における、プロジェクト実践テーマ及び具体的内容については筆者らの以前の研究を参照されたいⁱⁱⁱ。

II レッジョ・エミリアのプロジェクトとその成否に影響を与える要素について

ここで、改めてレッジョ・エミリアの「プロジェクト」について概説する。

プロジェクトにおいては、子ども同士、子どもと保育者の対話によって協同的探究を行い、協同的に発展的に変化するテーマを探求していくのが最も重要なことと考えられている。そのため、月や週の指導計画として予め保育者が定めた課題ではなく、子どもたちがその関心や興味に基づいて主体的にテーマを定め、体験的に活動が進められる。具体的に

は、4～6人の子どもたちによる小グループを構成し、その小グループでの協同作業を通じて、子どもたちが設定したテーマについて研究を深める取組みである。保育者はその間、子どもたちが作業するための環境を整え、作業の方向性を推測して準備を行い、子どもたちの活動状況を「ドキュメンテーション」として記録化し、他の保育士・親・子どもたち自身と共有することが求められる。

「ドキュメンテーション」とは、子どもたちの活動している様子を写真に撮り、活動中の会話を文字に起こし、制作した作品を展示し、それらを保育者の観察と解釈によりまとめた実践記録である。文字だけではなく、特に写真というツールを活用することで、より「学びを可視化」することができる。ドキュメンテーションは、教室や廊下の壁に掲示され、他の保育士・親・子どもたち自身にも展示公開され、プロジェクトでの学びの共有を可能にし、多くのコミュニケーションを生み出す手段となっている。ドキュメンテーションによって、子どもが自分の過去の経験や活動をいつでも振り返ることができ、自分の活動に意味や価値を見いだすという省察的学びが可能となる。また親の子どもの活動に対する興味関心を高め、理解を深める役割も果たす。保育者の省察やリフレクションといった「振り返り」を生み、保育の質の向上にもつながっている。

なお、プロジェクトを展開するうえでは、活動の場となる空間構成がその効果に大きな影響を与えていることも指摘しておく。レッジョ・エミリアでは、子どもたちと保育者が自由に集い、行き来するピアツァ (piazza) と呼ばれるオープンな広場、アトリエリスタ (atelierista) と呼ばれるアートを専門とした教師が常駐するアトリエが各幼児学校にあり、ピアツァから、各教室やアトリエが配置され連続する空間となっている。オープンスペースで子どもたちの創造的活動を促す効果が生じる。

III 研究方法

1. 調査対象と調査時期

本研究の調査対象者は、M市保育士の6名。2021年8月から9月に実施。

2. 手続き

各保育士が所属する保育所内で、当該保育士と筆者(内2名のどちらか)の的一对で対面による面接調査を行った。質問内容はあらかじめ確定されたものであるが、状況に応じて臨機応変に質問を深めたり、追加したりできるように半構造化面接法 (semi-structured interview) を用いて実施した。事前に許可を取り、ICレコーダーを使用し面接内容を録音し、録音した面接内容は逐語録から研究目的に沿って要約したものを分析対象とした。なお、倫理的配慮については、筆者らが所属する秋草学園短期大学研究倫理審査委員会の承認を得ている (受付番号 2021-5)。

3. 調査対象者の内訳

[表 1] 調査対象者のプロフィール

対象者	保育歴	備 考
A 保育士	10 年	1 歳児担任 プロジェクト活動時= 5 歳児クラス担任
B 保育士	20 年	4 歳児担任 プロジェクト活動時= 5 歳児クラス担任
C 保育士	26 年	保育リーダー プロジェクト活動時= 5 歳児クラス担任
D 保育士	29 年	保育リーダー プロジェクト活動時= 5 歳児クラス担任
E 保育士	31 年	保育リーダー プロジェクト活動時=保育リーダー
F 保育士	31 年	所長 プロジェクト活動時=保育リーダー

*A, B, C, D 保育士は、5 歳児クラス担任として、子どもと関わり、実際にプロジェクトを行い、E, F 保育士は、保育リーダーとして、担任保育士と協同してプロジェクトに参加した。なお、保育歴、備考欄の役職・担当クラスは調査時のものである。

4. 調査内容

レッジョ・エミリアでのプロジェクトが、主体的で協同的な学びを前提としていることを踏まえ、プロジェクトの過程での子ども同士、保育士と子ども、保育者と親の関わりについて質問した [質問 1-(1) (2) (3)]。また、プロジェクトを行う際、子ども、保育士、親という人的環境が中核をなすと同時に、保育を行う空間環境も重要であるところから、[質問 2] を設定した。

[表 2] 調査対象者への調査内容

<p>1. 保育の 3 つの主体として、「子どもたち・親たち・保育者たち」が考えられます。</p> <p>(1) 「プロジェクト活動」について、親たちとの関わりはどうでしたか。またどうあるべきだと考えますか。</p> <p>(2) 「プロジェクト活動」においては、小グループ (2～5 人くらい) における子どもたち同士の関係とその相互作用が重要となります。</p> <p>①小グループ内での子どもたちの関係はどうでしたか。</p> <p>②小グループ同士の関係はどうでしたか。</p> <p>(3) 「プロジェクト活動」において、保育者は、子どもたちをしっかりとみつめ、子どもたちの話に耳を傾けます。そして得た理解を用いて、子どもたちと共に、協力していく学びの過程の役割を担うと考えられます。プロジェクト活動で、そのような「学びの過程」を体験することができましたか。また、子どもと共にどんなことを学びましたか。</p> <p>2. 保育所の空間環境についてお尋ねします。</p>
--

保育所の空間環境が子どもに与える影響は大きいと考えられます。

保育所では、空間の美しさを創りだすことや、子ども自身の作品を展示すること、音の環境や居心地のよい空間にすることなどに、どのように配慮をされていますか。また、保育所の空間環境が今後どうあるべきだと考えますか？

IV 結果と考察

ここでは、面接対象者に質問項目ごとに、それぞれの回答を逐語訳から要約し表にまとめ、研究主旨に沿って考察のコメントを記した。

質問項目 1：保育の 3 つの主体として、「子どもたち・親たち・保育者たち」が考えられます。それぞれについてお尋ねします。

(1)「プロジェクト活動」について、親たちとの関わりはどうでしたか。またどうあるべきだと考えますか。

[表 3] 対象者と親の関わり

A	<ul style="list-style-type: none"> ・お帰りの時、保護者が部屋に入ってドキュメンテーションを見て、「こんなことしたの？」と子どもに尋ねたり、子どもの方から保護者に語ったりして、プロジェクトの内容はある程度伝わっていたと思う。また、日々の保育便りに内容を掲載したり、発表会をしっかりと見てもらったりして保護者との関わりを持った。 ・プロジェクト時の反省点として、もっと周りを巻き込んで写真を撮っておけばよかったと思う。 ・親が子どもに関心を向けてもらえたら、子どもの体験や理解も深まっていいと思った。
B	<ul style="list-style-type: none"> ・親たちにもプロジェクト活動を知らせたいと思って、子どもたちの活動が進むたびに内容や様子を伝えるドキュメンテーションを廊下にどんどん貼っていった。4 月から懇談会の度に保護者にプロジェクトについて詳しく伝えるよう心がけた。その結果、ノートや口頭で親からの反響が多かった。 ・親たちは、子どもの姿とドキュメンテーションを照らし合わせて、プロジェクト活動に共感を示してくれていた。プロジェクトのテーマを子どもと家で調べたりすることもあった。 ・プロジェクトの集大成のひとつ、劇発表については、保護者からよい感想ばかりで、担任としてとても嬉しかった。(こんな劇を見たのは初めてで、びっくりしました！子どもたちが一生懸命取り組む様子が素晴らしかった、など)
C	<ul style="list-style-type: none"> ・クラス便りやドキュメンテーションで伝える形をとった。

	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者に直接伝えるケース（例：色々苦手なことが多いY君が、プロジェクトを通して日に日に姿が変わっていった。その成長を感じさせたエピソードなど。） ・文章だけのお便りというよりは、写真をふんだんに取り入れコメントをつけるドキュメンテーションの方が伝わりやすいと思う。
D	<ul style="list-style-type: none"> ・ドキュメンテーションを廊下に貼って、保護者が来た時に見てもらおうようにしている。そこではプロジェクトの過程を示しているの、保護者が見て「あの子があのとき言っていたことが理解できました！」といった話が出た。新型コロナウイルス感染が始まってからは、保護者との交流がしづらいため、ドキュメンテーションはますます活用されている。 ・ドキュメンテーションによって、「今こうしているんだ」と保護者にはっきり理解され、とても共感をもってもらえるのだとわかった。
E	<ul style="list-style-type: none"> ・保育しながら、「今、プロジェクト活動の過程を踏んでるよ」と親に伝えたい気持ちがあるので、日々ホワイトボードやクラス便りに記入したり、写真や文を添えてドキュメンテーションを提示したりした。「子どもたちが家で生き生きと話してくれました」と親からのリターンも多く、保護者に伝えることは大切だとすごく感じた。 ・保護者の一人が書いて渡してくれた「春祭り（2月に実施）」の感想。「とても感動した。一部の決まった子だけが発言しているのではなく、一人一人が大きな声でみなに聞こえるように堂々と演じていて頼もしかった。もう一つの感動は、劇の内容が本ではなく、自分たちで考えたものであり、先生たちもそれに合わせて作曲してくださったということ。見ている方もとても楽しかった。色々できる子どもたちも素晴らしいが、担任の先生方が子どもたちの自主性を引き出し、想像力を大切に下さったことがとてもよく伝わり、本当に感謝している。」 ・子どもとの話し合いの中で、わからないことは「おうちの人に聞いてみてね」と声をかけるようにしていた。その結果保護者から「子どもにこんなことを聞かれました」とか「こんな工夫をすると面白いですよ」などと反応が返ってきた。 ・プロジェクトは、子どもにとって保護者との会話につながり、共感を得られるよい機会だと思う。保育所での取り組みが子どもから保護者へとつながることで、家庭での会話が増えてよい環境につながる。保護者が保育所の日々に興味関心を持ち、共に子どもの今を見つめる機会になることはとても大切だと感じた。
F	<ul style="list-style-type: none"> ・活動の過程をドキュメンテーションや園のお便りで保護者に伝えてきた。 ・プロジェクトの最初の発表の機会（春まつり）後、子育てに悩んでいた保護者から「子どもって親が手を引っ張らないで、背中を押してあげるだけでいいんだ」

「子どもを信じようと思いました」との言葉をもらった。こちらの意図が伝わった気がした。

・日々プロジェクトについて子どもが家でも話し、親が子どもの声に耳を傾け、子どもが調べたり作ったりする姿を見守る姿があった。

保育士らの実感として、プロジェクトにより親とのコミュニケーションが深まり、プロジェクトの過程で、様々な意見や感想が寄せられたことが確認された。特に、ドキュメンテーションを通して、三者間のコミュニケーションの増加傾向が読み取れる。質的な面についても、写真による情報量が増えるほど伝達力が向上する旨の回答も見られた。ドキュメンテーションの作成・展示の頻度や量、またその内容や質を高めていくことが有用であることが本質問項目から改めて明らかとなった。

(2)「プロジェクト活動」においては、小グループ（2～5人くらい）における子どもたち同士の関係とその相互作用が重要となります。

①小グループ内での子どもたちの関係はどうでしたか。

[表4] 小グループ内における子どもたちの関係

A	<p>・小グループだと、自分の意見を言えない子にとって、話しやすく意見を言いやすいように見える。意見を出し合えない同士のグループを作ったこともあるが、子ども同士よく話し合えるので、小グループの良さを感じた。</p>
B	<p>・小グループで、それぞれ自主的に活動に取り組むことで、描画や制作がとても苦手だった数名の子も、自発的に自分がやりたいように描いたり作ったりする姿が見られた。主体的になるとこんなに姿が変わるのか、と感動した。</p> <p>・小グループになると、意見を言える子が出てくる。気持ちが乗りきれていない子がいると、他の子が声をかけたり、自主的にまとめ役になったりする子も出てきた。</p> <p>・役割は代わる時もあれば、同じ子が何度もまとめ役になる場合もあったが、いつもだいたい「みんなでまとめなくちゃ」という流れが理解されていた。</p>
C	<p>・クラス全体で話し合おうとすると、自己主張の強い子たちが自分たちのことを優先しがちで、そこに周りが倣っていたが、小グループでは日々活動を重ねていくうちに、発信力の弱かった子たちも自分の意見を言えるようになり、自己主張の強い子たちもだんだんと折れることを覚え、相手の意見を聞く姿も出てきて、関係性に変化が見られた。</p> <p>・相手が妥協してくれたり、相手の意見を聞いて受け入れてみたりと、お互いを認め合う新しい関係性が生まれた。</p>

D	<ul style="list-style-type: none"> ・小グループに、配慮が必要な子がそれぞれ1人ずつ入っていて、その子には活動の意味がわからず、全体をかき乱してしまう。こうした難しさはあるものの一年かけてみて、子ども同士一緒にやっっていく中で、「あ、そうか。こういう風に言えば伝わるんだ」とか「～ちゃん一緒にやろうよ」とか言い始め、配慮が必要な子に対する理解ができていったと感じた。
E	<ul style="list-style-type: none"> ・小グループで話し合いをすることで、ノーマライゼーションができていて、一人の意見が出しやすくなり、譲り合いもスムーズになってまとめられると感じる。最初は保育士がメンバーを調整して、控えめな子も意見を出しやすいようにしたが、繰り返しの中で、最終的には誰とでも話し合いができるようになっていった。人間関係はとても良好に変化したと思う。 ・以前はポツンと一人になりそうな子もいたのに、小グループだとそうならないような子ども同士の関係ができていた。
F	<ul style="list-style-type: none"> ・全体での話し合いだと、最初のうちは各々が言いたいことだけを言っている姿があった。発信が弱い子と強い子の差があった。プロジェクトにおいて小グループで経験を重ねることで「こんなふうにしたい」とグループごとにイメージが膨らみ、明確となり、アイディや工夫が豊かになっていった。個々の制作スキルも向上した。ぶつかり合ったり、譲ったりしながら、人の話を聞いたり、自分の意見を言ったりと積極的に対話が行われ、相手を尊重するような空気が生まれた。自然に役割分担が生まれ、それまで発信が弱かった子に積極性も見られるようになった。

大人数ではなく少人数だからこそ生じる効果についての言及が多くを占めた。特に、発信力が弱かった子どもが主張できるようになること、相互に尊重しあい、相手の意見に耳を傾ける姿勢が身についたとする回答が多い。またこれに関連し、ノーマライゼーションの観点から好影響があったとする回答も見られた。

②小グループ同士の関係はどうでしたか。

[表5] 小グループ同士の関係

A	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ同士の交流は「劇」に向けて、というのがメインだったが、グループ同士でドキドキして台詞が言えない子に対して、自然にフォローできる姿が見られた。自主的に練習する姿を見ることができ、成長を感じた。
B	<ul style="list-style-type: none"> ・終わっていないグループがあると、他のグループの子たちがそれを見つけて自主的に手伝いに来ていた。 ・グループ同士で進行状況を見せ合った時に「すごいね！」と共感を示したり、励ましたり、「こんなやりかたもあるんじゃないの？」と意見を言ったりしていた。

	<p>そうした意見交換のおかげで、それぞれのグループの表現の広がりがあったのではないか、と思う。</p> <p>・当時1クラス25人で、2人の保育者（1人は加配）でプロジェクトを行ったが、ふだんの保育と違って小グループ（4，5人で5グループ）の活動だと、あっちもこっちも見なくてはならず、担任1人ではかなり大変だった。現状特別な配慮が必要な子も増えているので、理想的には3グループ、15人くらいだと、もっと声を拾ってあげて、一人ひとりを丁寧に見てあげられていいな、と実感する。</p>
C	<p>・かつてはクラスがみんなバラバラで、気ままで罵声を浴びせるような男児もいたが、小グループによるプロジェクトの過程でそのようなことがなくなった。本当によくここまで落ち着き、成長できたと思う。</p>
D	<p>・保育所には配慮の必要な色々な子がいるが、対等な立場での自分の立ち位置というのを子どもたちはそれぞれの小グループで学んでいくのだな、と強く思う。プロジェクトだと発表会を目的とするわけではないので、ゴールや「このくらいまでうまくやらなきゃ」ということでなく、お互いを認め合っていく過程と捉えることができる。子どもたちは本当に純粋にノーマライゼーションができています。</p>
E	<p>・「劇こんなふうにするよ」と互いに発表する時間があり、そこで話し合い後の報告をする際には、自分が所属するグループについて自慢げで、他のグループの話に対して興味を持って聞けるようになってきた。</p> <p>・「よくしよう！」ということが共通点なので、互いに良い刺激になっていったようだ。例えば誰かが欠席しても、自然に自分たちで調整して補完するので問題にならない、という状況だった。</p>
F	<p>・後半になると、各小グループで起こっていたことがクラス全体に広がっていった。役割分担が生まれ、それぞれが自分の役割に責任と誇りを持っているような感じだった。互いが尊重される（自分は自分でいい、君は君でいいというような感じが生まれた）。</p> <p>・視野が広がり、周りをみて配慮したりサポートしたりし合う姿があった。回を重ねていくと、大人が口を出さずに子どもの力を信じていることができるようになり、子どもが困った時には一緒に考えることを繰り返したことで、一人ひとりの主体性から、グループ同士の主体性へとつながっていったような気がする。</p>

他グループをフォローする姿や、共感や励まし、意見交換しあう姿が見られ対話が生まれた。小グループのそれぞれの様子を見守ることは、担任が一人体制では難しい点も指摘された。概ね(2)①の回答で得られた小グループ内で生じた好反応と同様の反応が、小グループ同士の関係においても生じていることが確認できた。

(3)「プロジェクト活動」において、保育者は、子どもたちをしっかりとみつめ、子どもたちの話に耳を傾けます。そして得た理解を用いて、子どもたちと共に、協力していく学びの過程の役割を担うと考えられます。プロジェクト活動で、そのような「学びの過程」を体験することができましたか。また、子どもと共にどんなことを学びましたか。

[表 6] 調査対象者の学びについて

A	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクト活動の中で、ある子が板でバイオリンを制作したが、穴を開けたとき音が出なかった。保育者としてもどうしていいかわからず、共に音を出すためにいろいろ試行錯誤し、子どもと共に学ぶ経験をした。そうして理解したことは忘れないと思う。
B	<ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトについての説明の際に講師が言っていた「子どもたちの声をよく聞いて、どうしたら子どもたちがやりたいことを実現できるか考える」という言葉がすごく心に残っている。そのことを実践してみたことが学びとなった。「そうだね」と子どもに共感しておしまいではなくて、どうしたらその子の思いを実現できるか?と本当に考えるようになった。そしてこのことが大きな学びとなった。 ・子どもたちの方が積極的に活動するようになっていた。その姿を見たことが学びとなった。(エピソード:いつもはおとなしい女児から「先生は黙ってて。はさみだけ貸してくれればいいの。みんなでできるから・・・」と言われた。)
C	<ul style="list-style-type: none"> ・音楽は楽しい、というところから始まり、自分たちの力でグループ分け、楽器決め、リズムを考え、みんなで心をつなげて演奏するという経験を。自分のパートだけではなく、周りの音も聴き、みんなで心をつなげて演奏するところまで体験ができた。みんなで楽しみながら、次はどうしようか、どうしたらもっと楽しくなるか、どうしたらもっと良くなるのか、期待を持ちながら、子どもたちの意見を出しあう姿を見ることができた。 ・子どもたちに任せることで、客観的に見る機会が増え、子どもたちのそれぞれ新たな面を発見することができた。みんなで楽しみながら、協力し合って、一つのものを創り上げていく素晴らしい経験ができた。
D	<ul style="list-style-type: none"> ・「主体性」という言葉の意味が曖昧で、研修などで聞きかじった程度。子どもの主体性を大切に保育、と言われても漠然としていて、保育指針についても理解はできても具体的な所をもっと知りたい。 ・子どもだけに任せておくのではなく、保育士が子どもの思考を広めたり、深めたりするサポートの役割があり、子どものディスカッションにも共に入っていく必要がある。子どもの考えを引き出すセンスも必要だと思う。 ・プロジェクトとその学びの過程は深く、もっと勉強しなければと考えている

	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士は、子どもだけに任せきるのではなくて、子どもの思考を広めたり、深めたりするサポートの役割、彼らがディスカッションにも共に入っていくことが必要なのではと考える。 ・子どもたちから考え方を引き出すセンスが大切だろう。何が問題点なのか、自分が保育士としてどうしたらいいのか、その案配が難しい。子どもの主体性を大切にする保育といっても漠然としていて、保育指針についても理解はできても、具体的に難しいところをもっと知りたい。 ・今はとにかくプロジェクト活動がどう実践されているのか、実際に他の園の事例も見てみたい。
E	<ul style="list-style-type: none"> ・「子どもの主体性を大切に」と頭ではわかっているが、実際は担任が主導してしまうことが今も保育の場で非常に多く見受けられるが、プロジェクト活動を経験して、保育士って楽しい、子どもってすごい、と感ずることができた。 ・子どもと共に学びの過程を私なりに体験できたと感じている。子どもと一緒に知らなかったことを知ったり、分からなかったことが分かったり、無からイメージを一緒に作り上げていく過程で、自らやりたいと感ずて行動することで、一つ一つの取り組み、発見、表現すべてのことが尊く、そこからあふれ出すパワーを感じた。 ・日々の経験全てが子どもの生きる力になるんだな、と感ずられた。それが自分にとって学びだったと思う。
F	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもの興味を知り、その興味が広がるようにさりげなく環境を用意すると、子どもが更に興味を持って、知ること・できることが楽しくなる。するともっと知りたい・もっとやりたい、と繰り返すようになり、スキルアップして、自分に自信が持てるようになる。周りにも目が行き、自分とは違う意見があることを知る。自分の意見を言うことができ、得意なことを率先してやろうとする。また役割分担が自然に生まれる。そして互いを尊重し合いながら、自分の力を精一杯出し合うことで達成感・自己肯定感・有能感を感じる、という学びの過程を体験した。 ・保育士として、子どもの力はすごい！と実感した。大人が子どもの学びの芽を摘んでいる場面が多いな～と反省し、子どもをもっとよくみてみよう、信じて見守ろう、より深く理解しようと思った。

プロジェクトにより子どもたちが学びを深めるためには、保育士自身が子どもを理解し、その成長を実感することが前提となるが、本調査において保育士自らが新たな知識や経験を得、保育の質を深め成長につながっていることを実感しており、子どもたちと共に「学びの過程」を体験していることが確認できた。プロジェクトの過程で、子どもに共感するだけで終わらず、一人一人の興味や思いをどのようにしたら表現したり、実現したりできるかを考えるようになった。また、子ども達の力を信じて任せることで、前より子どもを客観的に見る機会が増えたため、それぞれの子どもの新しい面を発見することができ

たという。子どもから得た理解や学びを基に、さらに深く望ましい理解や学びが得られるよう、子ども自身や親、環境への働きかけが必要であるとの示唆も複数得られた。

質問項目 2：保育所の空間環境についてお尋ねします。

保育所の空間環境が子どもに与える影響は大きいと考えられます。

保育所では、空間の美しさを創り出すことや、子ども自身の作品を展示すること、音の環境や居心地のよい空間にすることなどに、どのように配慮をされていますか。また、保育所の空間環境が今後どうあるべきだと考えますか？

[表 7] 保育所の空間環境

A	<ul style="list-style-type: none"> ・美しい空間はもちろん必要だと思うが、予算の範囲内でおこなうとなると現実的には難しい。限られた環境の中で、0歳では素材の優しい感じを大切に、例えば光がまぶしすぎないように、ちょうど保育所にあった薄手のオーガンディーの布を活用し隅っこ空間を作るなど、皆で工夫している。もっと予算があれば、今の保育に合わせて変えていけると思う。
B	<ul style="list-style-type: none"> ・レッジョ・エミリアでは、保育の空間は美しくあるべきだと考えられていると聞いているし、確かに空間の美しさは大切だと思うが、それをここで実現できてるかということ、制限がありすぎてとても難しい。とにかく一番大きな課題は部屋のスペース。必要なもの以外は置かない、すっきりした状態にするということを心がけている。できるかぎり整理して壁面もきれいにシンプルにしている。 ・プロジェクト活動を実践してみたが、理想を言えば、子どもたちが好きなときに制作できるアトリエのような部屋が一室あるといい。そこに行けば、いつでも素材や道具が揃っていたら、子どもたちの意欲が全然違うと思う。
C	<ul style="list-style-type: none"> ・いつでも自由に手にできる楽器や造形のコーナー、子どもたちが自由に描いてきた絵やお手紙などを飾ってあげるコーナーを設けるなど、限られた環境の中でできる範囲での工夫をしている。 ・子どもたちの作ったものを飾ってあげると、子どもは認められた気持ちから自己肯定感が高まる。またそれを目にした子は、字や絵に興味を持つ、など何かしらの刺激を受ける。見てもらえる場を作ってあげることは大切に考えているので、今後も継続していきたい。
D	<ul style="list-style-type: none"> ・空間環境が大切なのはよく理解しており、周りにも伝えていきたいが、なかなか環境まで手が回らないのが現状。 ・子どもの目の高さが乱雑にならないよう、目隠しに布を使ったり、観葉植物を置いたりするようにしている。(引っ張ったら危ない、植物に触ってしまう、という

	<p>批判もあったが、ずっとやり続けることによって子どもが布や植物に触らなくなる)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの動線に配慮している。去年2歳児クラスに発達巡回指導が入ったときに、コーナーの作り方に動線の配慮が必要と指導を受けた。翌日からみな座って作業に集中できるようになった。動線はとても大事だと思った。 ・保育所のハード面はしかたないが、インテリアは変えていける。
E	<ul style="list-style-type: none"> ・空間的には季節のものや、子どもが「これ面白かったんだよ」といって持ってきたものをうまく飾るように心がけている。子どもが保育所にいる時間、ここで生きる時間、環境（人的・物的）は心の栄養だと思っている。 ・保育士の言葉、選ぶ音楽、玩具、絵本、色・・・全てのものから環境が創り上げられると思うと、子どもに与えるものの美的センスは重要だと考える。 ・生活空間が豊かであればあるほど、心の豊かさにつながり、穏やかな心を育み、遊びが充実していくと思う。自分が見たもの聞いたもの、感じたことなど全部が自分を作っているんだな、と思うと、保育室の環境は大事だ。 ・保育士は個を大切にし、個を見つめることで子どもの興味関心を知り、その先の展開へつなげる環境を作っていく・・・その繰り返しが幼児期の生活であるべきだと感じる。その中で作られた作品を展示することは、個が大切にされる瞬間なので、見る人が素敵だ！と感じられるようにしたい。保育所はそうあるべきだと思う。
F	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の状況では、子どもへの配慮や思いがなさすぎると感じている。保育士同士の意識、興味の共有が追いついていない。一人一人を大事にすることを丁寧に考え、環境を整えていきたい（例：造形の素材選びなども・・・）

保育士らは、保育室の空間環境について、レτζョ・エミリアのように美しい保育空間が大切であり、生活空間の豊かさが心の豊かさにつながるの考えを抱いているものの、一方で、予算やスペースなどに制限があり、理想とする環境に近づけていく事の難しさを感じている。現状での具体的な取り組みとしては、自分たちのできる範囲で、造形コーナーや楽器コーナーなどのアトリエ的な空間を設けたり、子どもたちの制作物をできるだけ美しく見せる事ができるように飾ったりするなどの工夫が挙げられている。保育者それぞれが、子どもたちの興味関心に沿って、先の展開へつなげることのできる環境を整えようと努めている姿が窺える。

V おわりに

本研究では、保育所の1つのクラスにおいて、「子どもたち、親、保育士」がどのようにプロジェクトへ関わり、プロジェクトとの関わりによって、どのような変化が生じたか、またプロジェクトの実践に当たり、プロジェクトがどのような空間環境において実践

されたかその現状について調査し考察し、課題を探ることを目的としてきた。調査結果を踏まえ、プロジェクトの主要なメンバーである子ども、親、保育士に対するプロジェクトの与える影響についてそれぞれ再確認する。

まず、子どもたちは小グループでの活動を行うことで、子ども間の対話が促され主体的に活動を進めるのに有効であることを確認できた。小グループ同士の意見や考えの交流により、各グループの主体的活動が共感をもって理解され、協同的な学びが更に深まる様子が見られた。

次に、親については、子どもや保育士とのつながりの観点から見た場合、ドキュメンテーションが果たす役割が非常に大きなものであることが明らかになった。

そして、保育士らは、プロジェクトを通して、子どもたちが以前より意見を出し合ったり、協力し合ったりして主体的に活動に向かう姿を見て、子どもの「主体性」について更に深く考察する必要があると感じている。また、ドキュメンテーションを作成し、子どもたちとの対話を重ねながらプロジェクトを進めていく中で、保育士自身も子どもの潜在する能力への信頼、主体性を大切すべきこと、興味・関心に沿った柔軟な環境構成<emergent curriculum>などが重要であることを強く実感したことを確認した。

最後に、インタビューを行った保育所では、物的な空間環境については、レッジョ・エミリアのピアッツアやアトリエのような恵まれた環境にはなく、そうしたハード面での充実を現在望むことはできない。しかし、子どもが主体性を発揮し、保育士や親と協同して作業し、より効果的なドキュメンテーションの掲示などができるようにする等、各保育士が空間のデザインを工夫している様子が確認できた。

これらの調査分析を踏まえ、今回のインタビューで得た知見を基に、今後もレッジョ・エミリアの幼児教育に示唆を受けつつ、今後は日本の保育の在り方についてより踏み込んだ研究を継続していきたい。

謝辞

保育所で子どもたちと共にプロジェクトを实践され、本研究のためにお忙しい中、快くインタビューに応じて下さった、熱意ある保育士の方々に心より感謝申し上げます。

【参考・引用文献】

- 厚生労働省(2018). 『保育所保育指針解説』 フレーベル館
 佐藤学(監修)ワタリウム美術館編(2011). 『驚くべき学びの世界 レッジョ・エミリアの幼児教育』 ACCESS

- L. カッツ・S. チャード(著)小田豊監修・奥野正義(訳) (2004). 子どもの心といきいきとかわりあうプロジェクト・アプローチ 第2版 光生館
- C. エドワーズ・L. ガンディーニ・G. フォアマン(著)佐藤学・森真理・塚田美紀(訳) (2001).
子どもたちの100の言葉—レッジョ・エミリアの幼児教育 世織書房
- J. ヘンドリック(編) (2000). レッジョ・エミリア 保育実践入門 北大路書房

-
- i 文部科学省中央教育審議会 (2005) 子どもを取り巻く環境の変化を踏まえた今後の幼児教育の在り方について (答申)
https://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chukyo/chukyo0/toushin/05013102.htm
(閲覧日: 2022. 10. 22)
- ii 鹿戸一範・豊泉尚美・伊藤明芳 (2021) 「日本の保育現場に生かすレッジョ・エミリアの幼児教育アプローチ—プロジェクトの実践から—」秋草学園短期大学研究紀要 38 号
- iii 鹿戸一範・豊泉尚美・伊藤明芳 (2021) 「日本の保育現場に生かすレッジョ・エミリアの幼児教育アプローチ—プロジェクトの実践から—」秋草学園短期大学研究紀要 38 号 pp.45-47

*鹿戸 一範 秋草学園短期大学 幼児教育学科 准教授
**豊泉 尚美 秋草学園短期大学 名誉教授
***伊藤 明芳 秋草学園短期大学 文化表現学科 教授

[論文]

道徳の教科化において受け継がれるべき価値観に関する考察

*松木 久子

Having a Rethink on the Values Taken from the Postwar in Japan

Hisako Matsuki

キーワード: 道徳教育, 教科化, 歴史認識, 自由, 民主主義, 平和主義, GHQ

Key Words: moral education, subject, recognition of history, freedom, democracy, pacifism, GHQ: General Headquarters

要約: 2018(平成 30)年 4 月からは小学校において、2019(平成 31)年4月からは中学校において道徳が特別の教科として指導され始めている。「教科化」された道徳教育の指導において、過去を顧みることによって今後、受け継いでいくべき価値観について考察する。1945(昭和 20)年 8 月 15 日の敗戦を得て、その後、日本は自由や民主主義そして平和国家として戦後 70 年以上にわたって歩んできた。その意味を再度、問い直すべき時期を現在の日本は迎えていると考える。

Abstract: The moral education have begun teaching as a special subject at public elementary schools since in 2018 and at public junior high schools in 2019 in Japan. But there are still the yeas and nays, so I will have a rethink on the values taken from the postwar in Japan. Because we Japanese accepted the prewar mistakes and agreed to the freedom, democracy, pacifism and so on. Right here, we Japanese have a turning point so we will have to reconsider the postwar values again and again.

はじめに

昨今、選挙によって選出された国民の代表者と言われる衆議院議員が放った発言が、物議をかもし機会が非常に多く見受けられる。「同性愛者は生産性がない」などと人権を推進していく立場にある国会議員の発言とは思えないようなことを平気で言い放ち、人権侵害も甚だしい発言をした某女性衆議院議員や、「北方領土を戦争によって取り戻す」などと一見すると勇ましいと思えるどころか、実に浅ましい発言をかつての北方領土の住民であった人びとの前で言い放ち、ロシア（旧ソビエト連邦）とのこれまでの交渉や交流の経緯も踏まえずに言い放ち、「女性のいる店で飲ませろ!？」という人間としての品位も問われ兼ねない発言もしたおまけにしたという、すでに政界を引退した元某男性衆議院議員など枚挙に暇がない。第二次安倍晋三〔あべしんぞう、1954（昭和29）年9月21日～2022（令和4）年7月8日〕内閣において「道徳の教科化」が打ち出され、2018（平成30）年4月からは公立の小学校において、2019（平成31）年4月からは公立の中学校において学校現場でいよいよ検定教科書を用いた指導が始められているが、本当の意味で道徳の指導を必要としているのは、政策決定を行っている先に述べた国会議員ならびに時の権力に簡単に服従そして迎合し、改竄すべきではない文書を改竄したり破棄し、おかしなことをまことしやかなものにすり替えてしまう官僚の方々なのではないか、と思われる。

一国の首相としても自分の独自の歴史観に則って発言し、今後の日本の行く末に不安を生じさせている安倍晋三元首相の政治手腕や政策決定の経緯を鑑みても、海を越えた大切な隣国である中国や韓国に対する嫌中や嫌韓的な態度からして、本当に日本の今後の将来わざるを得ない。殊に安倍晋三元首相は自分の考えや政策に批判的な人びとを排除し、イエスマンやお友達内閣と揶揄されるような人員を周りに侍らせ集めている状況をみれば、かつての独裁者たちがとった手法と何ら変わらなかった。安倍晋三元首相が抱く歴史観については、近現代史や昭和史研究家でノンフィクション作家の保阪正康〔ほさかまさや、1939（昭和14）年12月14日ー〕氏などからも疑問の声が挙がっている¹。安倍晋三元首相が唱えた「戦後レジームからの脱却」という文言であるが、それは簡単に言えば戦前・戦中への回帰ということではなからうか。戦後日本の民主化を主導したアメリカ合衆国からも、安倍晋三元首相の歴史観に対して疑問の声が挙がっており、日米関係を重視するどころか危うくすることさえ招きかねない。戦前・戦中への回帰ゆえに、現行の日本国憲法の改正にことさらこだわっていたのも、そもそも権力を縛るための憲法を権力側に都合の好いような内容に改めるための壊憲ではないか、と疑念をもたれ大日本帝国憲法的内容に回帰しようとしている、と勘繰られても致し方ないのではないか。

誰もが自分らしく生きることができると社会の実現を図ることや、弱者救済といったことを積極的に行っていくことが国会議員の役割であると思われるのだが、コロナ禍が拍車をかける形で弱者はさらにつらい立場に追いやられ、世界を概観しても何となく1930年代の社会思潮に類似してきている、ということに対して本能的に危機を感じ始めているように

思われる。そうしたことを彷彿とさせることを、かつて大臣を務めていた政治家が見事にはっきりと「(ある日気付いたら、ワイマール憲法がナチス憲法に変わっていた) あの手口を学んだらどうかね」と喝破していた。この発言を聞いた時筆者は、やはりその気があるのかと納得しながらも、時の為政者の思惑通りになぜならなければならないのか、という疑問が湧き出したし、二度とかつての歴史の二の舞を踏まないようにするには、どうすればよいのかと思ひ悩み始めたのである。

昭和史研究の重鎮であった半藤一利 [はんどうかずとし、1930 (昭和5) 年5月21日生まれ] 氏が2021 (令和3) 年1月12日に残念ながら逝去されたが、「歴史はくり返すか」とか、「歴史から何を学べるのか」とか、耳にタコができそうな命題があり、なぜ歴史に学ぶのかというと、歴史をかたちづくっているのは、状況がどう変わろうと、変わる事のない人間であるからⁱⁱと述べている。国会議員の劣化が叫ばれて久しいが、少なからずそれなりの学歴や学校歴を兼ね備えた候補者が選出されているのだろう。学校教育において、少なからず歴史教育もそれなりに受けてきたはずであるにもかかわらず、先述したような発言をなぜするのか疑問に思う。世界の先進国の一国として名前を連ねているわりには不十分と言われる人権意識や、戦争という究極の社会的矛盾の回避を外交という手段で行ってもらうために、有権者は期待を込めて一票を投じているのだと思われる。国会議員となる前に、「身の丈」をきちんと弁えた人間として成長してきたのか、と失礼を承知で疑いたくなる有様である。

「道徳の教科化」が推進されてきた背景には、子どもたちによるいじめ自殺を防ぐという問題が関係していよう。昨今、子どもの心の荒廃といったことが問題となっているが、子どもたちを取り巻く大人たちの側の言動や行動こそが、荒廃しているからこそその結果の現れと捉える必要性があろう。人前に姿を晒し何らかの発言を必要とされる人びとを見れば、お手本にするには程遠い感じを受けることはしばしばあり、自分の手中にある権力を自分の思うように暴走させようとする幼児性さえ見え隠れし、人命を犠牲にしても何事もなかったように振る舞う理不尽さも目に付く。昔はよかったなどと口走る気もないが、筆者が幼い時はそれなりに、尊敬できるあるいは尊敬に値する大人たちの存在があったように記憶している。問題があると言われる人びとが関わった政権下において、「道徳が教科化」されたことをもう一度よく吟味する必要性がある、と筆者は常々考えている。

本論文では、道徳が「特別の教科」として教科化され、指導が開始されたことでそのことを鵜呑みにするのではなく、道徳を教科化することの疑問を絶えずもち続けながら、今後、本当の意味で充実させていくにはどうすべきかを考察していきたい。半藤一利氏が述べているように、殊に道徳教育のあり方については歴史や過去から十分に学ぶ必要性がある、と筆者は考える。戦前・戦中のいわゆる「修身」教育という指導において、誤った方向に若者や多くの人びとを誘導していったという深い反省なくして、道徳教育の充実などあり得ないというのが筆者の立場であることを申し上げておきたいと思う。

1. 不気味な歴史的共通点を考えてみる

現在でも時折 CM などでのその楽曲が使用され、50 年以上前の古いものであるが、改めて今聞いてみるとかえって斬新ささえ感じさせるものがある。殊に、植木等 [うえきひとし、1927 (昭和 2) 年 2 月 25 日～2007 (平成 19) 年 3 月 27 日) 氏がリード・ヴォーカルをつとめていたハナ肇とクレイジーキャッツの楽曲は、その典型ではないかと思われる。

「スーダラ節」の歌詞の一節の「わかっちゃいるけどやめられねえ」や、「ハイそれまでヨ」、「馬鹿は死んでも直らない」、「遺憾に存じます」というタイトルだけ見ても、変に納得してしまうものばかりである。実際に現在に至っても、音楽的にも非常に粋な楽曲のように思われる。彼らが歌った曲の中に、作詞：西島大・作曲：山本直純による「学生節」というものがある。その歌詞の 3 番に、道德教育のことが出てくる。「学生節」は今聞いても、何とも言えない皮肉に満ちており、いつの時代も同じだなあという感慨めいた内容で満たされている。また逆に言えば年月がどれだけ経とうとも、ものの本質は変わらないと思わされる面もある。半藤一利氏が述べていたように、どれだけ歴史が流れようとも、人間の本质は変わらないのかもしれない。だからこそ、「道德の教科化」という問題をおいそれと容易に受け入れることができないのである。

「学生節」の 1 番の歌詞は、「一言文句を云う前に ホリヤ親父さん ホリヤ親父さん あんたの息子を信じなさい ホリヤ信じなさい ホリヤ信じなさい」と始まる。2 番の歌詞は、「一言文句を云う前に ホレおふくろさん ホレおふくろさん あんたの娘を信じなさい ホレ信じなさい ホレ信じなさい」である。3 番目の歌詞が、「一言文句を云う前に ホレ先生よ ホレ先生よ あんたの生徒を信じなさい ホレ信じなさい ホレ信じなさい 道德教育 こんにちは おしつけ教育 さようなら あんたの知らない明日がある ホレ明日がある ホレ明日がある どっこいここは通せんぼ ここには入れぬわけがある あんたの生徒を信じなさい ホレ信じなさい ホレ信じなさい (下線部は筆者による)」である。この歌詞の「おしつけ教育」とは、「修身科」を筆頭科目として行われた皇国臣民を育成するための全体的な教育のあり方を指し示していよう。戦前・戦中における冷めれば・・・という言葉ではないが、過酷な戦争という状況で生命を落とさざるを得なかった人びとに対して、戦前・戦中の教育のあり方を推進しようと考えている人びとは、どのように申し開きをするつもりなのであろうかと考える。

下線部の歌詞の「道德教育」は、異色の文部官僚と言われた寺脇研 [てらわきけん、1952 (昭和 27) 年 7 月 13 日ー] 氏が指摘しているように、「1961 (昭和 36) 年度から実施の小学校学習指導要領が告示されたのは 1958 (昭和 33) 年のことであり、ここで初め「教科以外の教育活動」として「道德の時間」が盛り込まれた」ⁱⁱⁱことから始まった。筆者自身も、特別に設定された「時間」としての道德を指導されてきたのであり、「教科化」されるまでの道德の指導は「時間」としてのものであることは言うまでもない。教科としての指導ではないために、担当の教員の自由裁量で指導がなされたりなされなかったりとい

う、偏りが確かにあったことも否めない。しかし学校教育における全教育活動を通じて道徳の指導を行うことも掲げられていたため、道徳の「時間」だけに特化した指導ではなく、学活や部活動などにおいても道徳的指導はなされていたと捉えることができる。昨今、スポーツの国際的な大会などで、試合自体は日本代表チームが敗北しようとも、客席のゴミ拾いをして退場する日本人サポーターの姿に、世界中から称賛の声が挙がっていることを聞く。また、日本人選手たちは世界のどこで試合をしようとも、ロッカールームなどをきれいに使用することなども称賛されている。考えてみれば、いずれも道徳が「時間」として指導を受けてきた世代であろう。今後「道徳が教科化」での指導を受ける世代の人びとは、今現在言われている以上の日本人としての称賛を受けるようになることを期待したいところである。

戦前・戦中の「修身科」という教科における指導では、徳目主義に則ってひたすら徳目を子どもたちに教え込むということが行われ、徐々にお国のために自分自身を差し出すように仕向けられていたと言われており、洗脳教育と言われても弁解ができないことが罷り通っていたと言える。さらには検定教科書ならぬ国定教科書によって、特に第四期にあたる昭和8(1933)年より内容が「ススメ ススメ ヘイタイ ススメ」、という軍国主義的な内容に変化したのであり、天皇の臣民としてお国のために尽くすように徹底して価値観が押し付けられていたのであった。何の疑いを抱くこともなく、殊にお国のやることには一切疑問を抱くことなく、むしろ疑問などを抱かないように臣民たち自身で呪文を掛け合ってもいたのかもしれないが、「日本が負けるわけがない！」とお国から言われた戦争へと邁進していったことも、今となっては周知の事実である。このような経緯からしても、再び「おしつけ道徳 こんにちは」とならないように、注視していかなければならないであろう。それにしても安倍晋三元首相は、よく言われているように母型の祖父にあたる岸信介[きしのぶすけ、1896(明治29)年11月15日～1987(昭和62)年8月7日]氏の考え方を踏襲しているようで、現行の日本国憲法改正も祖父が実現できなかったことを、何としてもやり遂げようと意固地になっているように思われる。「歴史はくり返すか」という言葉ではないが、「道徳の時間」が特設されることが打ち出された1958(昭和33)年時に、首相を務めていたのは岸信介氏であったことを思い出すべきであろう。

「道徳の時間」が特設された背景については、碓井敏正氏が小・中学校の教員を目指す学生を対象に、長年にわたり教職資格科目の「道徳教育の研究」を教えてきた大学教員の道夫(専門は哲学・倫理学)と、小学校のPTAの役員を経験したことのある妻の徳子との間でなされた対話^{iv}という設定で著書を著しているが、その中の一節を引用してみたい。

「国家と道徳教育 徳子：戦後の一時期から「道徳の時間」が導入されたということだけど、それはどういう経緯からなの。道夫：そのきっかけは、日本の戦後の政治の転換点と言われている朝鮮戦争(1950年)の時に、愛国心を強化しようとした政府の思惑からなんだ。ただその時は教育課程審議会が反対したため、特別の時間を設けようという政府の狙

いは実現しなかった。その後、審議会の委員を入れ替えて政府の意に沿う答申を出させ、1958 年になってやっと「道徳の時間」が導入されたんだ。徳子：そんなことがあったの。敗戦（1945 年）から 13 年の間は特別の時間はなくて、全面主義の原則で道徳教育を行っていたわけね。道夫：当時はやはり、戦前のやり方に対する反省が教育の世界にも強く存在していたからだと思うよ。歴史を振り返ると、道徳教育が他の科目と異なって政治の影響を受けやすいということがよく分かる。どういう道徳的内容（徳目）を重視するかは、政治的立場によって異なってくるからね。徳子：道徳教育を通して、子どもを国の都合の良い方向に導いていくことなら問題ね。道夫：今回の教科化も政治主導で、中央教育審議会は当初教科化には慎重だった。しかし 2012 年に第二次安倍政権が成立してから、首相の私的諮問機関である「教育再生実行会議」が強力に教科化を推進したんだ（太字・下線部強調は、筆者による）。」¹ どうであろうか。

遺伝子 DNA は裏切らないというか、祖父と孫とで全くと言ってよいほどそっくりなこととか、いつの時代も変わらないことを行いつつあることが理解できる。自分が生まれ育ちそれなりに愛国心めいたものももっている者として、自国の首相経験者に対して厚顔無恥ということを行いたくはないが、少なくとも安倍晋三元首相の母型の祖父である岸信介氏は、昭和の妖怪と言われ A 級戦犯指定を受けた人物ではなかったのか、ということである。大日本帝国が空洞国家として造り出した旧満洲帝国に、それこそお国の宣伝とやらで日本国内の人びとを煽り植民者として移住させながら、敗戦となった時には何も責任を取らなかったと言われている人物が行いそうなことであるかもしれない。自分の祖父を尊敬するということは素晴らしい価値観であることは間違いないが、時の政府が推進し国策の誤り（村山談話）によって招かれた戦争によって、310 万人もの日本人の生命が犠牲となったのであり、アジア全体においては 2000 万人以上と言われている。国策の誤りの戦争を推進した旧勢力の中枢にいた人が、安倍晋三元首相の祖父岸信介氏であるし、安倍晋三元首相の誇りとする祖父の考えを踏襲しようとするのであれば、この先の日本社会や政治の行く末は誰が考えても、暗く不安に満ちたものとなろう。「歴史はくり返すのか」ということについて半藤一利氏が「歴史は単純にはくり返さないが、やはりくり返すものだ」と述べているように、「道徳の教科化」がかなり問題視されたことには、また戦前・戦中の過ちをくり返すことになるかもしれない、という懸念があるからと言える。

政治家たちの劣化ということが問題視されており、日本は世界でも非常に珍しい世襲議員という二世・三世あるいは四世が、親や親類縁者の地盤を引き継いで政治家になっているという現状がある。世襲議員を産み出すことには、有権者自身の責任も大きいと言わざるを得ないし、利権やしがらみがガチガチに絡みついている構造も関係していよう。「道徳の教科化」を推進しようとする政治家たちは、あの戦争においてその祖先が何らかの形で関わり、一財産を築いたなどと言われるようになりおいしい思いをしていた人びとの末裔であると言うのは言い過ぎであろうか。戦争となれば、政策として決定する人びとは

全く犠牲にはならず、一般国民が犠牲となるのであり、中でも非常に素直に上の人びとの言うことを疑いもなく受け入れる若い世代であることは、いつの世も変わらない構造であると言える。世襲議員の政治家たちを見ていると、自分たちの恵まれた特権は当たり前のことという感じが見て取れる。政治家の役割とはどのような時代であろうと、次の世代に理想や希望を積極的に示し、現状にある不都合なことを少しでもより良い方向へと改善していき、弱者を救いあげていくことではなかろうか。枚挙に暇がないことであるが、政治家たちの失言によってどれほど多くの人びとが傷付き、呆れているかということである。メディアが伝えないだけで、真面目に政治家としての職を全うし、国民や市民の生活を少しでもより良くしていこうと努力している人びとがいることは理解しているが、しかし国民に絶望を抱かせるような政策を平気で打ち出しながら、盲目的に国を愛せよと言わんばかりの愛国心強要など、言語道断だと言わざるを得ない。

政治家だけではなく、最近の官僚の方々の劣化も問題視されている。権力をもつ政治家に擦り寄り、忖度して政策を取り決め遂行していこうといういやらしい面が見え隠れしている。メディアにおいても、このところマスゴミなどと揶揄されるように、時の政権に擦り寄った都合のいい情報だけを流そうとするかのような様相を呈している。日本の国家そのものが、こぞって怪しい方向へ動いていこうとしているような印象である。保阪正康氏が1936（昭和11）年2月26日に起きたいわゆる「二・二六事件」後に、当時の日本の政治体制が変化したことを指摘し、「文部大臣や文部官僚は、「教育」の名のもとに日本国民から知性を封殺する役目を果たした。彼らは、「軍事によって文化は守られる」という時代の旗振り役をつとめた。」^{vi}とある。半藤一利氏も、「昭和初期、国家主義のナショナリズムをかきたてていた時代、国家の権力側にある人たちは、まず教育に手を出しましたよね。国家主義を育成し、さらに進展させるときには、教育改革から始まるわけですよ。」^{vii}と指摘している。過去においても現在においても、文部官僚だけではなく官僚の方々がすべて時の政府に擦り寄って、政策を曲げてしまっているわけでない。元文部事務次官であった前川喜平氏は、いろいろな場所での講演やメディアでの発言によって、第二次安倍晋三政権下で行われた教育政策についての危険性について述べ、炭鉱のカナリアではないが警告を発し続けている。

いつの時代においてもしっかりと物事を認識し、政治家たちに正論を述べ意見具申し批判をしている官僚の方々もいると思う。後の時代から振り返った時に、今現在という時は日本の国家の行く末の大転換点だったと言われることがあるかもしれない。なぜあの時、生きていた人びとは抵抗することをせず時の政府の言いなりになり、国家を危うい方向へ向けていくことに加担したのか、と言われる訳にはいかない。我われ日本人はユダヤの格言通りに、「歴史を忘れる民は滅びる」ということになってしまうのであろうか。国民が滅び去れば、愛国心を強要するところではないのは政治家でなくとも、想像できそうなものであろうか。愛国心などを強要されなくとも、素晴らしい国であれば、

自然と国を誇りに思うように考えられるがどうなのであろうか。国家から恐れられる愛国者となることも、立派な愛国心の持ち主であると言えるのではないかと思うが、せつかくであればそのような愛国者を目指すことが本当に国家のためになるように思う。

2. 今後を受け継ぐべき価値観について考える

戦前・戦中において日本人の心を縛っていた「修身科」そして「教育勅語」というものは、太平洋戦争終結後、日本を占領した GHQ (General Headquarters) によって廃止されたもの、と筆者はこれまで思ってきた。森口朗氏もそのように思ってこられた、というよりも信じてこられたことが「筆頭科目として、学校教育において重要な位置を占めていた修身でしたが、敗戦直後の 1945 年 12 月 31 日に GHQ から出された「修身、日本歴史「及び地理停止に関する件」(いわゆる「三教科停止命令」)により停止されました。恥ずかしながら、私は最近までこの指令により修身が葬りさらされた、すなわち「修身科」を葬ったのは GHQ だと信じていました。」^{viii}、と述べている。確かに戦後の混乱もあったと思われるが、森口朗氏も指摘しているように、「修身科」が葬られた経緯はそれほど単純ではないということである。さらに森口朗氏によると、「すなわち、GHQ の指令は三教科の停止に過ぎず、GHQ は、道徳教科書を改訂して復活させれば良いと考えていたようなのです。確かに、日本歴史も地理も装いを新たにしておいて教科が復活していますから、GHQ が「修身科」に限り復活を許さなかったとしたら、その証拠書類や伝聞証拠があるはずで、ところがそんな証拠はないどころか、戦時中のアメリカでの日本研究では大正デモクラシーの影響が濃かった第 3 期修身教科書が高く評価されており、それに戻す意図さえ持っていたのです。」^{ix}ということである。

「修身科」が停止され、先述したように「道徳の時間」を特設するまでの 13 年間においては、GHQ 内に設置されていた CIE [Civil Information and Education Section (民間情報教育局)] との折衝を通して、市民・公民に必要な教育を実施する「公民教育構想」を企図し、道徳教育を抜本的に改編しようと考え、道徳と社会認識を結合させた「公民科」の創設が考えられたが、CIE から「公民科教育構想」は占領政策違反と捉えられ、「公民科」ではなく「社会科」を設置するように求められるなど、紆余曲折があったのである。当時の日本に主権がない状況から判断すれば、GHQ が「修身科」を葬ったと捉えることはできようが、先述したようにあくまで GHQ は停止をしたのであって廃止したのではなかった。そこで「誰が廃止したのか」となると、森口朗氏も指摘しているように、「修身科」を葬ったより大きな責任は文部省にある^x、ということになる。ここでもまた、言うなれば GHQ に対する忖度が当時は働いた、と考えることはできないだろうか。このような経緯を見ても、また先述したように安倍政権への忖度としか考えられないこの度の「道徳の教科化」であるが、文部科学省を含めて全くの日和見主義的な政策としか言いようがない。さらに問題だと思われることは、誰も決して責任を取ろうとしない体制が、いつの時代に

も罷り通っていることだと思われることである。そう言えば、太平洋戦争の戦争責任についても、これまで日本人の手によってなされてきたことはなかったのではなかったか。

安倍晋三元首相への付度といっても、確かに安倍一強と言われたように戦後最長の政権を担当をしていたとしても、いずれは退陣するときがくることは確実である。昨今、「歴史認識」という非常に問題性を感じる言葉が跋扈しているが、歴史を適切に学ぼうとする気がないのは、文部科学省（旧文部省）の官僚の方々をはじめ政治家たちということになるだろうというものである。先にも述べたように、保阪正康氏による指摘だけではなく、安倍晋三元首相の歴史観には明らかに問題があり、特に歴史修正主義的な歴史観ということが言われており、世界からも抗議を受けているにもかかわらず、全く本人には自覚がないように意に介さずの状況である。戦後 70 年以上をかけて国民一人ひとりの努力により、時には多少失敗をしながらも第二次世界大戦以降に出来上がった国際秩序を受け入れ、その秩序の維持に我われ日本人は貢献してきたはずである。また、世界からもそうした日本の貢献に対して信頼を寄せられ、日本の存在が認められてきたのではなかったかと思う。そして何よりも日本国憲法第 9 条の存在によって、「戦争をしない国」という非常に重要な価値観があるからこそその信用をも得てきたのではなかったとも思うのである。今や、改憲ならぬ壊憲を行おうとさえ思っているのではないかと、と思われる安倍政権の危険さに対しては、国民一人ひとりが気付き始めつつあり、声を挙げ始めつつあるようになってきているように思う。また、沖縄県の辺野古沖の代替基地建設を巡っても、安倍政権やその後を引き継いだ菅政権においても、十分な説明責任を果たしているどころか、沖縄県との話し合いには応じずに理解を得る努力をしようともしていないことも明らかで、非常に強権的に事を運ぼうとする姿勢には疑問が呈されている。国会答弁においても数々の嘘をついたと言われることも大問題であると思われるし、国会軽視という問題で言えばまるきり国民をバカにしていることになり、あれほど森友や加計学園の問題や桜を見る会についても丁寧に説明すると言いながら、国民が納得できる説明を聞くことには至っていない状況であり、政治責任を果たしているとは言えないことから考えると、到底そのような人が提唱する「道徳の教科化」などという政策を鵜呑みにすることはできないと言える。

安倍晋三元首相をはじめ改憲勢力と言われる人びとの現行の日本国憲法に対する理解は、戦後の占領政策を推進した GHQ からの押し付け憲法というものであろう。しかし、果たして本当にそうであろうか。保阪正康氏が指摘しているように、安倍晋三元首相の歴史観には問題がある、と言われている事実からして、しっかりと当時の太平洋戦争の歴史について充分すぎるほど学んでいると言えるであろうか。筆者自身も近現代史について十分に学んでいるとは言えないが、それでも安倍晋三元首相の主張を聞いた時には、時折ずいぶん一方的な見方に基いて発言している、と思うことが多々あった。確かに物事の

現在だけではなくこれまでも問題視されてきたことであるが、大学受験体制による最大の弊害と言われているように、我われ日本人は近現代史をきちんと学んでいないことであ

る。このことは、中国や韓国から事あるごとに指摘もされている。あの当時に行われたことについて、戦後世代が責任を負うことは不可能であろう。しかしながら、自国が当時行ったことを適切に知ることなく、無知のままであることの罪の方が大いに問題であろうと思う。歴史を学ぶということは、二度と同じことをしない、ということにあると思われる。日本の戦後におけるあの戦争との向き合い方でよく引き合いに出されるのは、同じ敗戦国となったドイツであろうが、ドイツでは徹底的に学校教育においてあの戦争時に、自国が何をしたのかということ学んでいると言われている。しかし十分に意識的に学んでいるはずのドイツにおいても、昨今、ネオナチの台頭などが問題となっているのが現状である。やはり半藤一利氏が指摘しているように、全く同じように歴史はくり返さないがそれでも歴史はくり返す代物なのである。

太平洋戦争においては我われ日本人も多く犠牲者を出したのであるが、アジアの周辺諸国にも多大な迷惑をかけたのであった。しかしながら、筆者も学校教育において指導を受けてきた戦争についての内容は、日本は唯一の被爆国といった原爆被害のことが主なものであり、どちらかという戦争の被害者といった立場からの理解が強かったように思われる。それゆえ、日本が戦争中に行った加害の面の内容理解はほとんどなかったように、記憶しているのである。こうしたことから戦争についての理解の仕方も、年代によっては片手落ちのような内容となってしまっていると言えるのではないかということである。やはりしっかいとした愛国心をもつようになるためにも、自国の歴史についてはしっかりと学ぶ必要があるということが言える。また、我われ日本人の特徴でもあるとも言えることであろうが、熱狂してしまう面があるというか、熱しやすく冷めやすいといった国民性についての理解もなされていないと思われることである。敗戦後の内閣を担った東久邇宮稔彦氏が言ったといわれる「一億総懺悔」と言った文言に見られるように、惨たらしい戦争をある意味一生懸命に担って煽っていたのは、当時の日本国民一人ひとりであったことは間違いがないのであり、時に我われ日本人は冷静さを忘れ、良かれと思って邁進してしまうことを考えると、それは今日に至ってもこのような傾向はそう簡単には変わらないと思われるからである。確か「一億総懺悔」という言い出す前には、「一億総玉砕」という言葉に酔いしれていたのではなかったのか、という問題である。

我われ日本人は、どうもこの「一億総・・・」という文言が好きだと言える。安倍晋三元首相も、「一億総活躍社会」と言っていた。ただ皮肉なことであるが、現在は日本人の人口は一億人以上であることである。戦前・戦中は、当時の植民地の人口を含めてやっと約一億人の人口であったのである。このことからすると安倍晋三元首相は、一億人は守るけど残りは切り捨てという政治判断をしていることになってしまうかもしれない。どうもこのような発言から考えても、安倍晋三元首相の発想は戦前・戦中の考え方だということ、半藤一利氏と佐藤優氏の対談から導き出されているのであるが、安倍晋三元首相が考えていた「一億総・・・」は「絶対国防圏」の思想だと思う^{xi}という指摘に表れている、

と考えられる。もう一度問わずにはいられないが、歴史観においても思想性においても完全に戦前・戦中の考え方に捉えられている政権下において、政策として打ち出されてきた「道徳の教科化」について諸手を挙げて、疑問を呈することなく受け入れて推進していったのかどうかということである。どうも危険性が、漂っていると思われるのである。おわりに

安倍晋三元首相の頭の中は、やはり戦前・戦中の価値観で満たされていることは、間違いないようである。だからこそ、「道徳の教科化」ということを言い出すのであろう。ここで保阪正康氏が指摘していることであるが、少し気になることに触れておきたいと思うのである。それは「戦間期の思想」^{xii}というものである。「戦間期の思想」というのは、戦争と戦争の間の期間のことであり、1914年から18年までの第一次世界大戦、1939年から1945年までの第二次世界大戦というように、1918年から1939年の21年間のことを指すのである。周知のように第一次世界大戦で大敗したドイツに対し、天文学的数字と言われた莫大な賠償金を戦勝国が課すことになり、そのためにドイツ国内の経済状態が破綻しそうした中で、ドイツ国民の不満を適切に利用して躍り出てきたナチスが政権を取ることになり、「復讐戦」として第二次世界大戦を始めたことを指している。戦前への回帰と疑われてもしょうがないような「道徳の教科化」や、安倍晋三元首相をはじめとする歴史修正主義者たちの台頭などにより、70年以上にもわたり「戦間期の思想」をもたずにきた日本も、いよいよ新たな戦争への準備をし始めたという理解がなされかねないということである。特に、日本の歴史教科書表記の問題に対して苦言を呈してくる韓国や中国をはじめとして、他のアジア諸国もやはり日本は本当の意味で、反省をしてはいなかったではないかと思われ、戦後70年以上にわたって平和国家だと言っただけでは、本質は戦争好きな国家であったというように言われかねないということである。そして世界からも、日本は結局信用のおけない国である、と見なされることになろう。70年以上にわたって必死になって、日本が一度失った信頼や信用を回復してきた努力を、一瞬にして失うことになろう。

子どもたちの間で横行しているいじめの問題ではないが、被害を受けた側というのは年月がいくら経過しようとも、自分の身に受けたことは決して忘れない、ということであろう。戦争で被害を受けた国というのは、200年間にわたってそのことを記憶し続ける、とも言われている。先述したように、日本においては近現代史を十分に学んでいるとは言えない状況である。しかも文書改竄ではないが、1945（昭和20）年8月14日あるいはそれ以前から、軍部の命令の下、重要書類の大半が焼き払われてしまったという事実もある。やはり歴史はくり返す、のではなからうか。太平洋戦争終結後、瓦礫と化した焼け跡からまた物資も不足した貧困というどん底の状態から歯を食いしばって、何とか今日に至る繁栄を謳歌する国となった日本は、世界から平和国家として信頼や信用を得ることになったのではなかったのかと思う。よく言われるように、信頼や信用を勝ち得るときには時間がかかるが、失うのは一瞬のうちであるということである。日本が戦後、世界から信用さ

れるに至ったことは、過去を真剣に反省し、民主主義国家として不十分ながらに努力してきたことや、何にもまして戦争を放棄するという平和国家としてのこれまでの歩みであろう。

今後この日本が受け継いでいくべき価値観とは、不十分と言える近現代史に対するしっかりとした理解と、殊に 310 万人もの日本人の尊い生命を犠牲にした太平洋戦争がなぜ起きたのかということや、どうして必敗の戦争を遂行したのかということについて、深く学んでいくべきであろうと思われる。そして、悲惨な戦争を経て得ることになった戦後の価値観をもう一度、冷静に見つめ直し熱狂や一時の感情論に流されることなく、今日の繁栄に至った自由と民主主義や平和主義ということをよく考え直すことであろう。文部科学省の元事務次官を務めた前川喜平氏も指摘しているように、明らかに「道徳の教科化」は、戦前・戦中の修身科の復活であると言える。2度と同じことを繰り返さない、という誓いをよく肝に銘じた上で、慎重に指導をしていくべき問題であると言える。

2019 (平成 31) 年は、日本においては新元号の時代を迎えた。そのお祝いムードに花を添える意味にもなったラグビー・ワールド・カップの試合であったが、日本代表チームの活躍もさることながら、にわかにラグビーファンが生まれたとは言え、ラグビーに魅せられた人びとの深層心理には、見るからに体が大きく強いと思われる相手に果敢に立ち向かい、ひるむことなくひたむきに立ち向かっていく選手たちの態度に酔いしれたのではなかったのではないだろうか。それは翻して言えば、国家という強大な存在に対しても、果敢にひるむことなくひたむきに立ち向かっていく必要性を、我われ日本国民に思い起こさせたというのは言い過ぎであろうか。歴史は、人間が創っていくものである。そして人間とは往々にして間違いを犯すものであり、その反省の下に今日に続く世界が創られてきたのであろう。少し前の CM の文言ではないが、「反省はサルでもできる」というものがあつたが、ましてや人間をやではないか。真剣な反省に基いて、戦後日本社会が形作られてきたのであり、そのことをもう一度思い起こす時ではないかと筆者は思う。特に、「道徳の教科化」が打ち出された今、非戦の誓いを世界に対して行い戦後社会を再出発させ、民主的な文化国家としてこれまで歩んできた戦後という社会のあり様を、もう一度思い出すことから今後の日本の道徳が本当の意味で問われていく新時代を迎えたと言えるのである。

ⁱ 保阪正康著、『安倍首相の「歴史観」を問う』、講談社、2015 年 7 月 28 日 第一刷発行、6 頁から 9 頁

ⁱⁱ 半藤一利著、『語り継ぐこの国のかたち』、大和書房、2018 年 10 月 30 日 第一刷発行、283 頁から 284 頁

ⁱⁱⁱ 寺脇研著、「危ない「道徳教科書」」、宝島社、2018 年 9 月 15 日 第一刷発行、53 頁

^{iv} 碓井敏正著、『教科化された道徳への向き合い方』、かもがわ出版、2017 年 9 月 20 日、第一刷発行、1 頁

-
- v 前掲書、22 頁から 23 頁
 - vi 保阪正康著、講談社文庫『昭和史 七つの謎』、講談社、2014 年 8 月 1 日、第 24 刷発行 33 頁
 - vii 半藤一利・保阪正康著、文春文庫『ナショナリズムの正体』、文藝春秋、2017 年 9 月 10 日 第1刷、54 頁
 - viii 森口朗著、新潮新書 783『誰が「道徳」を殺すのか —徹底検証「特別の教科 道徳」』、新潮社、2018 年 9 月 20 日発行、20 頁
 - ix 前掲書、20 頁から 21 頁
 - x 前掲書、23 頁
 - xi 半藤一利・佐藤勝著、文春新書 1072『21 世紀の戦争論 —昭和史から考える』、文藝春秋 2016(平成 28)年 5 月 20 日、第一刷発行、181 頁から 182 頁
 - xii 保阪正康著、『安倍首相の「歴史観」を問う、21 頁から 24 頁

[その他の参考文献]

- ・浪本勝利, 岩本敏郎, 佐伯知美, 岩本俊一編、『史料 道徳教育を考える』、北樹出版、2010 年(3改訂版)
- ・教育史学会編、『教育勅語の何が問題か』、岩波ブックレット No.974
- ・平井美津子著、『教育勅語と道徳教育 —なぜ、今なのか』、日本機関紙出版センター、2017 年
- ・想田和弘著、『日本人は民主主義を捨てたがっているのか?』、岩波ブックレット No.885
- ・中西新太郎著、『保育現場に日の丸・君が代は必要か?』、ひとなるブックレット、No.3
- ・辺見庸著、『完全版1★9★3★7(上・下)』、角川文庫 20059、平成 28 年
- ・神奈川新聞「時代の正体」取材班編、『時代の正体 —忘却に抗い、語りつづける vol.3』、現代思想新社、2019 年 7 月 15 日、初版第1刷発行
- ・半藤一利編・解説、文春新書 1204『なぜ必敗の戦争を始めたのか —陸軍エリート将校反省会議』、文藝春秋、2019(平成 31)年 2 月 20 日、第1刷発行
- ・半藤一利著、PHP 文庫『アメリカはいかに日本を占領したか —マッカーサーと日本人』、PHP 研究所、2019 年 6 月 17 日、第1版第1刷
- ・半藤一利著、文春文庫『あの戦争と日本人』、文藝春秋、2013 年 7 月 10 日、第1刷
- ・半藤一利・保阪正康著、文春文庫『そして、メディアは日本を戦争に導いた』、文藝春秋、2016 年 3 月 10 日、第1刷
- ・保阪正康著、朝日選書 715『昭和史の急所 —戦争・天皇・日本人』、朝日新聞出版、2019 年 5 月 30 日、第1刷発行
- ・保阪正康著、新潮新書 125『あの戦争は何だったのか —大人のための歴史教科書』、新潮社、2015 年 6 月 25 日、40 刷

*松木 久子 秋草学園短期大学 幼児教育学科 准教授

[論文]

生命（いのち）の安全教育の取組みに向けて
—保育学生における「性教育」の意識調査—

*味田 徳子

Toward Life Safety Education Initiatives.
-A Survey of Child Care Students' Attitudes toward Sex Education -

Noriko Mita

キーワード： 性教育、デートDV、妊娠、生命、安全教育

Key Words: sex education, dating DV, pregnancy, life, safety education,

要約： 文部科学省・内閣府の共同事業として、「生命（いのち）の安全教育」が始まった。その教育対象は、幼児～大学生までであるが、果たして今の大学生は、どのような性の知識・意識を持っているのであろうか。また今後幼児教育の現場において、子どもたちに対応していく上で、正しい「性」の知識が理解できているのであろうかということに疑問を持った。

本研究では、幼児教育・保育を目指す現役女子短大生（以後、保育者養成校の学生とする）が、これまでの教育課程においてどの程度の「性」に対する知識を持っているのかを調査し、その結果をもとに、「生命（いのち）の安全教育」を支援するプログラム（授業）を実施し、評価・考察し、その後の幼児教育の現場へ活かしていくことを目的とした。

調査の結果から、性感染症の知識不足、自分の身体の調整（基礎体温）についての理解不足や「生命（いのち）の安全教育」の知名度の低さがわかった。この結果を元に授業内容を構成し、授業効果の分析を行った。結果として、全体的に授業の効果はあったが、1コマ90分の授業では、限られた内容での授業になることや、今後現場においての子どもたちへの教育につなげて行かなければいけないことを考えると、教育カリキュラムを再構築する必要性などの課題も見出すことができた。

1, はじめに

「性」を取り巻く情報は巷に溢れており、近年のネット環境の変化により、すぐ手に入るようになってきた。それゆえ、その周辺には「性」に絡んだ犯罪も増加しており、警察庁の調査⁽¹⁾によれば、児童虐待の全体件数こそ減少傾向であるが、児童ポルノといった事件の増加がみられている。これは、被害にあっても対処することのできない子どもたちの命が脅かされている現実があるといえよう。それを防止するために、令和2年から令和4年を強化年として文部科学省及び内閣府が、共同で「生命（いのち）の安全教育」に取り組んでおり、さらに今後、教育機関における授業展開を拡大していく予定である。この取組みの対象年齢は、幼児～大学生までと幅広い。保育者養成校は、この取組みの受講対象者であるとともに、幼児に向けて教育を行う保育者・教員を養成する機関でもある。「命（いのち）を守る安全教育」の内容を学生自身に理解してもらうことはもちろんのこと、今後保育者として対応していく子どもたちへの「生命（いのち）の安全教育」についても授業展開していく必要があると思われる。

「生命（いのち）の安全教育」とはどのような内容であろうか。文部科学省および内閣府が示した内容によると、「発達の段階に応じた、『生命（いのち）を大切にする』『加害者にならない』『被害者にならない』『傍観者にならない』ための教育を実施すること。具体的には、生命の尊さを学び、性暴力の根底にある誤った認識や行動、また、性暴力が及ぼす影響などを正しく理解した上で、生命を大切に考える考えや、自分や相手、一人一人を尊重する態度等を、発達段階に応じて身に付けることを目指すもの」⁽²⁾とされている。これは「性教育」を行うことそのものではないが、発達年齢に合った「性」についての正しい知識のもとに、命・自分を大切にすることが最終的な教育目標である。

また学校における「性教育」の考え方・進め方（千葉県）によると、「性教育」の目標は、「児童生徒の『人格の完成豊かな人間形成を究極の目的とし、人間の性を人格の基本的な部分として総合的にとらえ、科学的知識を理解させ、児童生徒が生命尊重、人格尊重、男女平等の精神に基づいた異性観をもつことによって、自ら考え、判断し、意思決定をする能力を身につけ、望ましい行動を取れるようにする』こと」⁽³⁾とある。先述した「生命（いのち）の安全教育」の目標は、言うなれば「性教育」の目標と言っても過言ではない。そこで、保育者養成校において「生命（いのち）の安全教育」の授業を行う前に、さまざまな教育課程、家庭環境を経てきた学生が、現段階でどのような「性の知識・意識」を持っているのかなど「大学生自身の性への理解」に興味をもった。

本研究は、保育者養成校（短期大学）の学生が、どのような性意識・知識を持っているかを把握したうえで、90分授業内で必要な項目を補い、「生命（いのち）の安全

教育」を支援するプログラム（授業）を実施し、評価・考察し、その後の幼児教育の現場へ活かしていくことを目的とした。

2, 研究方法

2-1, 対象および調査手順

保育者養成校の C 学科 3 年生 48 名、Y 学科 2 年生 104 名、C 学科 1 年生 61 名の合計 213 名を調査対象とし、2022（令和 4）年 6 月～7 月に、秋草学園短期大学倫理委員会へ申請し承認（第 2022-2）を得た後、以下の手順にて調査を実施した。

- (1) 調査方法は、classroom 内で Google フォームを使い、無記名式アンケートとした。事前説明を行い、同意を得た学生のみアンケートへの回答をスマートフォンに入力してもらった。
- (2) 授業前アンケート：各学科ともに 6 月中に説明を行い、入力期間を 1 週間とした。
- (3) 授業後アンケート：C 学科 3 年生および Y 学科 2 年生は、第 15 回「子どもの健康と安全：母子保健」、C 学科 1 年生は、第 14 回「短大基礎講座：女性としての学び」で 7 月に講義（1 コマ 90 分）を行い、授業終了直後に実施した。

2-2, 質問紙作成・内容

質問紙は、4 つの項目に分けて研究者が作成した。

【項目 1～4】は、授業前に行い、考察を授業内容の検討に用いた。また【項目 2～4】は、授業後にも同じアンケート内容で調査し、授業前・後のアンケート結果の比較検討を行い、授業効果を測った。

〈アンケート内容〉

【項目 1】これまでの教育課程における「性教育」の受講状態、満足度

- 1) 教育課程での「性教育」の受講の状態（有無、初回受講の時期、回数）
- 2) 「性教育」の内容
- 3) 「性教育」の満足度
- 4) 「性」について（相談相手の有無、情報を得る方法）

【項目 2】現段階での「性」についての知識

- 1) 男女の体の違い
- 2) 月経・排卵のメカニズム
- 3) 妊娠・避妊について
- 4) 自分の月経周期について
- 5) 性病（＝性感染症）名について

【項目 3】現段階での「性」についての意識

- 1) イメージ

- 2) 意思表示ができるか
- 3) 望まない妊娠について (原因など)
- 4) 「性」教育の必要性、始める時期

【項目 4】 現段階での「生命 (いのち) の安全教育」について

- 1) 認知度
- 2) 言葉のイメージ

2-3, 分析方法

分析方法は単純集計を行い定量分析とし、構成比の比較や傾向をみて行った。またアンケート回収状況に関しては、 χ^2 乗検定を行い P 値によって評価した。

2-4, 倫理的配慮

アンケートの回答に要する時間は、10 分程度であるが、できる限り身体的・精神的負担を軽減するために、事前に無理のない範囲で回答してもらうよう口頭にて説明し、実施した。また回答しないことで不利益が生じないように、回答内容は、成績に関係がないこと、回答を論文に掲載する際には回答者が特定されないこと等を調査協力依頼文に記述した。対象者からは、回答の提出をもって、同意を得たこととした。なお、本研究は秋草学園短期大学の研究倫理委員会にて承認を得た。(承認番号 2022-2)

3, 結果

3-1, 対象の属性および回答状況

授業前アンケートは、学年合計 213 名中、研究の主旨に同意した 167 名からの回答があり、その全てを採用した (回答率 78.4%) (表 1)。授業前アンケートの説明時、欠席していた学生もいたため、研究目的を classroom にアップロードし入力期間を 1 週間設けた。授業後アンケートは、授業当日欠席であった 24 名を除いた 189 名を対象とし、167 名からの回答が得られ分析対象とした (有効回答率 88.9%)。分析対象の中には一部の質問に回答していないものもあったが、回答部分を採用することとした (表 2)。

対象の属性			授業アンケート (前)		受持ち授業
クラス	履修者数	学年合計	実回答者数	実回答数 (率)	
C 学科	1A	30	61	20	41(67.2)
	1B	31		21	
	3A	23	48	23	42(87.5)
	3B	25		19	
Y 学科	2A	36	104	31	84(80.8)
	2B	32		24	
	2C	36		29	
合計	213	213	167	167(78.4)	

n (%)

表 1 授業前アンケート 回答状況

対象の属性			授業アンケート (後)				受持ち授業
クラス	履修者数	学年合計	欠席者 (授業当日)	対象者	実回答者数	有効回答数 (率)	
C 学科	1A	30	61	4	26	21	48(84.2)
	1B	31		0	31	27	
	3A	23	48	7	16	16	39(100)
	3B	25		2	23	23	
Y 学科	2A	36	104	5	31	31	80(86.0)
	2B	32		3	29	29	
	2C	36		3	33	20	
合計	213	213	24	189	167	167(88.3)	

n (%)

表 2 授業後アンケート 回答状況

3-2, 生命 (いのち) の安全教育 授業前アンケート結果

3-2-1, 【項目1】教育課程における「性教育」の受講の実態

これまでの教育課程において、「性教育」を受けたことがあるかの問いに対し、「ある」は156人(93.4%)、「ない」は11人(7.7%)であった。「ある」と答えた学生に、初めて「性教育」を受けた時期を尋ねたところ、小学校が84人(52.8%)、中学校が61人(38.4%)で、高校12人(7.5%)の順であった。

「性教育」の受講回数に関しては、1回が14人(9.1%)、2回が31人(20.1%)で、残りの半数以上は、3回受講済みであった。「性教育」の内容については、(図1)に示した。

「性教育」の満足度は、やや満足～満足と回答したのが、133人(79.2%)であった。不満と答えた人に、自由記述でその理由を書いてもらったところ、①サラっとしている、内容が薄い15人 ②現実味がない、自分には関係ない3人 ③内容を覚えていない、身につけていない5人 ④日本は遅れている、最新情報ではない7人の4つのカテゴリーに分けられた。

また「性」についての相談相手はいるかの問いに対して、「いる」が128人(77.7%)であり、その内訳として、「恋人等」が102人(78.5%)で、一番多かった。「親」は54人(4.5%)で、「学校の教員」は7人(4%)であった。その他と答えたものの中には、産婦人科医や娘(いずれも1人)と回答していた。

「性」の情報の入手方法として、一番多かったのは教員・授業で66人(40%)、友人が55人(32.9%)、メディア・雑誌が44人(26.3%)であった。



図1. 「性教育」の受講内容

3-3, 生命 (いのち) の安全教育 授業前・後アンケート結果

3-3-1, 【項目2】「性」についての知識

男女の体の違い、月経・排卵のメカニズム、妊娠・避妊、自分の月経周期、性病の名前を知っているかについて、「まあ理解できている～理解できている」という回答をまとめて、項目別に作成した(図2)。具体的に性病の名前をいくつ知っているかについて尋ね

たところ、授業前アンケートでは、「知らない」が17人(10.2%) 「1つ」が51人(30.7%) 「2つ」が56人(33.7%) 「3つ」が29人(17.5%) 「4つ以上」が13人(7.9%)であった。

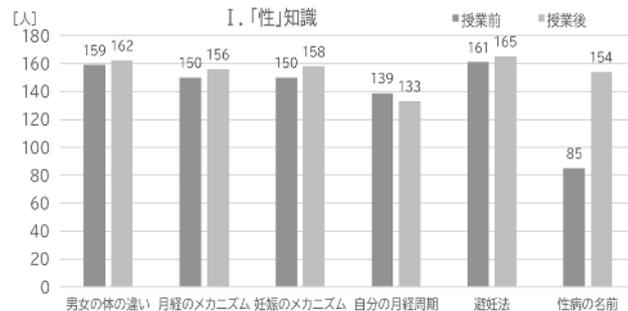


図2. 「性」についての知識

3-3-2, 【項目3】「性」についての意識

「性」のイメージについては、図3に示した。

恋愛関係のない人に身体を触られたら、やめて欲しいなどの意思表示ができるかという質問に対し授業前は、「できる」～「まあできる」が133人(80.0%)、授業後は148人(89.7%)であった。

愛しているなら相手の思い通りになるのは当然だと思ふという問いに対しては、授業前は、「思わない」が133人(80.6%)、授業後は、151人(92.7%)であった。

望まない妊娠については、質問事項をまとめて表3に示した。保育者養成校での「性」に関する授業・教育内容は必要と思うかとの質問に対して、授業前アンケートでは「必要」が132人(80%)、授業後アンケートは160人(92.6%)であった。また性教育の開始時期については、図4に示すように乳児期～幼児期までが授業前アンケートによると、33人(19.9%)で、授業後アンケートは88人(53.4%)であった。

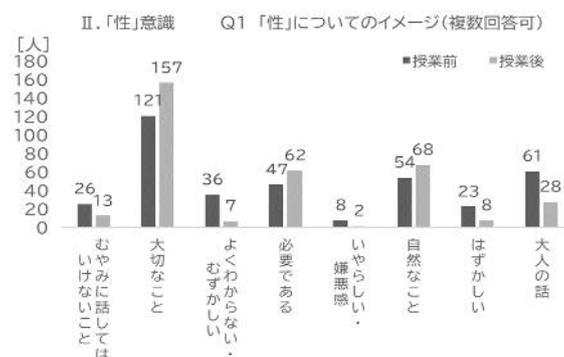


図3. 「性」についてのイメージ

表 3 望まない妊娠についての質問

[表3] 望まない妊娠についての質問			
質問紙調査の項目		授業前	授業後
質問1.	望まない妊娠の理由 (複数回答)		
	・意志の弱さ、断れない	106(63.6)	83(50.3)
	・性的虐待、性的被害	120(72.7)	142(86.1)
	・興味・関心、その場の盛り上がり	109(66.1)	73(44.2)
	・性の知識不足	107(64.8)	111(67.3)
	・経済的なもの (避妊具未使用)	42(25.4)	39(23.6)
質問2.	望まない妊娠をしないための方法	n=164	n=165
	・性の知識を持つ	38(23.2)	38(23)
	・自分の意志を持つ、相手に任せない	73(44.5)	90(54.5)
	・避妊する	43(26.2)	28(17.0)
	・子育て環境が整うまで性交渉しない	9(5.5)	4(2.5)
	・自分の性周期を知る	1(0.6)	5(3)
質問3.	望まない妊娠が及ぼす影響 (複数回答)		
	・人生設計の変更 (困難・苦悩)	145(89)	139(84.8)
	・人生設計の変更 (結婚・幸せ)	47(28.8)	46(28)
	・肉体的負担	83(50.9)	81(49.4)
	・経済的負担	114(69.9)	101(61.8)
	・児童虐待	97(59.5)	79(48.2)
n(%)			

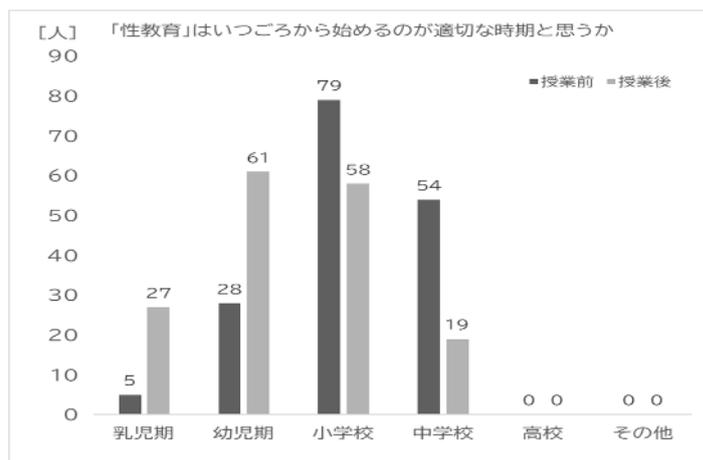


図 4. 「性教育」の開始時期

3-3-3, 【項目 4】「生命 (いのち) の安全教育」について
 認知度・言葉のイメージ について、図 5、図 6 に示した。

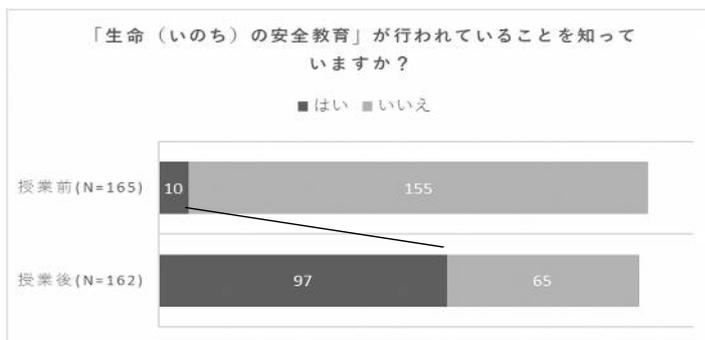


図 5 「生命 (いのち) の安全教育」の認知度

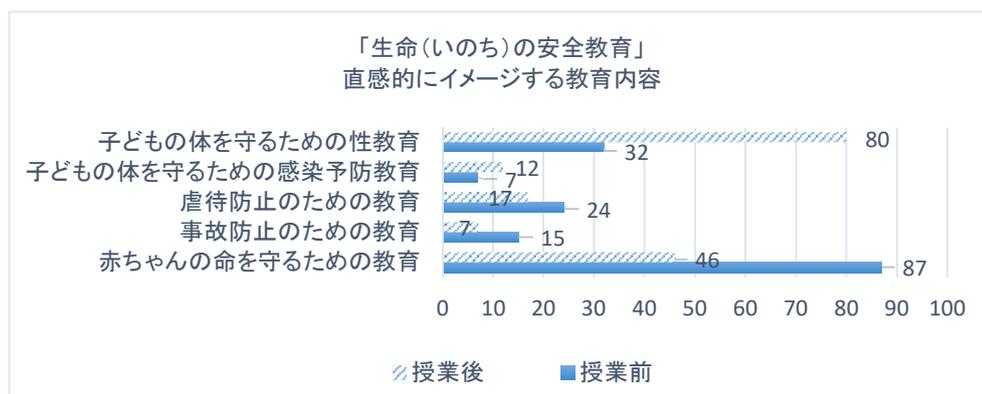


図6 「生命(いのち)の安全教育」のイメージ

4. 考察

4-1, 対象の属性および回答状況

今回、アンケートはオンラインでの回答とした。NTT コムオンライン調査⁽⁴⁾によれば、オンラインでの平均回答率は29%、対面調査は57%という結果が出ている。アンケート調査前、対面にて説明し、入力してもらう形をとったので、授業前後ともに比較的高い割合での回答が得られた。しかし、授業前アンケートにおいては、1年生の回収率が2年・3年生の回収率に比べ低く、有意差がみられた(P値: 0.01796 < 0.05)。授業後アンケートについては、受講後その場で入力してもらい、通信環境が悪い学生については、当日を締め切りとし返信してもらう形をとったため、1年生と2年・3年生の回収率に有意差はみられなかった(P値: 0.532 > 0.05)。理由は明確にはわからないが、2年生・3年生は、研究者自身の授業終わりに説明し、その場で入力してもらった。1年生は、研究者以外の最終授業終了後残ってもらい、研究目的を説明した後、入力終了順に帰宅してもらう方法をとった。すでに帰宅した学生もおおり、途中で「時間がないので、家で入力しても良いか」という質問もあり、帰宅後入力してもらうようにした。このような状況により、回収率に影響を及ぼしたのではないかとと思われる。授業前アンケートに関しては、授業内容および進行に関わる内容であるため、アンケート前に丁寧な説明による理解を得るための配慮(時間設定、状況など)が必要であった。

4-2, 【項目2~4】について、授業前・後のアンケートより考察

4-2-1, 【項目2】「性」についての知識

「性」の知識については、項目全体で上昇がみられたが、自分の月経周期の理解に関しては、数値の下降がみられた。

これまでの教育課程において約9割の学生が、「性」について何らかの内容を学習していた。特に男女の体や妊娠・出産などの基礎知識に関しては、やはり9割以上の学生が学習済みであり、満足度も高かった。「生命の誕生・命の大切さ」などの内容は、大体の学生が「理解している」と回答しており、【項目3】「性」についての意識の結果が、肯定

的な回答につながっているものと思われる。しかし「性」の多様性 (LGBT など) や性被害・性暴力については、50%前後と低くなっている (図 1)。この内容は比較的新しく、文部科学省が定める「学習指導要領」において主な授業指針⁽⁸⁾には盛り込まれておらず、受講の機会がなかったのではないかとということが考えられる。石川 (2008) は、「日本の学校における性教育は、幅広い健康教育の中へ性教育を位置づけることや、ヘルスプロモーションの視点からの取り組み等は少ない。また、望ましい人間関係を形成するための個人的スキルを育てることや、ライフスキルを育てることの重要性は認識されつつあるが、このような考え方を基盤とした性教育は少ない。」と日本の性教育の遅れを指摘している。また性感染症に関しては、80%以上の学生が学んでいると回答していたが、病名について2つ以上知っている学生の割合は60%弱であった。性感染症は、厚生労働省の定点報告⁽⁵⁾によると、20代前半が最も多く、特に近年はインバウンドの影響⁽⁶⁾もあり「梅毒」の拡大感染が懸念されている。また「性器クラミジア」のように症状が顕在化しにくく、放置することにより妊娠への影響を及ぼすという特徴もある。そして子宮頸がんに関係しているという「尖圭コンジローマ」などは、予防接種の知識も含めて大学生の身近な病気としての理解が必要である。さらに性感染症とは大別されることもあるが、免疫低下によっても症状が出やすい「膣カンジダ症」もある。いずれも自己管理ができていれば、予防できる病気である。以上のことから、知っている性感染症 (性病) の病名数がこの年代にしては少ないと思われ、知識の補足の必要性を感じた。また基礎知識の中でも、「基礎体温」など自分の体に関する知識ではあるが、先述したように「学習指導要領」の主な指導内容⁽⁸⁾にはあげられておらず、学習機会が得られなかったと考えられた。

「性教育」に対して「不足」と回答した学生は、教育内容が浅い、オブラートで包まれていて伝わって来ない、日本は遅れているなど「もっと学びたい」というコメントが含まれていた。そこで今回、「基礎体温」について測定の方法や目的はもちろんであるが、月経、排卵、妊娠、体調との関わりなどについて、性周期 (月経周期+卵巣周期) を通して説明した。「基礎体温」について初めて学習した学生はもちろんのこと、改めて学習した学生の中には、自分の性周期とは月経の期間だけの理解ではなく、自分の体調との関わりを理解できていなかったという学生がおり、「自分の月経周期の理解」項目の数値が下がったのではないかと考えられる。

4-2-2, 【項目3】 「性」についての意識

「性」の意識について、「性」のイメージは、質問項目をランダムに提示したが、授業前・後ともに結果として「大切なもの」「必要なもの」「自然なもの」など肯定的なイメージが上位を占め、「いやらしい」「恥ずかしい」などの否定的な回答は少なかった。これは教育・指導を行う保育者として、とても大切なことであり、子どもたちに伝えて行く

際に、「性」に対しての個人的バイアスがかかることなく教育・指導ができるものと考えられる。

また「愛」についての考え方や「意思表示ができる」に高い値が示された。近藤(1998)は恋愛について、「性行動が安易に成立していることと、若い人たちの自己決定できる自己形成の弱まり、相手を愛と知のエネルギーで認知するだけの力が備わっていない」と指摘している⁽¹⁰⁾。しかし保育学生に「愛」についての考え方や「意思表示ができる」に高い値が示されたのは、自立した考えをもち、自分の身体を守るという行動や気持ちが備わっているということが言えるであろう。これは、「生命(いのち)の安全教育」の講義の目的でもあったので、授業効果もあったと考えられる。

望まない妊娠については、一女性としてまた保育に関わる者として、その理由や今後の人生への影響をどのように捉えているのかを知ることが目的として質問項目を設けた。授業前・後の回答結果にあまり変化はみられず、回答の多くは自分をしっかり持つといった、「自分の身を守ること」の意識の高さが伺われた。予期せぬ妊娠は心身に大きな影響を及ぼす。「プロダクティブヘルスライツ」つまり子どもを産むか産まないかは女性の権利として保証されているが、10代～20代の若い人たちの妊娠に関しては、妊娠後の選択肢が限られてくるであろう。表3の結果からもわかるように、人生設計の変更を余儀なくされることが問題となる。予期せぬ妊娠をしないためにどうするか、予期せぬ妊娠をしてしまったときにどうするかという教育内容は学校によっては展開されているが、ともすれば行き過ぎの教育として取り扱われやすく、学校自体が教育に消極的になり相談難民の学生が出てくるものと考えられる。学生への相談対応のためにも、私たち教員の「性教育」についての研鑽が大切である。また望まない妊娠の虐待死亡例は、虐待全体の死亡例の30.8%を占めるという⁽⁷⁾。その加害者は実母であり、将来育児サポートを行っていく者として、「望まない妊娠」をした保護者への子育て支援はとても重要となる。

「性に関する」授業に関して、授業後アンケートではほとんどの学生が「必要」と回答し、「性教育」自体も開始時期を早める回答の傾向がみられた。遠見(2022)は、「性を『人権』の視点で捉え、幅広い内容を幼い頃から体系的に学ぶ。科学的に正確で、实际的で客観的な情報提供によって、学習者が多様な考え方に触れながら主体的に考えることが重視され、他者を尊重しながら性的自己決定力を育み、健康と幸せの実現につなげる」⁽¹¹⁾と、5歳から始める包括的性教育の必要性を述べている。これはまさしく、「性教育」「生命(いのち)の安全教育」の目標でもある。このようなニーズに対応していくためには、保育養成校での学習の機会・内容の充実といったものの検討が必要となってくるであろう。

4-2-3, 【項目4】「生命(いのち)の安全教育」について

「生命（いのち）の安全教育」については、授業前は6%ほどしか知られていなかったが、授業後は60%弱の学生が「知っている」と回答し、認知度は上がった。文部科学省・内閣府は令和2年からこの取組みを施行し、推進事業として指導モデルの開発や指導事例の収集等を行っている⁽⁸⁾。しかし限定された実践校での実施や教職員の研修を始めたばかりであるので、認知度がまだまだ低いと考えられる。そこで教育現場での意識を高めていかなければいけない。また、題名から伝わる直感的イメージは、授業後もさほど大きな変化はみられなかった。これは、授業内容が理解できなかったのか、単純に言葉から伝わるイメージが分かりにくいのか分析しづらく、質問が不適切であったと思われる。

ほとんどの学生が「勉強になった」「知らないことが多かった」など、学習について的好评を述べていたが、中には「正直眠かった」という感想もあった。今回の授業では、「生命（いのち）の安全教育」の教材で配信されている高校生用の映像を使用した。動画であり、SNSの注意点やデートDVなど大学生にも必要な知識で、身近な問題であると思われ選択した。しかし20分ほどの上映中、居眠りをしていた学生もおり、授業効果の測定のためには、質問内容に映像内容に関する感想も必要であったと思われる。コロナ禍であった為、ディスカッションを避け授業を計画・展開したが、今後は、大学生用の資料（リーフレット）⁽²⁾も配信されているため、それを使用した授業評価も行っていきたい。

4-3、「生命（いのち）の安全教育」を支援するプログラム（授業）の構築

授業前アンケートの結果・考察により、講義内容を検討し、授業準備を行い、実施、評価した（図7）。学生の知識として不足している内容①生命（いのち）の安全教育の取り組みについて、②基礎体温について、③知っておきたい性病について、の3点を補うような内容で組み立て、講義を行った。不足ポイントを補う形で授業を組み立てたことにより、90分という時間の中で一定の授業効果はあった。

しかし、これまでの教育課程において、学生の大半は複数回「性教育」は受けていたものの、知識の不足や教育内容への不満等が結果として挙げられた。また「性」については、特に取り扱いに配慮が必要であり、触れたくない内容かもしれない。しかし、女性そして保育者として「性」についての正しい知識の理解・定着等を考えると、やはりその導入、確認のために十分な時間が確保できる教科としての授業が必要であると考えられる。

5, おわりに

現在「性」の情報は、様々な方法で発信されており、入手しやすい。今回の調査においても、学生の「性」についての情報入手の方法は、メディアなどネット関連が全体の1/4強を占めていた。しかし、ネット情報の信頼性と不安については、さまざまな研究がなされており、間違った情報を鵜呑みにしてしまうこともある。また友人からの情報入手も30%以上あり、不確かな情報共有になる恐れもある。そして、信頼性が高いと思われる学

校における情報発信については、特別授業のような形態で行われることが多く、その内容も一方的なものになる可能性もある。今回、事前に授業前アンケートを行ったことにより、生命誕生・妊娠・出産などの基礎的な知識は、大半の学生が理解できているということがわかり、授業内容を吟味することができた。そして私たち教授する者が、90分という時間の中で確かな情報を伝えていくためには、求められている内容を把握した上での確にわかりやすく伝えていく必要があると強く感じた。

また本研究では、現段階での保育学生の「性」の知識・意識を知り、「生命（いのち）の安全教育」を行い、まずは「自分自身の体を守ること」を目標とした。そしてそれは保育現場において、子どもたち自身が自分の体を大切に思い、自分を守るための教育である「生命（いのち）の安全教育」につながっていく。しかしアンケート調査を行い、学生は一般的な「性教育」の内容の知識はあったものの、自分の健康管理に関わる知識が乏しいことがわかった。その点を補足する授業を展開したことにより、保育学生に一定の効果がみられたということは、子どもたちに「生命（いのち）の安全教育」を伝えていくための一助となったと考えられる。

学生のアンケート回答で明らかになったように、学校での情報は比較的高い割合で発信されている。しかし相談できる人として、「教員」と回答した数は一番少なかった。心理カウンセリング室は多くの学校で開設されており、学生の心のケアがなされている。そして体調などの対応ができる場所として保健室があげられる。しかし大学生にとっての「心理カウンセリング室」「保健室」の存在はどのようなものであろうか。村瀬（2008）は、「自立を目指す性教育ももう一つの柱は健康という視点から内容を考えることである。今日、国際的に使われる“性の健康”とは、『身体的、心理的、社会的に幸福（well-being）な状態』のことをいう」（¹⁴）と述べている。また安部（2008）は、「家庭での性的虐待に悩む子どもの相談も必要であろう。感染症や妊娠など性に関する不安への対応も必要であろう。子どもが自由にいつでも立ち寄ることができ、自分たちの悩みを発信したり、医学的に正しい知識を享受したりする居場所が必要であるように思う」（¹⁵）と言っている。「保健室」はその居場所の役割があると考えられる。大学にとっての「体についての相談ができる場所」といった点に関しては、今後の研究課題にしていきたい。

また基礎体温は、女性特有の体温であり、この体温の測定により体のリズムも自分で知ることができるため、社会人になる前の女性は是非知識をつけて欲しいが、理解できていない現実があった。女子大学生のリプロダクティブヘルスのために、まずは「自分の体を守ること」を目的とする教育が大切である。現時点では、その内容を学ぶ機会が保育養成校のカリキュラムには盛り込まれておらず、授業が開講されていないことが多い。特別授業などでの講義となるが、学生の納得いく内容が得られていない課題もある。特に保育者養成校においては、学生のアンケートにもあったように、幼児の「性教育」に向けての授

業のため、自分自身の体の理解を促すため、妊娠・出産を正しく理解するためにも、関連授業のカリキュラム開設が必要であると考ええる。

事前情報から考える授業における検討項目図 ～授業実施までの流れ～

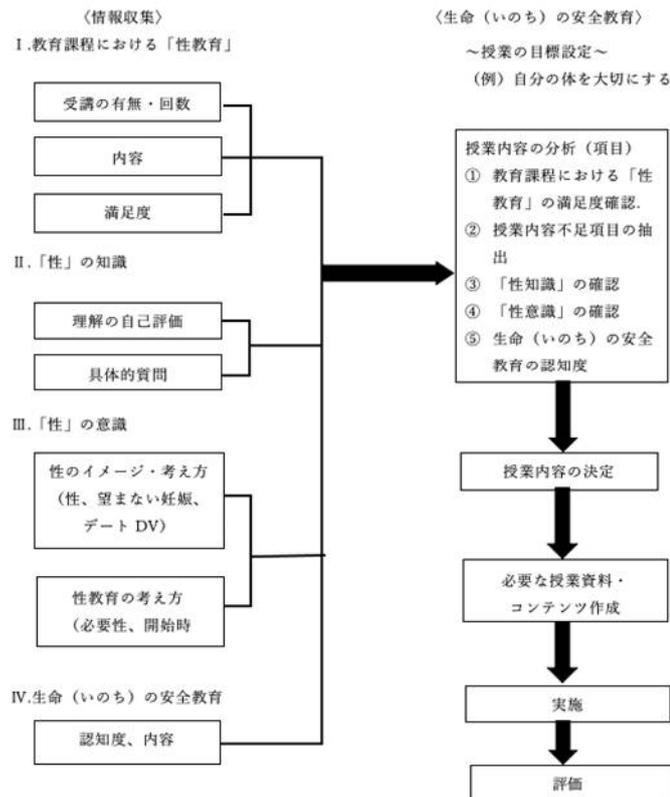


図7 事前情報から考える授業における検討項目

〈引用・参考文献〉

(1) 警察庁 少年非行・児童虐待及び子供の性被害 (令和3年)

<https://www.npa.go.jp/publications/statistics/safetylife/syonen.html>

最終閲覧日: 2022年10月16日

(2) 文部科学省 生命(いのち)の安全教育について

https://www.mext.go.jp/content/20210527-mxt_kyousei02-000014005_2.pdf

最終閲覧日: 2022年10月23日

(3) 千葉県教育庁教育振興部学校保健安全課 学校における性に関する指導について

<https://www.pref.chiba.lg.jp/kyouiku/anzen/hokenn/documents/sei.pdf>

最終閲覧日: 2022年10月9日

(4) NTTコムオンライン アンケート調査の平均回答率とは? 目標と目安の設定を解説

<https://www.nttcoms.com/service/mobileweb/column/20211117/>

最終閲覧日: 2022年10月16日

(5) 厚生労働省 性感染症報告数 (2014~2020)

<https://www.mhlw.go.jp/topics/2005/04/tp0411-1.html>

最終閲覧日：2022年10月9日

(6) 日本感染症学会、症状からアプローチするインバウンド感染症への対応

<https://www.kansensho.or.jp/ref/> 最終閲覧日：2022年10月9日

(7) 厚生労働省 児童虐待による死亡事例の推移 (児童数) 第9回児童虐待防止対策に関する関係府省庁連絡会議幹事会

<https://www.mhlw.go.jp/content/11900000/000361196.pdf>

最終閲覧日：2023年1月26日

(8) 文部科学省 学校における性に関する指導について及び関連する取組の状況について、<https://www.mhlw.go.jp/content/11121000/000910047.pdf>

最終閲覧日：2022年10月4日

(9) 奈良洋 (1998) . 5 欧米の性教育、親と教師のための思春期学 5、2 性、東京：

(株) 情報開発研究所、186-194.

(10) 近藤俊朗 (1998) . 2 思春期の性、1 性欲の開花、親と教師のための思春期学 5、2 性、東京：(株) 情報開発研究所、55-60

(11) 遠見才希子 (2022) . 人権を尊重する包括的教育、こころの科学、性をめぐる子どもの臨床、東京：日本評論社、34-38.

(12) 釜塚優子 (2002) . 子どもの性に対する養護教諭の取り組み、こころの科学、性をめぐる子どもの臨床、東京：日本評論社、39-43.

(13) 藤岡淳子 (2022) . 子どもの性被害/性加害の臨床-「やりとりする力を育てる」、こころの科学、性をめぐる子どもの臨床、東京：日本評論社、34-38

(14) 村瀬幸浩 (2008) . 自立と共生を目指す性の教育、児童心理臨時増刊いま子どもの性を考える、東京：金子書房、34-38.

(15) 阿部哲夫 (2008) . 性情報に関する親と子のリテラシー、児童心理臨時増刊いま子どもの性を考える、東京：金子書房、155-160.

(16) 八巻香織 (2008) . NO を言う、自分の気持ちを認める、児童心理臨時増刊いま子どもの性を考える、東京：金子書房、161-167.

(17) 菅原裕子 (2010) . 10 代の子どもの心のコーチング、東京：PHP 文庫.

(18) 大隈昇 (2008) . これからの社会調査— インターネット調査の可能性と課題、日健教誌、(16) 4

*味田 徳子 秋草学園短期大学 地域保育学科

[研究ノート]

授業評価アンケートにおける学生の取り組み姿勢と授業評価の分析

*江本 全志

Analysis of Student Attitudes and Class Evaluations in the Class Evaluation Questionnaire

Masashi Emoto

キーワード: 授業評価アンケート、教学 IR、相関係数

Key Words: Class evaluation questionnaire, IR, Correlation coefficient

要約: 秋草学園短期大学では、半期ごとに授業評価アンケートを実施している。その授業評価アンケートの質問項目には、学生の取り組み姿勢を問う質問と、授業に対する質問がある。授業評価アンケートの回答と授業ごとの各学生の成績を元に、授業評価アンケートの質問間の関係、特に学生の取り組み姿勢と教員の授業への取り組み姿勢に関する特徴について明らかにした。

1. はじめに

少子化に伴い、若年層人口は年々減っていき、今後大学志願者数の大幅減少が予測されている。現在全国の大学で生き残りをかけ、様々な改革が行なわれている。その改革の中で、教学 IR (Institutional Research) が注目され、各大学にて多くの研究が行なわれている[1][2][3][4][5]。秋草学園短期大学では、半期ごとに授業評価アンケートを実施し、そのアンケートの回答データを分析し、授業改善に活用している。本研究では、2020 年度の授業評価アンケートの回答と各学生の成績を元に、授業科目ごとに集計したデータと学生ごとの集計したデータについて、授業評価アンケートの質問間の相関関係を求め、分析をする。授業評価アンケートには、学生の授業に対する取り組み姿勢に関する質問項目と、授業に対する学生の評価に関する質問項目がある。前者の質問項目において、学生の授業に対する取り組み姿勢や理解度はどのような質問項目と関係があるのかを分析する。後者の質問項目においては、授業の満足度と関係性が強い質問項目を解析し、どのような教え方をすると授業の満足度が高くなるのかなどを明らかにする。

2. 授業評価アンケートの質問項目について

今回のデータ分析で使用した授業評価アンケートの質問項目を示す。以下の Q1～Q15 の 15 項目の質問を使用した。

- Q1：この授業の学習目標を理解している。
- Q2：欠席や遅刻をしないようにしている。
- Q3：まじめに受講するよう努力している。(私語・居眠り等をしない、携帯電話を使用しない)
- Q4：与えられた課題には必ず取り組んでいる。
- Q5：この授業への取り組みとして、予習や復習を週に何時間していますか。(レポートや課題等も含む)
- Q6：先生はシラバスに沿って授業を進めている。
- Q7：先生は受講態度の悪い学生に注意を与えている。
- Q8：先生の授業の進行速度はちょうど良い。
- Q9：先生は学生の反応を確かめながら授業をしている。
- Q10：先生の話し方ははっきりしていて聞き取りやすい。
- Q11：板書やスライド、映像は学習の理解に役立っている。
- Q12：テキストやプリントは学習の理解に役立っている。
- Q13：この授業の内容は自分の将来に役立つと思う。
- Q14：この授業の内容をよく理解できている。
- Q15：この授業に対する総合的な満足度はどうですか。

Q1～Q5 は学生の授業に対する取り組み姿勢を問う質問であり、Q6～Q15 は学生の授業に対する評価である。各質問の回答の選択肢は以下である。

- ・ Q5 を除く Q1～Q14 の 13 項目の回答の選択肢
全肯定、肯定、中間、否定、全否定
- ・ Q5 の回答の選択肢
2 時間以上、1 時間半以上 2 時間未満、1 時間以上 1 時間半未満、30 分以上 1 時間未満、30 分未満
- ・ Q15 の回答の選択肢
大変満足している、満足している、どちらとも言えない、不満である、大変不満である

今回、秋草学園短期大学における 2020 年度前期と 2020 年度後期の授業評価アンケートの回答データを使用した。アンケートの実施期間は前期 2020 年 7 月と後期 2020 年 12 月～2021 年 1 月、回答数は前期 4,318 件、後期 2,837 件、合計 7,155 件であった。授業評価アンケートは Google フォームで実施した。また、これらの回答データは、各々授業名と学生識別子の項目の値を持つ。

倫理的配慮として、本研究は個人が特定されないようにデータを分析及び集計を行ない、秋草学園短期大学研究倫理委員会の承認を得て実施した。(承認番号 2022-9)

3. 学生の取り組み姿勢に関する分析

学生の授業に対する取り組み姿勢や理解度はどのような質問項目と関係があるのかを分析する。学生の授業に対する取り組み姿勢の分析する上で、今回は以下の質問項目 (Q1～Q5、Q14) と成績を使用する。他の質問項目は教員や授業に対する項目であり、学生の取り組み姿勢とは関係なく、授業によって評価が変わるため、ここでは除外した。

Q1: この授業の学習目標を理解している。

Q2: 欠席や遅刻をしないようにしている。

Q3: まじめに受講するよう努力している。(私語・居眠り等をしない、携帯電話を使用しない)

Q4: 与えられた課題には必ず取り組んでいる。

Q5: この授業への取り組みとして、予習や復習を週に何時間していますか。(レポートや課題等も含む)

Q14: この授業の内容をよく理解できている。

また、学生の取り組み姿勢は、授業によってあまり変わらないと思われることから、2 章で示した

授業評価アンケートの回答データと各学生の成績データを、次に示す評価平均の計算を行ない、学生ごとに評価平均値を求め、そのデータを分析に利用した。

$$\text{評価平均} = \frac{(a) \text{の数} \times 4 + (b) \text{の数} \times 3 + (c) \text{の数} \times 2 + (d) \text{の数} \times 1}{(a) \text{の数} + (b) \text{の数} + (c) \text{の数} + (d) \text{の数} + (e) \text{の数}}$$

授業評価アンケート Q1～Q4、Q14 の項目について、上記の(a)～(e)を次のようにした。

(a) 全肯定、(b) 肯定、(c) 中間、(d) 否定、(e) 全否定

Q5 については、(a) 2 時間以上、(b) 1 時間半以上 2 時間未満、(c) 1 時間以上 1 時間半未満、(d) 30 分以上 1 時間未満、(e) 30 分未満、とした。また、授業の成績については、(a) 評価 S、(b) 評価 A、(c) 評価 B、(d) 評価 C、(e) 評価 F、とした。学生ごとに集計した結果、学生数 493 件のデータとなった。

学生ごとに集計したデータを用いて項目間の相関係数を求め、項目間の関係を示したのが表 1 である。

表 1 項目間の相関係数(1)

	成績	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q14
成績	1.00	0.22	0.36	0.26	0.48	0.15	0.18
Q1	0.22	1.00	0.36	0.45	0.40	0.16	0.77
Q2	0.36	0.36	1.00	0.78	0.80	0.17	0.38
Q3	0.26	0.45	0.78	1.00	0.72	0.23	0.43
Q4	0.48	0.40	0.80	0.72	1.00	0.22	0.42
Q5	0.15	0.16	0.17	0.23	0.22	1.00	0.12
Q14	0.18	0.77	0.38	0.43	0.42	0.12	1.00

相関係数 0.7 以上は強い正相関、相関係数 0.4 以上 0.7 未満は正相関とし、表 1 の強い正相関のある 0.7 以上のマス目(同じ項目間の相関係数を除く)の背景に色を付けた。そして、表 1 から次のことが分かる。

- ・ 学生の成績は、Q4「与えられた課題には必ず取り組んでいる。」と正相関がある。

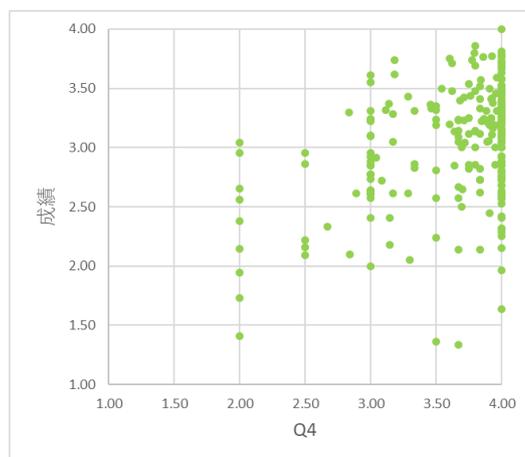


図 1 成績と Q4 の散布図

- ・ Q2「欠席や遅刻をしないようにしている。」、Q3「まじめに受講するよう努力している。(私語・居眠り等をしない、携帯電話を使用しない)」、Q4「与えられた課題には必ず取り組んでいる。」の 3 項目の間には強い正相関がある。

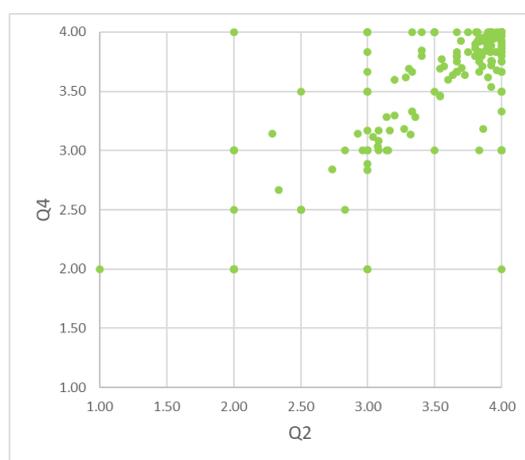


図 2 Q2 と Q4 の散布図

Q14「この授業の内容をよく理解できている。」は、Q1「この授業の学習目標を理解している。」と強い正相関、Q3「まじめに受講するよう努力している。(私語・居眠り等をしない、携帯電話を使用しない)」、Q4「与えられた課題には必ず取り組んでいる。」と正相関がある。

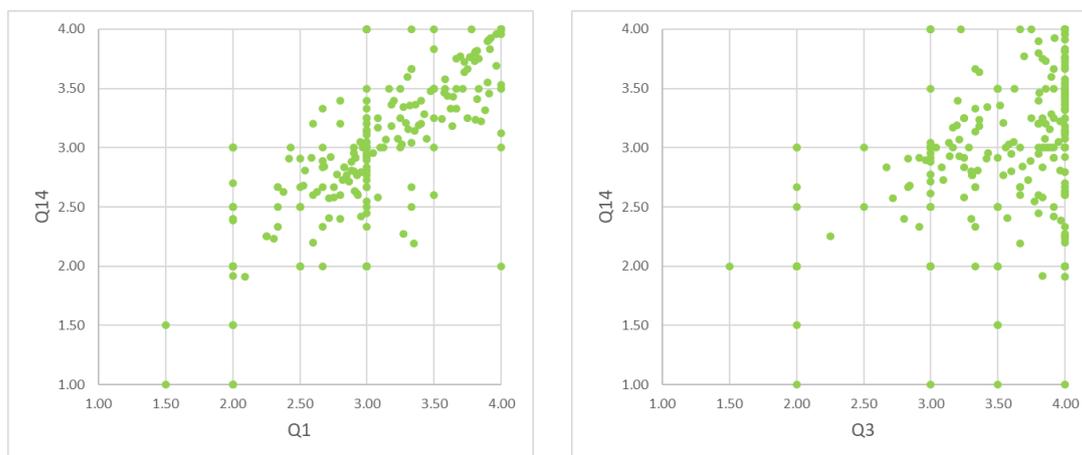


図 3 Q1・Q3 と Q14 の散布図

これらの分析結果から分かることは、授業の内容をよく理解させるためには、授業の学習目標を理解させ、真面目に受講させ、課題に必ず取り組ませる必要があるということである。

4. 教員の授業への取り組み姿勢に関する分析

どのような教え方をすると授業の満足度が高くなるのかなど、主に授業の満足度と関係性が強い質問項目を分析によって明らかにする。2章で示した授業評価アンケートの回答データと各学生の成績データを、以下の評価平均の計算をし、その値を使用し授業科目ごとに集計した。

$$\text{評価平均} = \frac{(a) \text{の人数} \times 4 + (b) \text{の人数} \times 3 + (c) \text{の人数} \times 2 + (d) \text{の人数} \times 1}{(a) \text{の人数} + (b) \text{の人数} + (c) \text{の人数} + (d) \text{の人数} + (e) \text{の人数}}$$

授業評価アンケートの Q1～Q5 は学生の取り組み姿勢に関する質問で、教員の授業に対する取り組み姿勢に関する質問ではないので、ここでは除外する。授業評価アンケートの Q6～Q14 の 9 項目について上記の(a)～(e)は次のようにした。(a) 全肯定、(b) 肯定、(c) 中間、(d) 否定、(e) 全否定

Q15 の回答については、(a) 大変満足している、(b) 満足している、(c) どちらとも言えない、(d) 不満である、(e) 大変不満である、とした。授業科目ごとに集計した結果、授業数 267 件のデータとなった。

授業科目ごとに集計したデータを用いて項目間の相関係数を求め、項目間の関係を示したのが表 2 である。

表 2 項目間の相関係数(2)

	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11	Q12	Q13	Q14	Q15
Q6	1.00	0.60	0.60	0.66	0.59	0.65	0.63	0.38	0.54	0.54
Q7	0.60	1.00	0.55	0.66	0.65	0.54	0.54	0.39	0.52	0.44
Q8	0.60	0.55	1.00	0.80	0.62	0.68	0.66	0.48	0.70	0.72
Q9	0.66	0.66	0.80	1.00	0.76	0.70	0.74	0.45	0.66	0.68
Q10	0.59	0.65	0.62	0.76	1.00	0.76	0.73	0.50	0.63	0.70
Q11	0.65	0.54	0.68	0.70	0.76	1.00	0.84	0.51	0.68	0.73
Q12	0.63	0.54	0.66	0.74	0.73	0.84	1.00	0.50	0.68	0.69
Q13	0.38	0.39	0.48	0.45	0.50	0.51	0.50	1.00	0.60	0.54
Q14	0.54	0.52	0.70	0.66	0.63	0.68	0.68	0.60	1.00	0.75
Q15	0.54	0.44	0.72	0.68	0.70	0.73	0.69	0.54	0.75	1.00

相関係数 0.7 以上は強い正相関、相関係数 0.4 以上 0.7 未満は正相関とし、表 2 の強い正相関のある 0.7 以上のマス目(同じ項目間の相関係数を除く)の背景に色を付けた。そして、表 2 から以下のことが分かる。

- ・ Q9「先生は学生の反応を確かめながら授業をしている。」、Q10「先生の話し方ははっきりしていて聞き取りやすい。」、Q11「板書やスライド、映像は学習の理解に役立っている。」、Q12「テキストやプリントは学習の理解に役立っている。」の 4 項目の間には強い正相関がある。(図 4)
- ・ Q15「この授業に対する総合的な満足度はどうですか。」は、Q8「先生の授業の進行速度はちょうど良い。」、Q10「先生の話し方ははっきりしていて聞き取りやすい。」、Q11「板書やスライド、映像は学習の理解に役立っている。」、Q14「この授業の内容をよく理解できている。」の 4 項目と強い正相関がある。(図 5)

Q11 と Q12 は先生が提供する教材のことを問う質問であり、授業の満足度は、授業の進行速度、聞き取りやすさ、教材の提供が大きく関わっていることが分かった。

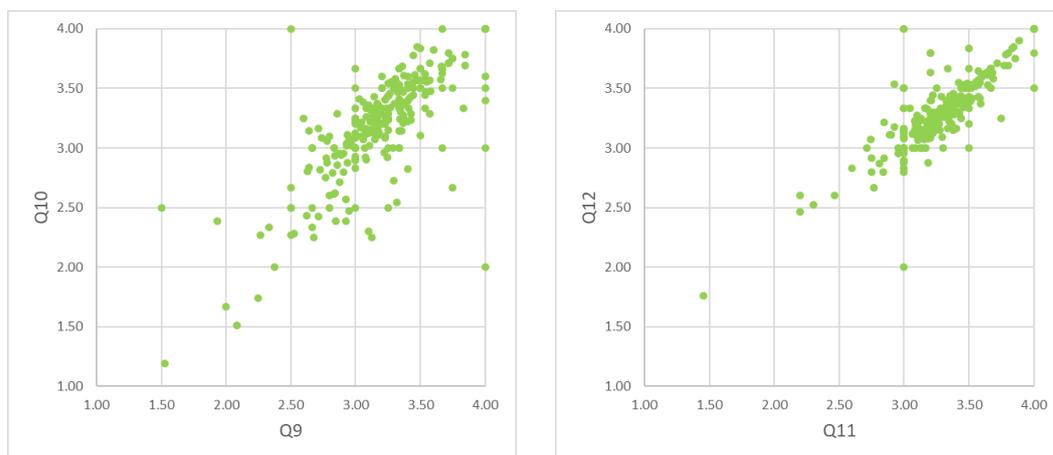


図 4 Q9 と Q10、Q11 と Q12 の散布図

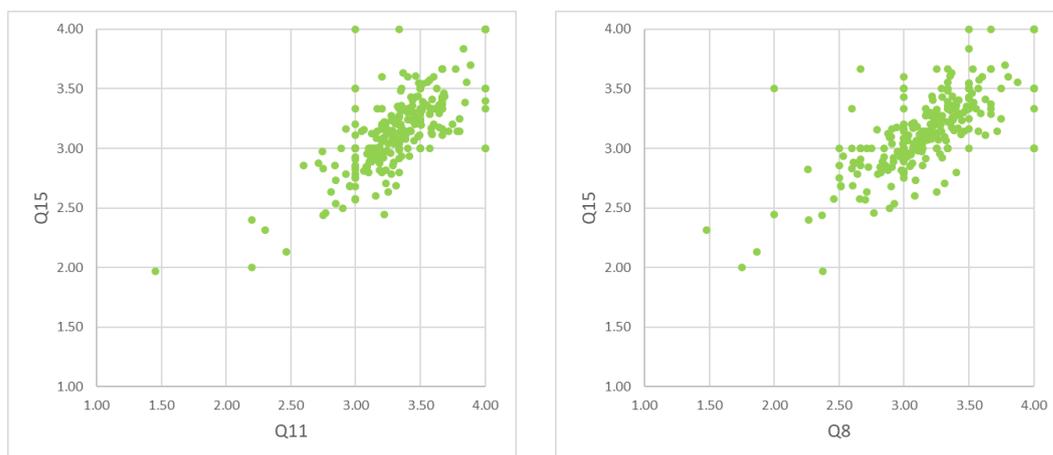


図 5 Q11・Q8 と Q15 の散布図

図 6 は、回答データの Q2「欠席や遅刻をしないようにしている。」と Q15「この授業に対する総合的な満足度はどうですか。」をクロス集計したものである。すなわち、授業の満足度と欠席・遅刻の関係を表している。否定・全否定を合わせて 0.08%であったため、図 6 のグラフでは否定・全否定を除外した。

このグラフから分かることは、欠席や遅刻をしないようにしていない学生は、授業の満足度が低いということである。授業の満足度を上げるためには、欠席や遅刻をしないような対策が必要となる。

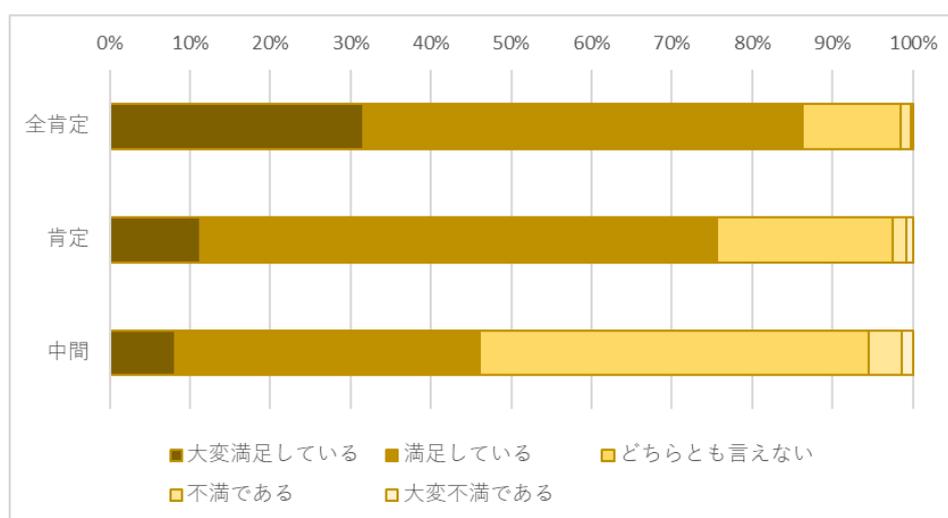


図 6 Q2 と Q15 の関係

5. おわりに

本研究では、授業評価アンケートの回答データを元に、授業評価アンケートの質問間の相関関係を調査した。分析結果から次のようなことが分かった。

- ・ 授業内容をよく理解させるためには、授業の学習目標を理解させ、真面目に受講させ、課題に必ず取り組ませる必要があるということが分かった。
- ・ 授業満足度の項目 Q15 は Q8～Q12 と Q14 と正相関があり、授業満足度を高めるには授業進行速度に注意し学生の反応を確かめながら授業を進めること、はっきり聞き取りやすく話すこと、スライドやプリントなどの資料を提供することが重要であることが分かった。

今後さらにデータを分析するとともに、大学改善に活用できる知見を得たい。

6. 参考文献

- [1] 川那部隆司, 笠原健一, 鳥居朋子, 教学 IR における学生調査の手法開発, 立命館高等教育研究, 13 号, pp.61-74, 2013.
- [2] 池田文人, 入試区分による入学後の学業成績の優劣の検証, 大学入試研究ジャーナル, No.19, pp.95-99, 2009.
- [3] 大久保貢, 都司達夫, 福井大学 AO 入試入学者の学業成績・学生生活, 大学入試研究ジャーナル, No.16, pp.71-76, 2006.
- [4] 大桑良彰, 宮崎医科大学における入試の追跡調査, 医学教育, Vol.31, No.3, pp.181-193, 2000.

[5] 江本全志, 2018 年度の教学 IR における入試選抜区分による追跡調査, 秋草学園短期大学
紀要, Vol.36, pp.191-202, 2020

*江本 全志 秋草学園短期大学 文化表現学科 准教授

[研究ノート]

保育所実習の巡回のための地図型情報管理システムの構築の試み

*江本 全志

Trial Production of Map Type Information Management System for Round in Nursery School Practice

Masashi Emoto

キーワード: 保育所実習、Web 地図、支援システム

Key Words: Nursery school practice, Web Map, Support system

要約: 教職員が保育所の実習先を巡回する場合、教職員の居住地や大学から実習先までの交通経路や時間、交通費などの情報を調べる必要があり、また、実習先に行く前には、実習生の実習状況を知っておく必要がある。それらの情報が容易に得られるようなシステムの構築を目指し、まずは Web 地図ライブラリである Leaflet と WebAPI などを用い、Web ページ上で自動的に実習先までの交通経路などを表示する地図型情報管理システムの構築を試みる。

1. はじめに

現在日本の子育て環境は、待機児童や少子化・出生率の低下など、多くの問題を抱えている。日本政府は一億総活躍社会の実現に向け、保育の受け皿整備の促進を進めている。また、科学技術において、日本政府はサイバー空間と現実空間の融合を進める Society 5.0 の政策を進めており、教育分野でコンピュータ技術を活用する EdTech という動きが活発化している。保育分野において、これまで保育業務の ICT 化に関する研究[1][2][3]が行なわれてきた。本研究は、子育てに関わる保育分野に人工知能や Web 技術を含むコンピュータ分野の技術を導入し、よりよい保育環境の整備を目指し、これまで多くの研究が行なわれてきた保育業務の ICT 化ではなく、保育所実習に関わる業務の ICT 化を目指す。本稿では、保育所実習の巡回のための地図型情報管理システムの構築を試みる。ここでの巡回とは訪問指導のことである。

2. 保育所などの情報登録システムの構築

保育所や大学などの情報を登録し、作成するシステムでその情報を取り扱いやすくするために、本研究では Jspsreadsheet v4 [4] という MIT License の JavaScript プラグインを利用した。Jspsreadsheet は、ブラウザ上で Excel と同じような操作を行なうことができる。他にも、Google のスプレッドシートを利用する選択肢もあったが、Google のスプレッドシートの場合は、スプレッドシートを保存した後に、サーバにアップロードするための処理をするボタンを押す必要になり、保存とアップロードの 2 段階の処理が生じる。しかし、Jspsreadsheet は保存ボタンを押すと、そのままサーバ上にそのデータが保存され、1 段階の処理で済む。その利点から、Jspsreadsheet を今回利用した。

Jspsreadsheet は Excel と同じような操作性で操作することができ、また Excel との親和性が高い。次にいくつか特徴を挙げる。

- ・ コピーや貼り付けができ、それらのショートカット Ctrl+C、Ctrl+V が使用できる。
- ・ Excel ファイルのセルのデータをコピーし、Jspsreadsheet 側に貼り付けることができる。また、その逆も行なうことができる。

Jspsreadsheet で直接データの作成を行わず、Excel でデータを作成し、そのデータを Jspsreadsheet に貼り付けるという方法で運用することもできる。

Jspsreadsheet では行や列の増減を禁止することができ、ユーザによって Jspsreadsheet の表のレイアウトが崩れることを防ぐことができる。データは JSON という一般的によく利用されているデータ形式で保存することができ、プログラミング言語で扱いやすい。

本研究では、保育所の登録、大学・自宅最寄り駅の登録、実習生の登録の3つの情報登録に Jspsreadsheet を使用した。

2-1. 保育所の登録

図 1 は、Js spreadsheet で作成した保育所の登録のためのページである。このページはパソコンやタブレット端末などのブラウザで開くことができる。保育所の登録では「施設名」、「郵便番号」、「住所」、「緯度」、「経度」、「備考」の項目を用意した。ここで記載された緯度・経度の値を使い、地図上に保育所を表示させる。今回は緯度・経度を Google Map で調べ、記載した。将来的には、WebAPI を利用し、住所から緯度・経度の値を取得し、自動的に記載することを考えている。(注: 図 1 で記載されている住所は適当なものを指定しております。)

保育所の登録 保存						
	施設名	郵便番号	住所	緯度	経度	備考
1	A保育園	1740075	東京都板橋区桜川 1 丁目 5 - 4	35.75640875	139.67445089	
2	B保育園	3501324	埼玉県狭山市稲荷山 1 丁目 2 3 - 1	35.84715595	139.39753820	
3	C保育園	3500053	埼玉県川越市郭町 2 丁目 1 3 - 1	35.92476731	139.49270941	
4	D保育園	3550811	埼玉県比企郡滑川町羽尾	36.04797127	139.37560271	
5	E保育園	1980041	東京都青梅市勝沼 2 丁目 1 5 5	35.79520900	139.26341029	
6						
7						
8						
9						
10						

図 1 保育所の登録

Js spreadsheet は JavaScript というプログラミング言語で動き、その裏側で行なう保存処理は PHP というプログラミング言語で実装した。保存処理では以下のような JSON 形式で保存される。

```
[["A 保育園", "1740075", "東京都板橋区桜川 1 丁目 5 - 4", "35.75640875333159", "139.6744508969195", ""], ["B 保育園", "3501324", "埼玉県狭山市稲荷山 1 丁目 2 3 - 1", "35.84715595713679", "139.39753820092344", ""], ["C 保育園", "3500053", "埼玉県川越市郭町 2 丁目 1 3 - 1", "35.92476731118618", "139.49270941226885", ""], ["D 保育園", "3550811", "埼玉県比企郡滑川町羽尾", "36.04797127852304", "139.37560271031708", ""], ["E 保育園", "1980041", "東京都青梅市勝沼 2 丁目 1 5 5", "35.79520900452125", "139.26341029834333", ""], ["", "", "", "", "", ""], ["", "", "", "", "", ""], ["", "", "", "", "", ""]]
```

2-2. 大学・自宅最寄り駅の登録

保育所の情報とは別に、実際に実習巡回をする場合、大学または自宅から出発することから、それらの情報を登録するページを作成した。保育所の登録と同様の項目を用意した。

大学・自宅最寄り駅の登録 保存

	施設名	郵便番号	住所	緯度	経度	備考
1	A大学	3591112	埼玉県所沢市泉町1789番地	35.801938205	139.46100060	
2	I駅	1710022	東京都豊島区南池袋1丁目	35.72964213	139.71092155	自宅の最寄り駅
3						
4						
5						
6						
7						

図 2 大学・自宅最寄り駅の登録

2-3. 実習生の登録

実習生の情報の登録も Js spreadsheet を利用してページを作成した。項目として、「名前」、「メールアドレス」、「配属先」、「備考」を用意した。メールアドレスは本サイトのログイン認証で使用するメールアドレスを記載します。(注: 図 3 のメールアドレスは適当なものを指定しております。)

実習生の登録 保存

	名前	メールアドレス	配属先	備考
1	G藤 N子	1001@daigaku.ac.jp	A保育園	
2	O西 A音	1002@daigaku.ac.jp	C保育園	
3	H本 Y美	1003@daigaku.ac.jp	E保育園	
4	I垣 H子	1004@daigaku.ac.jp	B保育園	
5	M尾 E里	1005@daigaku.ac.jp	D保育園	
6	Y本 J子	1006@daigaku.ac.jp	D保育園	
7	I口 A子	1007@daigaku.ac.jp	A保育園	
8	H尾 M里	1008@daigaku.ac.jp	D保育園	
9	S原 S穂	1009@daigaku.ac.jp	B保育園	
10	K下 Y子	1010@daigaku.ac.jp	A保育園	
11	N尾 Y子	1011@daigaku.ac.jp	B保育園	
12	H本 M子	1012@daigaku.ac.jp	E保育園	
13				
14				
15				
16				

図 3 実習生の登録

3. 地図型情報管理システムの構築

地図型情報管理システムを構築する上で使用したツールは、以下である。

- OpenStreetMap, Open Data Commons Open Database License (ODbL) ライセンスの地図データ [5]
- Leaflet, Web 地図のためのオープンソースの JavaScript ライブラリ [6]
- 駅すばあと Web サービス for Amazon [7]

駅すばあと Web サービス以外は無料で利用できるツールである。鉄道などの経路検索について無料でできるものを探したが見当たらず、今回有料の駅すばあと Web サービスを採用した。WebAPI 5000 リクエストが 5,500 円 (2022/10/26 現在) なことから、WebAPI 1 リクエストが約 1 円である。

3-1. 施設の地図上での表示

Leaflet と登録した施設情報を使用して、保育所などの施設を地図上に表示する。Jspreadsheet で作成した保育所などの情報を保存した JSON 形式のファイルを PHP で読み込み、読み込んだ保育所などの情報を地図上で表示するためのソースを出力するようにした。

地図上の施設の場所には、保育所は 、大学・自宅最寄り駅は 、経路の途中の駅は  のアイコンを使用した。JavaScript におけるアイコン画像やその大きさの指定は以下のようなプログラムになる。

```
var myIcon1 = L.icon({
  iconUrl: 'img/hoiku01.png',
  iconSize: [40, 30],
});
```

また、施設の地図上への表示は以下のようなプログラムを記述する。

```
var hoiku0 = L.marker([35.75640875333159, 139.6744508969195], {icon:myIcon1}).addTo
(map).on('click', function (e) {
  popup
  .setLatLng(e.latlng)
  .setContent("A 保育園<br>G 藤 N 子<br>I 口 A 子<br>K 下 Y 子")
  .openOn(map);
});
hoiku0.bindTooltip('A 保育園', {offset:L.point(0,0)});
```

L maker のところで施設の緯度・経度を指定し、setContent のところで地図上のアイコンをクリックした時に表示される情報を記載する。Web の地図上では図 4 のように表示され、表示される情報に、前章の実習生の登録で保存された JSON ファイルを読み込み、その保育所に配属される実習生の名前を表示した。



図 4 地図上での施設の表示

3-2. 出発地と到着地の選択

地図の右側に、出発地と到着地を選択するツールを用意した。Jspreadsheet で作成した保育所などの情報を PHP で読み込み、出発地は大学・自宅最寄り駅・保育所の順で、到着地は保育所・大学・自宅最寄り駅の順で選択画面が表示されるようにした。

出発地 : ▼
到着地 : ▼

図 5 出発地と到着地の選択

3-3. 経路の検索結果の表示

検索ボタンをクリックすると、駅すばあと Web サービスの API で選択した出発地と到着地間の経路情報を取得する。経路情報は「平均待ち時間探索」[8] で、選択した出発地と到着地の緯度・経度情報を指定し、取得をした。WebAPI で取得される情報は今回 図 6 のような XML 形式のデータに指定した。

```

<ResultSet apiVersion="1.27.0.0" engineVersion="202211_01a">
  <Course searchType="plain" dataType="plain">
    <Route timeOther="70" timeOnBoard="55" exhaustCO2="648" index="1" exhaustCO2atPa
      <Point index="1">
        <Name>35.80193820522065,139.4610006089278,tokyo</Name>
      </Point>
      <Line direction="Down" stopStationCount="0" timeOnBoard="3" exhaustCO2="0" inc
        <ArrivalState>
          <Type>normal</Type>
          <Datetime operation="today">2022-10-26</Datetime>
        </ArrivalState>
        <Destination/>
        <TimeReliability>none</TimeReliability>
        <DepartureState>
          <Type>normal</Type>
          <Datetime operation="today">2022-10-26</Datetime>
        </DepartureState>
        <Color>230230230</Color>
      </Line>
      <Point index="2">
        <Station code="82072">
          <Name>こどもと福祉の未来館/埼玉県所沢市</Name>
          <Type detail="local">bus</Type>
          <Yomi>こどもとふくしのみらいかん</Yomi>
        </Station>
        <Prefecture code="11">
          <Name>埼玉県</Name>
        </Prefecture>
        <GeoPoint longi="139.27.45.9" lati="35.48.1.90" longi_d="139.462527" gcs="tc
      </Point>
      <Line direction="Down" stopStationCount="1" timeOnBoard="10" exhaustCO2="57" f
        <Name>埼玉県所沢市・ところバス※西路線・新所沢・狭山ヶ丘コース</Name>
        <Type detail="local">bus</Type>
      </Line>
    </Route>
  </Course>
</ResultSet>

```

図 6 駅すばあと Web サービスで取得する XML 形式の情報

WebAPI で出力された XML 形式のデータを PHP で受け取り、図 7 のように表示した。また、地図上では、検索結果の情報をもとに、図 8 のように表示した。

出発地: 到着地:

料金: 800円、時間: 157分 (乗車: 53分、徒歩: 13分、他

出発地

↓

喜多町/埼玉県所沢市

| 埼玉県所沢市・ところバス※西路線・新所沢・狭山ヶ丘

↓ 時間: 17分、料金: 100円

航空公園駅/埼玉県所沢市

| 徒歩

↓ 時間: 1分

航空公園

| 西武新宿線急行

↓ 時間: 2分

所沢

| 西武池袋線

↓ 時間: 24分

練馬

図 7 検索結果の表示

このシステムで使用したツールは、TCPDF [9] と FPDF [10] である。これらのツールは PHP で PDF ファイルが生成できるライブラリである。

まず、出張命令書に必要な情報は、図 10 のように第 2 章で扱った Jspspreadsheet で入力した。

出張命令書の作成			
項目	内容		備考
1	提出日	令和 4 年 10 月 10 日	
2	所属学科	幼児教育学科	
3	職名	准教授	
4	氏名	秋草 花子	
5	開始日時	令和 4 年 10 月 10 日 (月 曜日) 12 時 30 分から	
6	終了日時	令和 4 年 10 月 10 日 (月 曜日) 18 時 30 分まで	
7	出張目的	保育所巡回	
8	出張先	A 保育所	
9	随行者等	秋草 太郎	

図 10 出張命令書の情報の入力画面

何も入力されていない出張命令書の PDF ファイルを用意し、サーバ上に配置する。PHP で Jspspreadsheet に入力した情報を取得し、TCPDF と FPDF を使い、何も入力されていない出張命令書の PDF ファイルに情報を配置し、情報が配置された PDF ファイルを新たに出力する。図 10 の「PDF 出力」ボタンをクリックすると、処理が実行され、図 11 のような PDF ファイルが出力される。

1 / 1 | - 75% + | [] []

様式1-3 【教員用】 1350

出張命令書

令和 4 年 10 月 10 日

学 長

一般出張 引率出張

出張 (受命) 者

所属学科 幼児教育学科

職 名 准教授

氏 名 秋草 花子

上記の者に、下記のとおり勤務出張を命じる。

期 間	令和 4 年 10 月 10 日 (月 曜日) 12 時 30 分から 令和 4 年 10 月 10 日 (月 曜日) 18 時 30 分まで
出張目的	保育所巡回
出張先	A 保育所
随行者等	秋草 太郎

秋 草 学 園 短 期 大 学

図 11 PDF ファイルの出力

5. おわりに

今回、保育所実習の巡回のための地図型情報管理の試作システムを構築した。Web 地図での経路の表示、出張報告書の作成システムなどを実現した。Web 地図上に表示する交通の経路は WebAPI から取得できる経路途中の駅のみを線で結んでおり、正確に線路を沿う形になっていない。正確な道筋を示すためには、WebAPI でさらなるリクエストが必要となり、コストがかさみ、今後の運用を考えると現実的ではない。駅データが公開されており、そのデータを元に途中駅を算出する方法を今後考え、極力 WebAPI を頼らないシステムの構築を目指していく。また、今後実習生の配属先での状況を登録できる機能を作成し、Web 地図上の保育所のところで、実習生の状況を表示できるようにしたい。出張報告書作成システムについては、まだ作成していない出張報告書のページ作成システムを完成させ、ユーザごとにそのデータを管理できるようにし、実用で使えるようにしたい。

6. 参考文献

- [1] 林陽子, 宮嶋貴美子, 保育業務の ICT 化と保育好適空間構築の可能性について, 岡崎女子短期大学 子ども好適空間研究, 第 3 号, pp. 42-49, 2021.
- [2] 池本有里, 山本耕司, 保育業務の ICT 化における課題とその解決を目指す支援システムの構築, 四国大学紀要, 50 号, pp.49-61, 2018.
- [3] 細井香, 保育施設向け ICT ヘルスケアシステム構築のための検討, 東京家政大学研究紀要, 第 60 集(1), pp.65-72, 2020.
- [4] Jspspreadsheet v4: The javascript spreadsheet, <https://bossanova.uk/jspspreadsheet/v4/> (最終閲覧 2022/10/26)
- [5] OpenStreetMap, <https://www.openstreetmap.org/> (最終閲覧 2022/10/26)
- [6] Leaflet, <https://leafletjs.com/> (最終閲覧 2022/10/26)
- [7] 駅すばあと Web サービス for Amazon, <https://www.amazon.co.jp/dp/B07D44JYG1> (最終閲覧 2022/10/26)
- [8] 駅すばあと Web サービス 平均待ち時間探索, <https://docs.ekispert.com/v1/api/search/course/plain.html> (最終閲覧 2022/10/26)
- [9] TCPDF, <https://github.com/tecnickcom/tcpdf> (最終閲覧 2022/10/26)
- [10] FPDF, <https://www.setasign.com/products/fpdf/downloads/> (最終閲覧 2022/10/26)

7. 謝辞

本研究は JSPS 科研費 JP20K02694 「Web 技術と人工知能を活用した EdTech 保育所実習管理システムの構築」の助成を受けたものである。

*江本 全志 秋草学園短期大学 文化表現学科 准教授

[研究ノート]

保育課程論でのアクティブ・ラーニングにおける一考察

— ごっこ遊びを用いた保育者養成の方法について —

*大嶋 織江

A Study on Active Learning in Childcare Course Theory
About the method of training childcare workers using pretend play

Orie Oshima

キーワード： 保育者養成、ごっこ遊び、アクティブ・ラーニング

Key Words: Childcare worker training, Pretend play, Active Learning

要約： 近年、幼児教育における保育者養成の分野において、学習へのアプローチの手法としてアクティブ・ラーニングが注目されている。本研究では、N 保育者養成校の保育課程論の授業で行ったごっこ遊びを用いたアクティブ・ラーニングの手法について考察した結果を報告する。その結果、お寿司屋さんごっこで、いろいろな方法を工夫して学ぶことの重要性について学生が経験したことは、幼児が社会性を醸成するためにごっこ遊びの取り組みが有効であることを理解できたと考ええる。加えて、保育者教育には幼児理解を中核にしたカリキュラム・マネジメントが重要であることが示唆された。

1. はじめに

近年、幼児教育における保育者養成の分野において、学習へのアプローチの手法としてアクティブ・ラーニングが注目されている。

これからの保育者養成においては、幼児が幼児期にふさわしい生活をどのように展開しどのような資質・能力を育むかという、幼児の社会性の醸成が必要との認識を指導者（教員）と学生が共有することが重要である。そのためには、社会に開かれた教育課程が必要であり、基本となる知識・技能の修得だけでなく、幼児が社会生活や遊びの中から社会性を身につくような援助ができる保育者の育成が重要と考えた。

そこで、筆者が勤務するN保育者養成校において実践した保育者養成の過程で試みたアクティブ・ラーニングによるお寿司屋さんごっこ遊びの授業について考察しながら、学生に幼児の社会性の醸成（幼児に求める能力）について理解を深める取り組みを行ったので報告する。

なお、その過程において、問題解決へのアプローチとして、①幼児の社会性を醸成するためにはごっこ遊びの取り組みが有効であること。②保育者教育には、子ども理解のためのごっこ遊びにおけるアクティブ・ラーニングの取り組みが有効であること。加えて、今後の課題として、保育者教育には総合的な教育課程のカリキュラムデザインが重要であるとの認識を得た。現段階では、この取り組みは、保育者教育の模索における実践教育の域を出ないが、今後の研究を進める上での中間報告と捉えている。

2. 問題意識

幼児教育において、幼児期の幼児にふさわしい社会性を醸成させ、どのような資質・能力を育むべきかという問題は基本原則であり、幼稚園教育要領に示されているとおり保育者養成に携わる私たちは常にこの問題を注視すべきである。

本研究で、この取り組みを進めるにあたり、幼稚園教育要領を踏まえて、同様の保育者養成分野における社会福祉専門職養成関連科目の改善事例として、笠原ら(2008)が講義科目でアクティブ・ラーニングを可能にする基本構造について纏めたもの、また、和田ら(2013)による先行研究を確認した。それらの過程では「保育実習指導」および教科目の範疇で指導方法を検討している段階にあること、更に、アクティブ・ラーニングを保育者養成の演習系科目に導入しているが、カリキュラム改革など、包括的に検討された事例がみられないこと、加えて、他の学問分野や高等教育機関での実践においても、アクティブ・ラーニングが試行段階にあることを確認した。従って、現地点では、アクティブ・ラーニングを用いた研究はより良い成果を求める実験的段階であるとの認識を持った。

今回、これらの先行研究を踏まえ、筆者がN保育者養成校において行った保育者養成の授業の中で、アクティブ・ラーニングを用いて行った「お寿司屋さんごっこ遊び」の授業

が幼児の社会性を醸成するために有効性が高いと考えた。なお、評価の基準は幼稚園教育要領の三つの柱を用いて、アクティブ・ラーニングの体験型アプローチの手法により授業を展開した。以下に、幼児教育の三つの柱（幼稚園教育要領より）と体験型アプローチについて提示する。

幼児教育の三つの柱（幼稚園教育要領より）

- ① 豊かな体験を通じて、感じたり、気付いたり、分かたり、できるようになったりする「知識及び技能の基礎」
- ② 気づいたことや、できるようになったことなどを使い、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりする「思考力・判断力・表現力等の基礎」
- ③ 心情・意欲・態度が育つ中で、よりよい生活を営もうとする「学びに向かう力・人間性等」

これらは、幼稚園教育における子どもたちが資質・能力を育む目標を明確にしたものである。

体験型アプローチ

ア) 実際に体験する・・・幼児教育の三つの柱①「知識及び技能の基礎」

机上だけではない学びは、子どもたちにとって大切であるから、わからないことを自分で調べたり、実際に体験・実験してみたりすると興味・関心が湧きやすく、「学んで楽しい」「もっと知りたい・やってみよう」と学ぶことへのモチベーションアップにも繋がることを体験することを実際に体験する。

イ) グループやペアでの学び合いを体験する・・・幼児教育の三つの柱②「思考力・判断力・表現力等の基礎」

小グループなどで、お寿司作りを体験する過程で、例えば、どうしたら本物らしいお寿司に見えるかなど考えたり、判断したりし、それをお寿司製作の中で表現してみようことを実際に体験する。

ウ) 課題の解決を体験する・・・幼児教育の三つの柱③「学びに向かう力・人間性等」

お寿司屋さんごっこを体験する過程で、例えば、はちまきを巻いてみることやお寿司屋さんの看板を作るなど体験する中で、友達との相談などによって、作品を作り上げたりする中で、折り合いをつけるなど、子どもが学ぶ過程を実際に体験する。

3. 目的

今回、N保育者養成校における「保育課程論」での保育者養成に関する授業では、幼児が日常的に行っているごっこ遊びを通して社会性を育む事柄について、学生が幼児になりきって遊ぶ（アクティブ・ラーニング）ことで、幼児期に幼児に必要な資質・能力をどの

ようにして育むかという過程と、幼児の社会性の醸成に関する理解を深めるために、以下の目的に基づいて授業を展開した。

3-1. 授業の目的

- ① 試行錯誤を繰り返し、楽しさや不思議さ等の追求や問題解決に向けた学びの過程を再現すること。
- ② 授業を進める中で幼稚園教育要領の三つの柱が基本となっていることを学生と教員が共有すること。
- ③ アクティブ・ラーニングの有用性と課題についての気づきが醸成されること。

3-2. 授業のテーマ

今回、授業テーマを「お寿司屋さんごっこ遊び」とした。これは、幼児が幼児期に身につけるべき資質・能力を醸成するために、比較的身近なものの有効性が高いと考えた。具体的には、商品（お寿司）を作成（生産）➡授受（販売）➡顧客（消費）に至る一連の遊びの過程が、幼児にとって、商品作成（生産）では、商品知識や作成技能の基礎を学べる事、販売の場面では、店員役と顧客役とのやり取りを通して、商品への工夫や価格決定などに関する思考力・判断力・表現力等の基礎を学ぶ機会となるものと考えた。さらに、お寿司の販売過程を知ることで、商品（お寿司）と社会との関係性を考えることから、幼児の学びに向かう力（向上心）や他者との関係性を学ぶことによる人間性の醸成など、より学びやすいテーマであると考えた。

また、その中で、学生が幼児になって体験するであろう、楽しさや不思議さ等の追求、自分たちがお寿司を作る過程での試行錯誤など、アクティブ・ラーニングならではの問題解決に向けた学びを再現することで、その有用性と課題についても考察を行った。

3-3. 体験型アプローチの実践

ア) 実際に体験する ➡ ごっこ遊びで使う商品（お寿司）を作る（製作）

- お寿司を作る（ティッシュとラップでシャリ作り&画用紙と折り紙でネタ作り）
 - お寿司づくり
 - 材料（折り紙、ティッシュ、セロテープ、ラップ）その他（お皿、湯呑など）
 - 販売
 - お金、プラレールで回転ずし、店員の服（エプロンや新聞紙で作成）
 - 留意点
 - 作業内容を分かりやすく説明する。主体性に任せる。アイデアを褒める。
 - 出来る限り、援助しない。

製作場面



出来上がり



- 商品（お寿司）の製作からの学び（知識及び技能の基礎を学ぶ）
 - 商品（お寿司）の種類を調べ、知識としての学び
 - 商品がどのようにして作られるのか、作業と工程の学び
 - 良い商品をたくさんつくること、上手に作るための工夫に関する学び

イ) グループやペアでの学び合いを体験する。

➡実際にその商品を使って、お寿司屋さんごっこ遊びをしてみる。

アクティブ・ラーニングの学びとして、学生だけでなく、時に教員も含めて、他の人との「学び合い・教え合い」による社会との関係を体験した。これは、知識及び技能の基礎を学ぶために作成した商品を使ったお寿司屋さんごっこの中で、其々の場面に想定される幼児期の学びの段階を意識したセリフを考え、商品の授受、その際のお寿司屋さんと買い物客との受け答えなどを想定して、グループワーク1として行った。なお、グループワーク1はアクティブ・ラーニングの体験型アプローチの手法を用いて、1対1での意見交換、グループディスカッション、ディベートグループワークなど、一人ではなく他のメンバーとの「学び合い・教え合い」に重点を置いて行い、新学習指導要領における「対話的な学び」を用いて社会との関係を体験することに配慮した。

● グループワーク1

題目を「お店屋さんごっこをしよう」とし、子どもによるお寿司屋さんごっこ遊びの場面を想像しながら、お寿司屋さんで使われるセリフについて考える場とした。

● セリフを考える

アクティブ・ラーニングの学びとして、幼児の目線を意識しながら、自分が経験したお寿司屋さんの雰囲気や会話をグループのメンバーで話し合い、メンバー内で各自が提案したお寿司屋さんの場面にふさわしいセリフをグループ内で意見を纏めながら、決めていく。

例)

保育 こども デザイン 学科2年 (男子)	「へい！らっしゃい」 「どうですか？おいしいです か？」「〇〇1つ」「〇〇下さい」 「おすすめは〇〇です」「わさび はいりません」「〇〇円です。」 「ありがとうございました」
-----------------------------------	--

- グループワーク 1 からの学び（思考力・判断力・表現力等の基礎を学ぶ）
- ・各自の経験から、お寿司屋さんの仕事内容についてグループ内で話し合う学び
 - ・グループ内でお寿司屋さんの仕事の場面を想定し、場面ごとにふさわしいセリフを考える学び
 - ・グループ内でメンバーが互いの意見を聞き、場面ごとにふさわしいセリフを纏めることの学び
 - ・グループやペアでの学び合いや教え合いを体験する学び

表 1. グループワーク 1 の学びとしての学生の感想（筆者作成）

保育こどもデザイン学科 2 年 (男子)	・幼児たちと一緒に楽しくおと いうことを常に意識する。 ・援助し過ぎるのではなく、幼児に もやらせて自信をつけさせたり、楽 しきを感じとってもらう。
保育こどもデザイン学科 2 年 (女子 A)	・お買い物をしている側の幼児が 「これほしい」と言っているのに店 側の幼児が違うものを勧めていた ら、二人の気持ちを汲み取って話 し合いたいと思う。 ・自分の意見を言う事も大事だ が、相手の話を聞く力を身に付け られるように支援していきたい。
保育こどもデザイン学科 2 年 (女子 B)	・お客さん役として感想を言う。 ・準備物を用意する。 ・幼児を自由に遊ばせて、自分た ちで考えさせる。

○ グループワーク 1 の考察

グループワーク 1 では、保育こどもデザイン学科 2 年の学生 3 人と教員 1 人も参加して、グループワークを行った。セリフを考える場面では、教員側からお寿司屋さんだけで使われる独特の言葉もあることなどにも着目して、セリフを考えてみるように指導した。その結果、学生の考えたセリフの中に「へい！らっしゃい」など、お寿司屋さんでしか使用されないセリフが含まれている。このようなお寿司屋さん独特のセリフを考えてみることは、幼児とお寿司屋さんごっこを展開する中で、まだ、言葉の数が限られる幼児たちの言葉の獲得に繋がると考えた。

また、お寿司屋さんでしか使用されない独特の言葉を幼児が知ることは、お寿司屋さんの世界への興味を深め、お寿司さんのイメージを幼児たちが共有していく上で、重要なきっかけとなる。保育者になる学生がこのようなお寿司屋さん独特の言葉を考え、保育現場で、ごっこ遊びを積極的に展開することは、幼児期の言葉の獲得や発達、また、幼児の興味を喚起させることに繋がるものであり、幼児教育の三つの柱の一つである幼児が獲得すべき思考力・判断力・表現力等の基礎を醸成する重要な保育者の援助であると考えた。

ウ) 課題の解決を体験する

「問題解決型学習」として、ある問題や課題に対してのアイデアや解決法を出したり、それを検証したりする方法を体験すること。

○グループワークの取り組みから、お寿司屋さんごっこ遊びの課題（ねらい）の検証を行った。

グループワーク 2 として、指導者（教員）と学生 3 人がアクティブ・ラーニングのグループワークの手法を用いて、お寿司屋さんごっこの課題をねらいと位置づけて、ごっこ遊びでの体験を 5 領域の観点から整理して、課題解決の取り組みを行った。

● グループワーク 2

題目を「お店屋さんごっこのねらいについて考える」とし、お店屋さんごっこの課題について 5 領域に整理して考える場とした。（教員 1 名と学生 3 名で実施）

○ グループワーク 2 からの学び（学びに向かう力、人間性等の基礎を学ぶ）

- ・健康・人間関係・環境・言葉・表現などにより、問題を意識することの学び
- ・グループ内で問題点を共有することの学び
- ・グループ内で他メンバーの意見を集約し、問題解決に関する学び

表 2. お店屋さんごっこのねらいを 5 領域の観点から分類
(学生とのグループワークをもとに、筆者が作成)

	健康	人間関係	環境	言葉	表現	グループワーク 2 の感想
保育こどもデザイン学科 2 年 (男子)	<ul style="list-style-type: none"> ・準備段階で、ハサミを使う時に誤って指を切ったりしないように気をつけて扱う ・時間を見て、行動。 	<ul style="list-style-type: none"> ・店員とお客さんの役割分担を学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・役割ごとに、どのようなものを使っているか、何が必要かを学ぶ。 	<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの役割で使う言葉を学ぶ。 ・看板を書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近にあるものを使って、どこまで本物に似せることができるかを工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・1つのごっこ遊びでも一つ一つの領域ごとに意識しなければならないことや大切なことが色々あることに気づけた。
保育こどもデザイン学科 2 年 (女子 A)	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びで使う道具などを安全を考慮して使う。 ・安全面を考える。(喧嘩など) ・見通しをもって考える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人と関わることで相手を思いやる気持ちを育む。 ・店員とお客に分かれて役割を知る。 ・相談をする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・遊びを通して社会のルールを学ぶ。 ・遊びで使う場所や道具などを知る。(どのような物を使うか) 	<ul style="list-style-type: none"> ・お店屋さんごっこ特有の言葉を知る。 ・相手の話を聞く。 ・商品の説明、書いたりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・見立てて遊ぶ。 ・見立てて遊ぶだけでなく、想像をしながら遊ぶ。(想像力を養う、自己表現) 	<ul style="list-style-type: none"> ・他の人の意見を聞くことで、自分にはない考えを知ることができました。
保育こどもデザイン学科 2 年 (女子 B)	<ul style="list-style-type: none"> ・ごっこ遊びをする中で、どんなことをしたら危険かを学ぶ。(物を取り合いっこした時) ・時間になったら遊びをやめる。(見通しをもって行動する) 	<ul style="list-style-type: none"> ・おもちゃ道具の貸し借りのやりとりをする時に相手のことを考えて行動する。(相談をする。思いやる気持ちをもつ) 	<ul style="list-style-type: none"> ・ごっこ遊びをする時の道具やメニュー表等を用意する。 ・日常生活でのルールなどを守って行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・お店屋さんならではの言葉を使う、学ぶ。 ・書く言葉を学ぶ。 ・これがどういうものかを質問する。 ・自分がどうしたいのかを相手に伝える。 ・相手の気持ちを聞き、理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ある物を使って、別のもので見立てる。 ・その役割の人がどのような動きをしているか考えて行動する。(なりきって) ・自分の考えを出す。(自己表現) 	<ul style="list-style-type: none"> ・改めて考えると、さまざまなねらいが出てくるので、自分が気づかないものに少しづつ気づいていけるといいと思う。

○ グループワーク 2 の考察

グループワーク 2 では、テーマを「お店屋さんごっこのねらいについて考える」とし、お寿司屋さんごっこのねらいを課題に位置づけて、5 領域の観点から考える場とした。

その際、「保育課程論」の教科としての理解の上で、学生自身がごっこ遊びを体験する中で課題となった事象について、5 領域、即ち、「健康」「人間関係」「環境」「言葉」「表現」の観点から考察をおこなった。その結果、学生の感想にあるように①「1 つのごっこ遊びでも各々の領域ごとに意識しなければいけないことや大切なことが色々あることに気づけた。」②「他の人の意見を聞くことで、自分にはない考えを知ることができた。」③「改めて考えるとさまざまな課題が出てくるので、自分が気づかないものに少しずつ気づいていけるといいと思う。」など、グループの個々のメンバーの意見が、相互に関連性を構築して、対話による意見交換により、課題を見出し、それに対する対策を講じることができた。

また、普段、何気なく、幼児が行っている「お店屋さんごっこ」には幼稚園教育要領や保育所保育指針での幼児を育てる際の目標が網羅されていると判断した。従って、お店屋さんごっこを、改めて 5 領域で分析してみることは、学生に子どもが「お店屋さんごっこ」で何を学んでいるか、また、どういうことを幼児の目標として環境設定を行うのがよいのかも含めてイメージすることができる有効な手段である。

● グループワーク 3

学生がごっこ遊び（お寿司屋）を体験してみて、どうだったかについて、1～3 の問いに答える形式で考えを纏める場とした。グループワーク 3 では、保育こどもデザイン学科の学生 3 人と教員 1 人も参加して、ごっこ遊び（お寿司屋）の体験に関するグループワークを行った。グループワーク 3 は学生が作成したワークシートを示し、考察を行った。

(グループワーク) 3

2017.9.18

保育課経験

ごっこ遊び (お寿司屋) を実際に体験してみて、どうでしたか。

1. その自分自身の体験を通して、ごっこ遊びから子どもたちが得られると思うことを考えなさい。

◦ 想像力 ・ コミュニケーション能力 ・ 役割分担
◦ 社会のルール (社会性) ◦ 自分の気持ちを伝える。
◦ 道具 (はさみ、のりなど) の使い方
◦

2. ごっこ遊び (お寿司屋) を実際に体験したことより、ごっこ遊びの際の保育者の援助について考えなさい。

◦ 実際のお寿司の写真を置いておく。
◦ 子どもに対する声かけ。(「どういうのをのせたら美味しいか
思う?」)
◦ 自分自身も一緒に子どもたちと楽しむ。
◦ 子供の世界を常に壊さないようにする。
(例: 職員室に用事がある時 → お寿司をくるね、
お寿司をくるね。)

3. 子どものごっこ遊びを体験した感想を書いてください。

◦ 実際に子どもの立場になって自分でお寿司を作ると、
いくと、子どもがどのような援助を必要としているかなど
が体で覚えらるのでもとても楽しかったです。

クラス () 出席番号 (|) 名前 ()

(グループワーク)3

2017.9.18

保育課程経験

ごっこ遊び (お寿司屋) を実際に体験してみて、どうでしたか。

1. その自分自身の体験を通して、ごっこ遊びから子どもたちが得られると思うことを考えなさい。

・想像力
・コミュニケーション (言葉の学び)
・役割割り分担
・ルールを知り、
・表現、物の扱い方

2. ごっこ遊び (お寿司屋) を実際に体験したことより、ごっこ遊びの際の保育者の援助について考えなさい。

・お寿司の写真をおいておく。 ・子どもの視点にする。
・必要なものを用意する。 ・子どもの発達を
・声掛け 邪魔をしない。
・一緒に楽しむ。
・子どもの世界観を大切にすること。

3. 子どものごっこ遊びを体験した感想を書いてください。

お寿司の作りかでも、元からあるものでなくても、イメージで
作ってもらったり、作りかがあるのも面白いと思いました。実際に
遊びとしても、子どもになった気持ちで遊ぶことで
より子どもの気持ちの方が分かるのだと思います。

クラス (保育士2年) 出席番号 (3) 名前 ()

○ グループワーク 3 の考察

ごっこ遊びはその役らしさを大切にしながらも、相手とのかかわりの中でストーリーが展開していくものである。幼児があたり前のように経験している遊びの過程を、実際に演習という形をとることで、幼児はどのように相手の思いを汲んだり、すりあわせたりしながら共通のイメージを持って遊んでいるかということ、経験を通して理解することができる。幼児がごっこ遊びの中で、身近なものを使って本物らしく遊びを発展させていく。何も道具がなくても、工夫次第で遊ぶことができる。学生にもそれを体験させたいが、幼児の姿を見る機会も少なく、自身の幼児期からも年月が経っており、何もない中で遊ぶというのは抵抗を感じると考える。そこで、幼児の遊びの中でもよく用いられる折り紙と身近にあるラップとティッシュペーパーを使ったお寿司作りの製作と自ら製作したお寿司を使ったごっこ遊びをすることとした。保育課程論において、指導計画を立てる前段階として、また、保育実習の前段階としても、この演習を行うことで、幼児をどのように見ればいいのか、幼児を見る視点づくりに繋がっていくはずである。なお、本稿では、実践の内容を報告するとともに、学生がいかに幼児理解を深めたのかといった点を明らかにするために、実践中に記入されたワークシートを 2 例提示し、考察を行った。グループワーク 3 では、ごっこ遊び（お寿司屋）を実際に体験してみて、どうでしたか。ということについて、以下の①～③に答える形で、グループワークを行い、考えを纏める場とした。その結果について報告する。

- ① その自分自身の体験を通して、ごっこ遊びから、幼児が得られると思うことを考えなさい。というテーマからは、想像力、コミュニケーション能力、役割分担、社会のルールを知る、自分の気持ちを伝える、表現力、道具（はさみ、のり）の使い方などが学生からあげられた。それらを、幼稚園教育要領にある 5 領域にあてはめてみると、コミュニケーション能力（言葉）、役割分担（人間関係）、社会のルール（環境）、自分の気持ちを伝える（言葉・表現）、道具（はさみ・のり）の使い方（健康）の 5 領域にあてはまる。このことは、グループワーク 2 でもおこなったことの裏づけになるとともに、幼児のごっこ遊びが幼稚園教育要領にある 5 領域を学べる遊びであることの証明にもなる。したがって、学生がごっこ遊びを体験することは、指導案作成時に網羅しなければならない 5 領域について、深く学ぶよい機会となる。さらに、ごっこ遊びを追体験することで、子どもの気持ちになることができ、幼児への理解にも繋がる。
- ② ごっこ遊び（お寿司屋）を実際に体験したことにより、ごっこ遊びの際の保育者の援助について考えなさい。というテーマからは、実際のお寿司の写真を置いておく、子どもに対する声掛け、具体的には、「どういうものをのせたら美味しいと思う？」など。また、自分自身も幼児と一緒に楽しむ。子どもの世界を常に壊さないようにする。必要なものを用意する。幼児の視点になる。幼児の発達をさまたげない。などが

学生からあげられた。学生からの保育者の援助の例からは、幼児のお寿司屋に対するイメージを広げたりするような援助が多くあげられていた。幼児のイメージを助ける援助は、幼児が友達とイメージを共有する際にも役に立つ。したがって、事前にごっこ遊びを保育者になる学生が体験し、保育者の援助を考えておくことは、幼児のお寿司屋さんのイメージを広げ、幼児自身に楽しい気持ちをもたせ、主体的にお寿司屋さんごっこに参加するための有効な手段である。

- ③ 幼児のごっこ遊びを体験した感想を書く。というテーマでは、実際に子どもの立場になって自らお寿司を作っていくと、幼児がどのような援助を必要としているかなどが、体で覚えられるので、とても楽しかったです。(男子) お寿司の作り方でも元からあるものでなくても、イメージで作ってもらいやり方があるのも面白いと思いました。実際に遊ぶとしても、子どもになった気持ちで遊ぶことで、より幼児の気持ちが分かるのだと思いました。(女子) などの感想が得られた。この感想から、実際にごっこ遊びを体験することで、学生自身も子どもの気持ちをイメージしやすくなり、幼児への理解が深まることがわかった。

4. 指導案の作成

本授業では、保育課程論の教科の要ともいえる指導案作成を最後におこなった。その際に通常は、指導案作成→実践という順序で行うが、本授業では、あえて、実践→指導案作成という反転した順序で行った。それは、先行研究で、田中・安東(2016)が「指導案は、計画的、意図的な保育を展開するために不可欠なものである」と述べているのに対し、金(2017)は、「実践後に指導案を書く学び、実践を見た後に指導案を書く学びは、周りの理解と学生にイメージする力、丁寧に振り返る力、客観視できる力が備わっていれば、もしくは、その力を引き出す手立てを教員側が持っていれば、指導案立案の際の有効な学び方となり得る」と述べている。

したがって、金(2017)が述べている通り、本授業でおこなったお寿司屋さんごっこの体験においても、学生がまず、お寿司屋さんごっこを体験してから指導案を書くスタイルは、学生に指導案を書かせる際のイメージ力のアップや丁寧に実践を振り返る力の育成を促すと考えられる。さらには、そのイメージする力のアップによって、保育実践の際の子どもの姿の想像にも役立ち、幼児の望ましい援助を考える手立てとなることは間違いがない。

最後に、学生が書いた指導案を提示し、添削を加えた上で、今後の学生の指導案作成についての課題を抽出する。

④ については、「上手に片せたね。」と書いてあるが、「上手に片づけられたね。」と正しい日本語で伝えてほしい。

⑤ については、自信をつけさせるとここでも命令形になっているので、正しくは、自信をつけれるように、言葉をかける。とするのがよいだろう。

また、導入についていうと、子どもたちに「どんなお寿司があるか」「どんなお寿司が好きか」といった話をしているのはよいと思うが、子どもたちのお寿司に対するイメージを広げたり、活動に期待を持たせたりするには、さらに、導入にお寿司に関係する手遊びである例えば、「ぐるぐるおすし」を使ったり、絵本の読み聞かせ、例えば、『のらねこぐんだんおすしやさん』などを使う方法もあるだろう。

さらに、教師の援助のひとつとして、お寿司を食べたことのない子への配慮として、例えば、絵本『おすしのずかん』を保育者と子どもで一緒に見てみるなどして、これから作成（生産）するお寿司のイメージ作りを助けるなどの配慮も必要であるだろう。

木戸(2008)は、学生の指導案は、子どものできないことを援助する場面は詳細だが、より楽しくなることの援助は具体性に欠けることを報告し、ねらいと援助の整合性の検証が必要であることを指摘している。確かに、木戸(2008)の言うように、今回のN保育者養成校の学生においても、導入の1つをとってみても、子どもがより楽しくなり、お寿司屋さんごっこ遊びのイメージを広げるための手立てが少なかった。しかしながら、逆にそのことは、自分の保育、あるいは子どもの反応がねらい通りに行かない場合にも意味があるような指導、あるいは、ねらい通りに行かなかった場合には、その後、どのように修正していけばよいのかを考えることで、子ども理解が多層的になると考えることもできる。現地点での学生のできないことへの指導も重要ではあるが、そのこと以上に、学生が子ども理解を深められる工夫のある指導が重要であると考えた。そのために、これからの保育者教育は、総合的な教育課程のカリキュラムデザインが重要であると考えられる。

5. 総合考察

学生の指導案作成の考察から、これからの保育者教育には、総合的な教育課程のカリキュラムデザインが重要であると私は考えたが、そのことについて、文部科学省(2020)の「指導計画の作成と保育の展開について(仮称)」では、教育課程編成において重点とすべき事項として、次の3点をあげている。①教育目標に向かってねらいや内容を組織的、計画的に示す。幼稚園教育要領に示された5つの領域の「ねらい」や「内容」をそのまま教育課程における具体的なねらいや内容とするのではなく、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」との関連を考慮しながら、幼児の発達の各時期に展開される遊びや生活に応じて適切に具体化したねらいや内容を設定する必要がある。②「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」を踏まえて教育課程を編成するとは、どのようなことなのか考える必要があるとし、「踏まえる」とは、遊びや生活を通して幼稚園教育において育みたい資質・能

力が育まれ、その結果として「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」のそれぞれの姿が幼児の姿として一体となって見られるようになるという意味であることを十分理解し、総合的に指導すること、さらに、各学年にふさわしい遊びや生活を積み重ねることを通して育まれるようにする必要があるとしている。例えば、「お店ごっこ」で商品をつくるときに、分からない文字について友達と考えたり、周りの環境から探し、理解するというようなことがそのことにあたる。③幼児が自発的に取り組む活動としての遊びの過程には、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」のそれぞれにつながる様々な学びの絡み合った姿が見られる。それは、幼稚園教育において育みたい資質・能力である「知識及び技能の基礎」、「思考力・判断力・表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」の3つが繰り返し循環し関連し合う姿でもある。としている。そのことは、文部科学省が、カリキュラム・マネジメントの中核は幼児理解であるとし、その内容として、①幼児は自ら発達に必要なものを獲得しようとする力をもつ。②その力を十分に発揮できるような環境の構成が重要。③幼児の中に何が育とうとしているのかななどを踏まえて計画を立て、幼児が興味や関心、必要感に基づいて主体的に活動し、充実感や満足感を味わえるような保育が大切。④幼児理解に基づいた評価を通して幼児の実態を捉え、教育課程の実施状況の評価、改善。⑤幼児理解にあたっては、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を念頭におく。としていることと一致する。

したがって、お寿司屋さんごっこを通して、幼児が幼児期に育みたい資質・能力である幼児の自発的な活動となる遊びや生活が追体験され、その中で他の人との関係が醸成され、それらが刺激となって幼児なりの感性を働かせて、お寿司の価値や美しさを感じとったり、不思議さに気づく中で疑問が湧き、その為の解決策を考え、解決策を試行するなどの過程が再現されたことは、学生にとって意義のあることであると考え。また、お寿司屋さんごっこで、色々な方法を工夫して学ぶことの重要性について学生が経験したことは、幼児が社会性を醸成するためにごっこ遊びの取り組みが有効であることを理解できた。加えて、保育者教育には、幼児理解を中核にしたカリキュラム・マネジメントが重要であることがわかった。

6. おわりに

本研究から、今後の課題として、保育者教育には、総合的なカリキュラム・デザインが必要であると考えた。それは、「将来像答申」（中央教育審議会「我が国の高等教育の将来像（答申）2015年1月」）で提唱されて以来、大学のカリキュラム・デザイン（教育課程編成）における中心的な考え方として、政策的に普及が図られてきたものであり、その3つのポリシー 1. ディプロマ・ポリシー（学位授与方針） 2. カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針） 3. アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）である。その中でも、私は、今回の保育課程論でのアクティブ・ラーニングにおける一考

察—ごっこ遊びを用いた保育者養成の方法について—を検討した結果、2のカリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）が各授業においては重要になると考えた。

ディプロマ・ポリシーの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針である。そのために、各授業においてカリキュラムをデザインすることが重要となる。カリキュラムをデザインする第一の主体は、いうまでもなく大学・教科等の教育組織および教育団である。しかし、カリキュラムの編成の主体は教職員だけではない。大学のカリキュラムは学生を介して初めてカリキュラムとして完成する。即ち、大学のカリキュラムは厳密に言えば、あらかじめ決められた教育課程の中では存在せず、一人ひとりの学生のたどる跡に初めて姿を現す。英語で履歴書のことを” curriculum vitae” というが大学のカリキュラムはまさに「学びの履歴」となった時、はじめて意味をもつといえる。

そうであれば、教育課程のカリキュラムデザインの主体は、学生であり、今回の保育課程論でのアクティブ・ラーニングで行ったように学生と教員が協働することで、はじめて出来る上がるものであるということが出来るだろう。今後は、それらのカリキュラムの「学びの履歴」を評価し、さらなる保育者養成の方法について検討していきたい。

<引用文献>

・文部科学省 2017 年告示

『幼稚園教育要領（原本）』

・文部科学省 文部科学省初等中等教育局 幼児教育調査官 小久保篤子

「指導計画の作成と保育の展開について（仮称）」2022 年 7 月 24 日閲覧

https://www.mext.go.jp/content/20200709-mxt_youji-000004480_01.pdf

・京都大学高等教育研究開発推進センター

「カリキュラムのデザイン」2022 年 7 月 24 日閲覧

<http://www.highedu.kyoto-u.ac.jp/curriculum/>

・木戸啓子(2008)

「保育学生の指導案作成に関する学びⅡ」『全国保育士養成協議会第 47 回研究大会研究発表論文集』98-99 頁

・和田明人他(2013)

「保育者養成におけるアクティブ・ラーニング」『東北福祉大学研究紀要』第 37 巻 57-71 頁

・笠原千絵他(2008)

「講義科目でアクティブ・ラーニングを可能にする基本構造：社会福祉専門職教育関連科目における実践から」『関西国際大学研究紀要』第 9 号 13-23 頁

・金瑛珠(2017)

「保育・教育課程を学ぶ授業における指導案指導のあり方についての一考察—順序性について考える—」『未来の保育と教育—東京未来大学保育・教職センター紀要』第4号
55-63 頁

・田中敏明・安東綾子(2015)

「保育指導案の形成と内容に関する考察—保育指導案の統一の必要性—」
『九州女子大学紀要』第52巻2号 117-130 頁

<参考文献>

・後藤範子(2011)

「4年制大学における保育士養成教育と資質能力向上に関する一考察」『東京家政学院大学紀要』第51号 23-30 頁

・片平朋世他(2016)

「子ども理解を深めるためのままごと演習」『ノートルダム清心女子大学紀要』40巻1号
81-96 頁

・秋田喜代美・藤江康彦編著 2022年5月10日 第3版

『これからの質的研究法』東京図書株式会社

・宮川萬寿美編著 他 2019年2月21日 第2版第1刷

『保育の計画と評価—豊富な例で1からわかる』萌文書林

大嶋 織江 秋草学園短期大学 地域保育学科 非常勤講師

[研究ノート]

保育内容「表現」に関わるオンライン授業を通じた試み

—ピクトグラムをモチーフとした音楽・身体・造形の表現活動の取り組み—

*小口 偉

**長谷川 恭子

***塩崎 みづほ

Attempts through online classes related to childcare content and areas of expression—Efforts to express music, body, and modeling with pictogram motifs—

Suguru Oguchi

Kyoko Hasegawa

Mizuho Shiozaki

キーワード： 領域「表現」、オンライン授業、総合的表現活動

Key Words: Expression, Online class, Comprehensive expression activity,

要約： 保育者養成校のオンライン授業において、保育内容、領域〈表現〉に関わる総合的表現の学びを充実させる指導と課題の在り方についての検討を試みた。オンライン授業での事例をもとに「学生が感じた状況」と「教員の振り返り」を合わせて考察した。結果としてオンライン授業における表現活動に必要な観点と考えられる三つの点を明らかにすることができた。

Abstract: In this study, we attempted to examine the ideal state of instruction and tasks for enriching the learning of comprehensive expressions related to childcare contents and domains (expressions) in online classes at early childhood education institutions. Based on a case study of an online class, we examined "situation felt by students" and "reviews of teachers." As a result, we were able to clarify three points that are considered necessary for expression activities in online classes.

1. はじめに

本研究は、保育者養成校のオンライン授業において、保育内容、領域〈表現〉に関わる総合的表現の学生の学びを充実させる指導と課題の在り方についての検討を試みたものである。

教育現場において ICT 教育の充実に取り組まれるようになって久しい。2019 年 12 月には文部科学省により GIGA スクール構想が打ち出され、一人一端末の対応や通信環境・クラウドなどの設備の対応などが進められており、高等教育機関でも、そうした対応が必要になっている。奇しくも 2020 年からのコロナ禍により、ICT 教育は急速に進歩せざるを得なくなった。各教育機関はオンライン授業の対応が必要となり、筆者らの所属校においても新型コロナウイルスの感染状況が悪化することで対面授業が遠隔授業に切り替わった。

保育内容、領域〈表現〉に関わる教科を担当する教員にとって、学生と教員が対面して実技を行うことができない状況は、学生の学びをどの程度保障できているかを確認することが難しく、毎回苦慮しているところである。

2. 研究の目的

オンライン授業における領域〈表現〉に関わる授業の取り組みについての先行研究で、井本 (2020) ¹⁾ は、学生はオンライン授業による学びを感じているとともに、対面授業による友人や教員との関わりや分かりやすさを求め、教員側は、IT 環境や教材の所有、ツールによる問題を懸念していることを報告している。また、川口ら (2021) ²⁾ によれば、複数教員により領域〈表現〉に関わるオンライン授業 (オンデマンド) を行った結果、学生が他の学生の様子を確認することができないことの不安から、作品に対して「正解」を求めるとの傾向にあると考察している。

コロナ禍での授業にある程度慣れ、さまざまな対応も考えられるようになってきた今、今後のオンライン授業実施にあたり、井本や川口らが明らかにした課題への対応を考えていくことも必要であると考え。そうしたことを踏まえ、筆者らの所属校において、オンライン授業で総合的表現を行った。

本研究は、筆者らが担当している科目「表現とアート」のオンライン授業で試みた事例『「ピクトグラム」を使ってオリジナル動画を作ろう!』から、「学生が感じた状況」と「教員の振り返り」を合わせ検討し、オンライン授業で総合的表現に取り組むための在り方を考察する。

3. 事例の内容

3-1. 事例内容

本研究の事例は、保育者養成校 (A 短期大学) 幼児教育学科の選択授業科目「表現とアート」で行われた『「ピクトグラム」を使ってオリジナル動画を作ろう!』である。

2021 年度半期 15 回の授業のうち、第 2 回～第 5 回の授業内容であり、ピクトグラムをモチーフとして、身体表現、造形表現、音楽表現それぞれの観点で作品を作成することを目的とした表現活動をし、最終的に総合表現として動画作品を作成した。

3-2. 題材設定の背景

コロナ禍により 2021 年に開催延期された第 32 回オリンピック競技大会（2020/東京）の開会式でのピクトグラムを用いたパフォーマンスに影響を受けたこと、ピクトグラムを使用した動画制作はオンライン授業でも取り入れやすいこと、といった理由からである。ピクトグラムとは、案内などの情報を単純な図形として表したものである。特にオリンピックにおいては、「1964 年に開催された第 18 回オリンピック競技大会（1964/東京）の施設、設備の案内用図記号とともに、スポーツの各種目を表すマークが定められました。世界的な行事やイベントで全体的にデザインされた案内用図記号が作られたのは、このときが最初でした。その後は、オリンピックなどの世界的なイベントでは、それぞれの開催地で知恵を絞ったマークがつけられています。」³⁾（村越・横田，2004，p.18）とされている。開会式では、表情がない単純な視覚デザイン衣装をまとった人間が、音楽に合わせた身体表現をするという形で今回大会使用のピクトグラムを紹介した。これはオンラインで表現を扱う授業との共通性と学習効果の有効性を感じさせるものであった。

3-3. 授業の内容

授業は Google の classroom を使用したオンデマンド型のオンライン授業であり、それぞれの授業日に資料と課題が学生に配信される。この授業の履修者は 1 年生 14 名であった。各授業の振り分けは以下の通りである。

第 1 回 授業ガイダンス

第 2 回 2021 年 9 月 24 日 身体表現「ピクトグラムを体で表してみよう！」（塩崎）

第 3 回 2021 年 10 月 1 日 造形表現「よりよく見える工夫をしよう！」（小口）

第 4 回 2021 年 10 月 8 日 音楽表現「音をつけてみよう！」（長谷川）

第 5 回 2021 年 10 月 15 日 動画作品にしよう！

第 2 回目の身体表現のオンライン授業では、ピクトグラムについて文章で説明を行った。オリンピックのものを例として、ピクトグラムは社会の中にたくさんあることに気づき、興味を持てるよう解説をした。身体表現での課題は、体でピクトグラムを表現することとした。動きの創作をする上で、文字での説明だけでは分かりづらいため、動画を作成した。動画を見ながら学生と一緒に動けるようにし、課題につなげた。動画では、オリンピックのピクトグラムを 2 つ選び、その絵を見て体で動きを即興的にポーズをとる。その後

は、3つをつなげるため、つなぎの動きを考えるようにした。つなぎの動きは、回転したり、その次の動きの模倣をしたり、スローの動きからポーズにするなどを組み合わせた。その後、課題提示は次の①～⑥とした。

- ① お気に入りのピクトグラムを3つ選び、ポーズを決める（オリンピック以外も可）。
- ② 3つの動きについて行う順番を決める。
- ③ つなぎの動きを決める。
- ④ スムースに動けるよう練習する。
- ⑤ 動画に撮影する。
- ⑥ classroom から提出する。

一人でも、グループで行うのもどちらでも構わないこととした。動画で撮影することも踏まえ、撮影の仕方の工夫についても助言した。上から撮影する、ひきからアップにするなど、画面への写り込み方も表現の工夫になる点へ気づかせるようにした。

第3回目に行った造形表現のオンライン授業では、第2回目の身体表現で作成したピクトグラムの紹介をするポスターづくりを課題とした。この課題のねらいは、「制作を通し表現のための知識を身につけること」とした。

表現には技術が必要ではある。しかし「絵を細密に描く」というような熟練した技巧による表現をするための技術を身に付けなければ表現はできないというようなものではない。加えて、授業を受ける学生はこれまでにそうした訓練をした経験もない。表現のための知識を身につけるだけでも、それは表現の技術の一つを獲得したと考え、課題制作のために「構成美の要素」について資料を準備した。造形表現ではモノに直接的に関わり実感を持つことや、その感覚を持って作品として表すこと、さらに周囲と感覚を共有したり意見を交わしたりすることが重要であると考え。しかし、オンライン授業では内容は限定的なものになる。この授業回で「構成美の要素」を資料として提示したのは、「伝える」という要素が強いポスター制作であるためではあるものの、今回の最終的な作品制作についても応用できると考えたことが理由である。特に画面の中でのモノやヒトの配置、配色について「伝える」ための工夫をしてほしいと考えた。

「構成美の要素」の内容は次の通りである。「対称(シンメトリー)、律動(リズム)、繰り返し(リピテーション)、階調(グラデーション)、対比・対立(コントラスト)、比率・割合(プロポーション)、強調(アクセント)、つり合い(バランス)」これらの要素について参考作品とともに解説し、教員が例として制作したものを提示した。

以上を踏まえ、「デジタル機器を使用した制作か、手作りにて制作する、あるいは複合的に制作をすることも可」という条件にて制作することを課した。履修者は全員、写真編集アプリ、イラスト作成アプリ等を使用した制作となり、classroom にて提出した。

第 4 回目に行った音楽表現のオンライン授業では、イメージや感情の動きを誘発する音について考えることをねらいとした。第 2 回目の身体表現で作成したピクトグラムの動画を視聴した際に、どのようなイメージを受けたり、どのような感情を持ったりしてほしいのかを考え、音を作成することを課題とした。

この課題に取り組ませるために、教員からは以下のものを見本として提示した。

a. アニメーション動画

パワーポイントでイラストを作成し、状況を説明した字幕と、その場面の感情を表した効果音をつけた。

b. 教員の演奏の動画（解説つき）

演奏からイメージや感情を伝える例として示した。曲の背景とイメージについての解説を話した部分のあと、演奏場面となっている。

これらをふまえて、学生たちはピクトグラムの動画のイメージや感情に合った音を作成するようにした。作成した音は動画で記録し、classroom に提出することとした。

第 5 回目の授業は、課題である動画作成の時間にあてた。課題作品提出は classroom に提出することとした。2 回目から 4 回目まで、それぞれ身体表現、造形表現、音楽表現とピクトグラムをテーマに行ってきたものを動画作品としてまとめという課題である。

ここでは、次の（ア）～（オ）の指示をした。

（ア）身体表現の動きに音楽表現での音を合わせること。

（イ）造形表現で作成した作品は、冒頭や、エンディングに使用するなど自分で良いと思ったところで活用すること。

（ウ）タイトルやキャプチャなども自由に制作すること。

（エ）動画作成に使うアプリは、自身の使いやすいものを使用すること。

（オ）友人と学内で作成することも可。

4. 結果

4-1. 課題の提出状況

課題は、上記（ア）～（オ）の指示を踏まえて制作され、14 名すべての学生が提出した。学内で撮影をした学生は 11 名であり、そのうち 10 名が友人同士で撮影を行った。グループの内訳は 3 名、3 名、4 名であった。1 人での制作は 4 名であり、そのうち 2 名は家族の協力を得た作品となった。

作品として提出する課題の編集については、一人ひとりの課題になる。そのため、グループで制作した作品については、編集の段階でそれぞれに違った作品に仕上げられた。



作品例 1



作品例 2

4-2. 学生の感想

4回の遠隔授業による課題に取り組んだ後に提出した、学生の感想（自由記述）を分析した。分析はKHコードを用い、抽出語の出現回数をまとめた。結果は表1の通りである。

順位	抽出語	出現回数	順位	抽出語	出現回数
1	楽しい	17	7	ピクトグラム	10
2	思う	15	8	感じる	5
3	音	13	8	見る	5
4	表現	12	8	考える	5
5	作る	11	8	授業	5
5	動画	11			

表1 学生の感想における抽出語の出現回数

表1から、最も出現回数が多かった抽出語は「楽しい」であることが分かる。14人中12人が「楽しい」を記述の中に使っている。学生の記述には、「考えながら調べたのが楽しかったです」「画像ひとつから色々な活動ができて楽しかったです」「ピクトグラムを決めて撮影した時は、あまりイメージが浮かんでいなかったのですが、音を集めたりポスターを作成しているうちにイメージがどんどん湧いてきてとても楽しかったです」などの記述が見られた。このことから、一つのテーマについて身体表現、造形表現、音楽表現、動画作成と表現活動を重ねていく過程を学生が楽しさを感じながら取り組むことができた様子が窺える。順位5位の「動画」については、「動画を見返してみると案外完成度が高くできていたので達成感があります」という記述がみられ、自身の表現を振り返る手段として動画を使うことができたことも明らかとなった。

4-3. 教員の振り返り

今回の遠隔授業において、身体表現、造形表現、音楽表現と段階を踏む過程の動画や画像を classroom に提出させることで学生の表現の途中経過を確認していくことができた。この点においては、動画の提出という手段がオンライン授業で有効に働いた。

身体表現の課題については、動画提出のため学生の動きを見ることができ、教員も評価しやすくコメントを伝えやすい状況であった。担当教員作成の動画があったことで、学生は動きの創作の仕方が理解できた様子が窺えた。学生の提出した課題の中には、撮影の仕方を工夫している動画もあり、意欲的に取り組んでいる様子が見受けられた。このように動画を撮影することで、自身の動きを確認、評価をすることができるため今回の内容は良い活用、良い課題例の一つだったといえる。

造形表現の課題については、学生全員が何かしらのアプリを使用した作品を提出した。描画、写真編集アプリなど、学生それぞれが使いやすいものを使用し、写真やイラストを組み合わせた作品であった。

学生が作成した動画は、他の課題においても動画編集をする際の画面への意識を感じられるものがあり、色や形を意識した視覚的効果を考えながら制作している様子が窺われた。表1の抽出語の順位5位の「作る」も出現回数が高い語であることから、総合的表現において創作の意識の高まりを感じることができた。

主観的な意見にはなるが、第5回目の課題には、2回目の課題であったポスターを使用したことでより視覚的な効果が得られたように感じられるものばかりであった。また、動画編集において対象の写し方、文字や図の配置、配色の仕方に工夫がみられた。この点においてポスターづくりは一定の効果はあったように感じる。オンラインという環境でアプリ等を積極的に使用したことが良い結果に繋がったのではないだろうか。一方でオンラインという環境でしか授業ができないとなれば、さらなる課題設定の工夫が必要であろう。

制作過程を他の学生と共有できない（あるいは共有できるものが対面授業よりも少ない）ということについては決定的なデメリットであると考えている。

音楽表現については、作成した音を動画で提出させたことで、教員側は学生がどのように音作りを工夫したのか、音色のみならず手段も確認することができた。音作りの際は、対面授業は行わないが音楽室の楽器等を使っても良いと指示をしたが、廃材やモノも使って良いと伝えていた。学生たちは、楽器のみに頼ることはなく、ドアの開け閉めをする音やビニールを丸めるような音も効果的に使っただけでなく、編集により音をうまく繋いだり重ねたりもしていた。教員が動画で例を示したことが学生にも意図が伝わりやすかったのか、学生の音作りの工夫は、感情を誘発する工夫がされていたものであった。

総合的表現については、学生が段階を踏んで作成した動画をうまく編集することで、各自のテーマがよく伝わるような作品に仕上げていると評価する。当初、教員側は学生の IT 環境などが整っていないことの心配をしていたが、今回の活動では学生個人のスマートフォンを使用し、それぞれが使いやすいアプリを用いての作品作りであったので、創作活動を楽しむことができたことが、感想からも明らかとなった。学生の作品作りの過程では、活動内容の正解を求めるがゆえに悩む場面もあった。しかし、基本的には自由で何をやっても良いとしていたことと、段階を踏んで classroom に提出された動画や画像に教員側が都度「限定コメント」機能を用いてコメントを送信していったことで、最終的に総合的な表現の動画の作成までたどり着くことができたと考えている。

4-4. 結果のまとめ

今回の取り組みは、オンライン授業において動画制作の活動を設定したことで、IT の利便さを活用して総合的な表現の創作活動を進めることができた。このことにより、オンライン授業でも学生が創意工夫の楽しさを味わいながら表現活動を行うことが可能であることが明らかになったと考える。

その一方で、学生それぞれが他の学生の様子を見たり話したりしながら進められるように設定することができなかった点は、学生の学習環境のデメリットとなってしまった。他の学生と交流をしながら取り組むことは、井本も挙げていた、学生が授業に求めている事項であったが、今回の指導では対応することができない点であった。

5. まとめ

本論では、オンライン授業による総合表現の活動の取り組みを通して、学生の学びと教員の振り返りから、指導の効果や問題点などについて検討してきた。これらを踏まえて、オンライン授業で総合的表現に取り組むためには、その在り方として三つの観点が必要と考える。

一つめは、学生が課題に取り組む過程で、学生自身が思考を深めて活動を考えることができるように促すことと、活動の過程を楽しむことができるテーマを提示することである。そのためには、教員側は説明だけでなく、教員自らが行った例を示すことが、学生が課題を一人で行う手助けになる。

二つめは、動画や画像など、視覚などの感覚で確認できる媒体を活用することが、学生にとっても教員にとっても学習を深めていく効果が高めるということである。今回のように動画や画像を活用することは、学生も教員も学習成果を振り返り、学びを深める効果を上げる学習ツールとして大きな成果を上げることに繋がったと考える。

三つめは、学生が課題に取り組む過程で、他の学生との関わりを持つことができる設定も必要だということである。今回の取り組みでは設定することができなかったが、学生が不安を持たずに学習を進めていく要因としては、多分に必要であったと感じている。作業などで学校に登校し、他学生と情報交換ができた学生は、ある程度の不安は解消されていたが、本来はそういった対面の交流ではなく、オンライン授業でそのような設定ができることが本テーマでは必要であった。このことを改善していくためには、教員側が IT システムの知識や情報を増やしていくことが必要である。

以上のことから、本研究ではオンライン授業における表現活動に必要な観点を明らかにすることができた。今後は、オンライン授業でも学生同志のコミュニケーションを持つことができる手段を考えることが、オンライン授業における表現活動を充実させるために必要であると考えられる。

引用文献

- 1) 井本英子 (2020) 「実技系科目の遠隔授業における課題と可能性：保育内容・音楽表現 I、音楽 I、リトミックの実践報告から」『神戸教育短期大学教育実践研究紀要 2(0)、36-50.
- 2) 川口潤子、土橋久美子、石沢順子、椎橋げんき (2021) 「表現形態の融合を目指した授業『領域表現』の可能性を探る：複数教員による遠隔授業における試み」『保育・教育の実践と研究：初等教育学科紀要』(6)、9-18.
- 3) 村越愛策 監修 横田清 文構成 (2004) あかね書房「最新記号の図鑑 1 公共施設と交通安全の記号」p. 18

参考文献

長谷川恭子 (2022) 「身近な「音」を表現することの意義を理解するための試み—保育者養成課程における活動を通して—」『全日本音楽教育研究会大学部会誌 21』 pp. 31-36

塩崎みづほ、長谷川恭子、小口偉 (2022)『遊んで育て!表現の力—保育で使える 活動例と指導法—』推敲舎.

公益財団法人日本オリンピック委員会, 2023, 公益財団法人日本オリンピック委員会ホームページ 2023 年, 2 月 10 日取得,

https://www.joc.or.jp/past_games/tokyo1964/?mode=pc

*小口 偉	秋草学園短期大学	幼児教育学科	教授
**長谷川 恭子	秋草学園短期大学	地域保育学科	准教授
***塩崎 みづほ	秋草学園短期大学	幼児教育学科	教授

[研究ノート]

STEM 分野における女性研究者の論文生産性とキャリア形成

———科学技術人材の多様性とイノベーションをめざして———

*信田 理奈

Paper Productivity and Career Development of Female Researchers in STEM Fields

Aiming for Diversity and Innovation in Science and Technology Human Resources

NOBUTA Rina

キーワード: STEM、女性研究者、論文生産性、キャリア形成、イノベーション

Key Words: STEM, Female researchers, paper productivity, career development, innovation

要約: SDGs に掲げられたジェンダー平等と女性のエンパワーメントは、科学技術においても喫緊の課題である。「性差」を考慮したジェンダード・イノベーションの考え方や、女性特有の健康課題を技術力で解決するフェムテックが広まるなか、女性を含む多様な研究人材の活用は新たな価値を生み、イノベーションをもたらす。本稿では科学技術人材の多様性とイノベーションの観点から、STEM 分野における女性研究者の論文生産性とキャリア形成をめぐる問題について、多面的な検討を加えている。その結果、論文数と高被引用論文、研究専従換算係数、学位取得や雇用形態、研究業績と昇進との関係等において、女性に対する過小評価(マチルダ効果)やバイアスの実態が明らかとなった。その上で今後は、ジェンダード・イノベーションやフェムテックの動向を踏まえた科学技術人材の多様化を進めるとともに、男性研究者的な標準の見直し(ケア労働に従事する男

性研究者が標準となる方向へ変えていくこと)が、STEM 分野におけるジェンダー平等の「鍵」となることを示唆した。

Abstract: Gender equality and women's empowerment set forth in the SDGs are also pressing issues in science and technology. As the concept of gendered innovation, which considers gender differences, and femtech, which solves women's unique health problems with technology, are spreading, the use of diverse research personnel, including women, will create new value and bring about innovation. In this paper, from the perspective of the diversity and innovation of human resources in science and technology, we add a multifaceted examination of the issues surrounding the paper productivity and career development of female researchers in the STEM field. As a result, we clarified the actual situation of underestimation (Matilda effect) and bias toward women in terms of the number of papers and highly cited papers, the conversion coefficient for full-time research, degree acquisition, employment status, research achievements and promotion. Based on this, we will promote the diversification of science and technology human resources based on trends in gendered innovation and femtech, and review the standards for male researchers (toward male researchers engaged in care work as the standard).) is the “key” to gender equality in the STEM field.

1. はじめに

世界的課題である「持続可能な社会」を構築する上で重要な点は、SDGsにも掲げられた「ジェンダー平等と女性のエンパワーメント」である。グローバル化が進み AI 時代を迎えた今、日本は未来社会のあるべき姿として Society5.0⁽¹⁾の実現をめざしているが、これまでの人材育成では十分な成果が期待できない。科学技術におけるジェンダー平等が新たな価値を生み、延いては男女共同参画社会の実現にも資する。イノベーションを生み出すのは「人」に他ならず、多様な人材による研究が SDGs の理念（誰一人取り残さない包摂的で持続可能な社会）につながり、イノベーション創出の「鍵」となるに違いない。

近年、科学技術分野におけるジェンダー平等の実現に向けて「性差」を考慮したジェンダード・イノベーション (Gendered Innovations、以下 GI)⁽²⁾の考え方や、女性特有の健康課題を技術力で解決するフェムテック (Femtech)⁽³⁾が広まりつつあるが、いずれも女性が直面する課題に向き合う点で共通している。こうした背景には従来の研究開発が「男性」を対象とし、「女性」が見過ごされてきた結果、様々な健康被害やリスク⁽⁴⁾が報告されてきている事実がある。この点については「第5次男女共同参画基本計画（以下、参画計画）」⁽²⁰²⁰⁾においても、男性を標準として行われてきた研究や開発プロセスを経た研究成果が必ずしも女性には当てはまらないため、「性差」を考慮した研究開発の必要性が指摘されている。したがって「科学技術におけるジェンダー主流化 (Gender Mainstreaming)」⁽⁵⁾を進め、男性モデルからの脱却と女性研究者の視点を取り入れていかねばならない。第5次参画計画以外に「第6期科学技術・イノベーション基本計画（以下、科学計画）」⁽²⁰²¹⁾でも GI の推進が掲げられたことから、今後は新たな研究分野の創出とともに、女性研究者の増加が期待される。

以上のような認識の下、本稿では科学技術人材の多様性とイノベーションの観点から、STEM 分野⁽⁶⁾における女性研究者の論文生産性とキャリア形成をめぐる諸問題について多面的に検討を加える。研究活動のアウトプットである論文は、研究者としてのキャリア形成のみならず、アカデミアの質向上と「知」の発展に寄与することは言うまでもない。Society5.0 の実現に向けて、新たな価値を創造し、すべての人々に適したイノベーションを生み出すためにも、STEM 分野の女性研究者にフォーカスすることは意義がある。

そこでまず、女性研究者の数と割合について捉え、女性研究者を阻む要因に言及する。続いて先行研究による知見と最新データをもとに、コロナ禍の論文数、トップリサーチャーの特徴、研究専従換算係数の男女差、学位取得の状況、雇用形態による影響、研究業績と昇進との関係などについて検証し、STEM 分野におけるジェンダー・バイアスの実態を明らかにする。最後に、いかなる対応をすべきか、STEM 分野のジェンダー平等に向けた新たな視点や方法、問題解決の糸口を示唆したい。

2. 科学技術における女性の〈過少代表〉問題

2-1. 女性研究者の数と割合

本節では、STEM 分野を専攻する女子学生、理工学系を担当する女性教員、科学者コミュニティに占める女性会員についてみておきたい。

最初に日本の女性研究者数とその割合はどのくらいか。2021 年時点における研究者数は、男性 785,400 人 (82.5%)、女性 166,300 人 (17.5%) となっている (総務省、2021)。この数値には理工学系以外の分野も含まれるため、科学技術分野に従事する女性研究者の詳細は把握できない。そこで、図 1 のデータに注目したい (内閣府、2021b)。STEM 関連の学部・学科に入学した女子の割合を示している。これによると、日本は OECD 加盟国で最も低く、科学技術分野における女性人材育成の遅れが際立つ。とくに自然科学系は顕著であり、多くの国では女子の割合が 5 割を超えているが、日本は 3 割にも満たない。OECD 平均が「自然科学・数学・統計学」52%、「工学・製造・建築」26%に対して、日本はそれぞれ 27%、16%にとどまる。STEM 分野における女性活躍の推進を図るには、女性研究者の母集団となる理工系の女子学生を増やさなければならない。

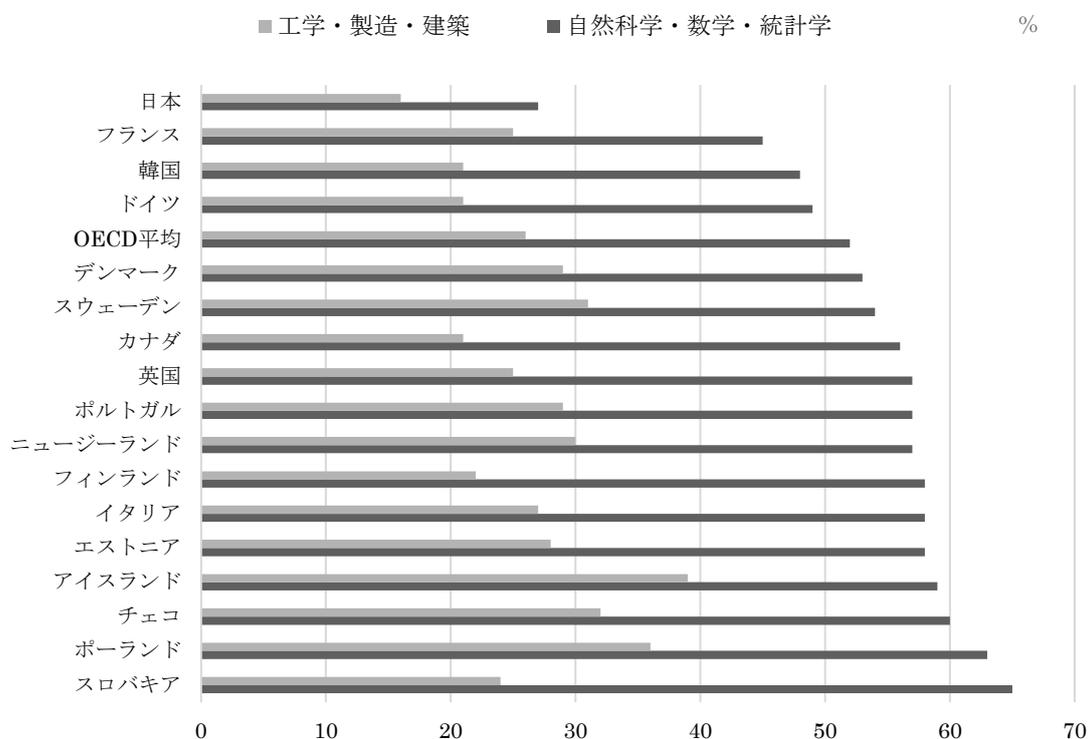


図 1. STEM 関連の大学 (学部・学科) に入学した女子の割合

注：内閣府 2021 「Society5.0 の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ」

https://www.meti.go.jp/shingikai/economy/mirai_jinzai/pdf/005_s02_00.pdf より筆者作成。

つぎに、理工系を担当する大学の女性教員はどうであろうか。現在「第5次参画計画」(2020)に基づき「第4分野：科学技術・学術における男女共同参画」が進められ、①大学理工系教員（講師以上）に占める女性の割合、②大学（学部）理工系に占める女子学生の割合、③大学研究者の採用に占める女性の割合など、2025年までの目標値が掲げられている（表1）。このうち大学理工系教員（講師以上）に占める女性比率の最新値（2019）は理学系8.7%、工学系5.7%と低い。講師以上には教授職も含まれるが、「第3次参画計画」（2010）の目標値「2020年までに教授等に占める女性比率を30%程度とする目標」にも達していない。教員構成のジェンダー・バイアスは深刻であり、とくに理工系は職位が上がるほど女性比率が減少する。

表1. 第5次男女共同参画基本計画における成果目標の動向

注：大学（学部）理工系に占める女子学生の割合は2021年の値。内閣府「第5次男女共同参画計画」

https://www.gender.go.jp/about_danjo/seika_shihyo/pdf/numerical_targets_r040614.pdf より筆者作成。

項目	最新値 (2019)	目標値 (2025)
大学理工系教員（講師以上）に占める女性の割合	理学系：8.7%	理学系：12.0%
	工学系：5.7%	工学系：9.0%
大学（学部）理工系に占める女子学生の割合	理学部：27.8%	前年度以上
	工学部：15.7%	（毎年度）
大学研究者の採用に占める女性の割合	理学系：16.2%	理学系：20.0%
	工学系：13.0%	工学系：15.0%

改めて大学の社会的使命と責務を考えるならば、学術分野において男女共同参画社会の構築に貢献し、大学自ら男女共同参画を実践しなければならない。ジェンダー・センシティブな人材育成を行い、ロールモデルを提供することでジェンダー平等を実現することが求められるが、教員配置は不均衡であり、ジェンダー・バランスの配慮に欠いている。

こうした状況は科学者コミュニティも然りである。表2はSTEM関連学協会に占める女性会員のデータを一部抜粋したものだが、いずれの学協会も女性比率はきわめて低く、完全な「男社会」と化している。たとえば、日本化学会9.8%、情報処理学会9.7%、日本数学会6.9%、日本物理学会6.4%、応用物理学会6.2%、日本機械学会3.3%など、男女差は歴然である。科学技術の発展には大学や科学者コミュニティにおけるジェンダー平等が不可欠であり、ジェンダー視点に立つイノベーションは社会に新たな発展をもたらす。理工系に占める女性研究者（教員）の割合とともに、学協会においても女性会員の割合を高めなければならない。こうした状況を踏まえ、日本学術会議理工学ジェンダー・ダイバーシティ分科会は、理工学分野のアンバランスなジェンダー構成と女性比率の伸び悩みに危機感を募らせており、男女共同参画からほど遠い状況に警鐘を鳴らしている。

表 2. STEM 関連学協会に占める女性会員の割合

注：分類上「数・物・情報・工学」など、STEM 関連学協会（会員総数 1000 名以上）を対象としている。会員総数は男女を含む一般会員と学生会員の合計値。男女共同参画学協会連絡会「2021 年女性比率調査」

https://www.djrenrakukai.org/doc_pdf/2021_ratio/2021ratio_table_202110120a.pdf より筆者作成。

学協会名	会員総数（人）	女性会員数（人）	女性比率（%）
日本化学会	26,272	2,578	9.8
情報処理学会	19,758	1,910	9.7
化学工学会	7,143	670	9.4
日本数学会	5,071	350	6.9
日本物理学会	16,314	1,041	6.4
応用物理学会	20,940	1,305	6.2
日本機械学会	34,737	1,146	3.3
計測自動制御学会	5,092	162	3.2
日本技術士会	18,712	476	2.5

ところで、日本の科学論文が減少し研究力の失速が懸念されているが、その一因として科学技術分野のジェンダー・バランスが指摘できる。科学技術は持続可能な発展の基盤であり、Society5.0 と GI を進める上で重要な点は「科学技術におけるジェンダー主流化」に他ならない。それには女性の視点や発想を研究開発に活かすことであり、ジェンダー・バランスへの配慮は不可欠である。では、大学や科学者コミュニティの男女比率はどうあるべきか。これについては「国連システムにおける女性の地位向上のための戦略的行動計画」（1994）やフランスのパリテ法、クオータ制などのポジティブ・アクションにおける「ジェンダー平等」の基本原則が有益な示唆に富む。

国連の戦略的行動計画は 2000 年までに「50 : 50 の男女平等」をめざしたものであり、女性スタッフの比率を男性スタッフと同数に設定した。男女同数を「ジェンダー平等」の基本原則とし、2008 年に潘基文国連事務総長（当時）は、国連事務局におけるジェンダー・バランスの達成に向けたメッセージを各局長宛に発信している。その冒頭では、国連職員の男女比率を「1 : 1」とする目標が示された。また、フランスでは積極的な「法による平等」の考え方に立ち、2000 年以降「パリテ」（男女同数・男女同率）の平等原則が重視され、社会経済の全領域に運動が拡大した。女性に一定比率を割り当てるクオータ制も 129 か国で導入され、パリテ法やクオータ制のポジティブ・アクションは実質的な男女平等を加速させている。そして男女格差を数値化し、世界経済フォーラムと国連開発計画から発表されるジェンダー・ギャップ指数やジェンダー不平等指数⁽⁷⁾もまた、各指標の男女同率をめざす国際的な取り組みと考えられる。

2-2. 女性研究者を阻む要因

科学技術における女性の過少代表は、女子の理科離れやロールモデル不足、周囲からの教育期待、進路選択時に働くジェンダー・バイアスの問題として検討されてきた。また、妊娠・出産や育児などのライフイベントも、多くの女性研究者（とくに理工系）にとって継続的な研究活動を遮る。後述するように、女性研究者がアカデミック・キャリアを断念する理由にワーク・ライフ・バランス（Work-Life Balance、以下 WLB）の困難を挙げており、女性大学教員の離職者数も「35～44 歳」の年齢層が最も多い（内閣府、2022b）。女性研究者にみられる Leaky Pipeline effect（ライフイベントを機に女性が研究職としてのキャリアから離れる現象：Blickenstaff,2005）は、論文生産性やキャリア形成にネガティブな影響を及ぼす。

3. 女性研究者の<論文生産性>をめぐる問題

近年、日本の科学論文は減少し、Top10%補正論文数（論文に引用された回数が各分野で上位 10%に入る論文の数）も世界順位を下げるなど、研究力の低下が懸念されている（文科省、2022）。日本の研究力が失速している要因の 1 つに女性研究者の過少代表性が考えられるが、この点について加藤（2014）は、日本の主要国立 15 大学を対象とした調査を行い、そのデータ分析から日本の大学における女性研究者の割合と論文数の伸び率は正の相関関係があると結論付けた。女性研究者の増加によって研究成果が向上する可能性に言及しているが、論文数に男性研究者との違いはあるのだろうか。

坂無（2015）は地方の国立大学を対象に、大学教員の 1 年間の論文数を従属変数とした統計分析を行っている。その平均値を比較すると、年 1 本ほど男性の方が多い。論文や著書数から作成した業績指標は平均で男性が高く、女性は男性と同じ業績でも不利な状況に置かれやすい。理系のキャリア初期では女性の論文数が多いが、すぐに男性が巻き返し、40 代前半まで男性が多い。その後女性が追いつくが、男性は役職に就き、研究以外に時間を取られてしまう。こうした背景にライフコースの違いが指摘される。若い頃は女性の業績が高く、子育て世代以降で逆転する。配偶者・子有りは男性の業績を増やすけれども、女性は子どもの数に比例して業績が減り、男性は子どもの数が多いほど業績が増える。

3-1. コロナ禍の論文数

新型コロナウイルス（以下、COVID-19）によるパンデミックが研究環境を大きく変えたと言われるが、コロナ禍前後で女性研究者の論文数に変化はあるのだろうか。図 2 は、コロナ禍以前のデータを示している。それによると、2011-15 年における「研究者 1 人あたりの男女別執筆論文数」は多くの国で男性研究者が女性研究者を上回るが、日本は女性研究者の方が多い（Elsevier,2017）。

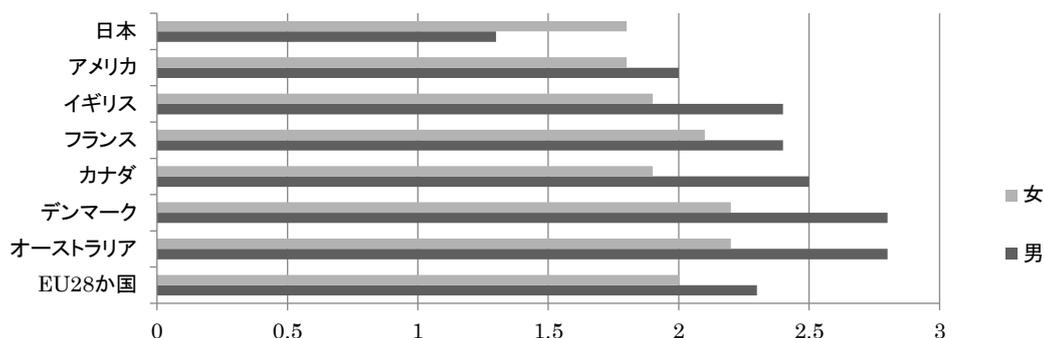


図2. 男女別にみた研究者1人あたりの執筆論文数(2011-15)

注: Elsevier 2017 "Gender in the global research landscape" p.17より筆者作成。

その後 Elsevier 社より、日本に焦点を当てた要約版レポート "The Researcher Journey Through a Gender Lens" (ジェンダーの視点からみた研究者のキャリアパス) が発表された。同性の著者全体の平均を求めることにより算出され、2017年版とは異なる方法で「男女の平均論文数」が公表されている。それによると、2014-18年における女性研究者の平均論文数は男性研究者よりも少ない。15か国中11か国およびEU28か国において、男性の平均論文数は女性の1.5倍以上となり、日本は男性の論文数が女性の1.8倍となった。しかし、FWCI (field weighted citation impact: 被引用数による研究のインパクト指標) の男女差はほとんどみられない (Elsevier, 2020)。

COVID-19感染拡大による影響はジェンダー・ギャップを広げつつある。パンデミックとなった2020年2月から5月にかけて、投稿された学術論文は前年比で約58%増えたが、女性研究者の投稿率は男性研究者よりも低い。これにはロックダウン(日本の緊急事態宣言発令)中の休校措置や外出制限により、ケア労働の負担を女性が担っていたことが大きく影響している (カレントアウェアネス・ポータル, 2021)。

そこで、COVID-19による制限が男女の研究活動に与えた影響の違いをみておきたい。

Elsevier が発行するジャーナル 2,329 誌への 2018 年から 2020 年にかけての論文投稿数が検証された。第1波の間、女性からの投稿数は「医学、物理化学、社会科学」等の分野で減少した。投稿率の男女差は若手研究者が目立ち、ケア労働の負担が女性研究者の論文生産を押し下げたと考えられる。これを裏付けるように、男女共同参画学協会連絡会が第1回緊急事態宣言によって生じた研究者・技術者への影響を把握し、必要な支援と対策を国や研究機関に要望するため、2020年に実態調査を行っている。その結果、女性研究者は「研究時間の確保」に苦慮していることが明らかになった。同居する家族構成別の解析では、男性よりも女性の研究時間が減少し、未就学児をもつ(妊娠中を含む)女性の82.2%が研究時間の減少を訴えている。研究時間が確保できない理由に「家事・育児・介護」の負担を訴える者は、男性(36.7%)より女性(63.3%)が多い(志牟田ら, 2022)。

3-2. トップリサーチャーの特徴

論文の被引用数からは、その論文が学术界に与えた影響の度合いがわかる。学術的パフォーマンスの評価は分野により異なる要素が複数あるが、いわゆる Top10%補正論文など被引用度の高い論文を発表しているトップリサーチャーとは、どのような研究者か。

富澤ら (2006a) によると、トップリサーチャーはキャリア初期に多く、その 7 割以上が大学に所属する。研究グループの構成は大学教員が 4 割以上、次いで院生やポスドクが続く。自然科学分野の高被引用論文は「実験・観測データの提示」を特徴とし、「実験・観測による仮説や理論の検証」と合わせると全体の半数近くを占める。彼等の 4 分の 3 は外部資金を利用しており、6 割以上が競争的研究資金を獲得しているらしい。

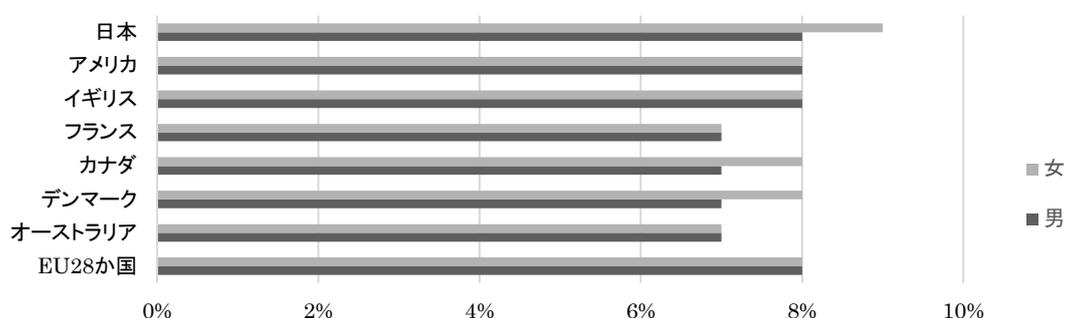


図 3. 学際論文上位 10%に占める男女研究者の割合 (2011-15)

注: Elsevier 2017 "Gender in the global research landscape" p.21.より筆者作成。

高被引用論文に占める女性研究者の状況について、興味深いデータがある。世界の学術論文のなかで学際論文上位 10%をみると、日本は女性研究者の割合が 9%、男性研究者は 8%である。男女差は限定的だが、学術論文全体と比較した場合、学際論文上位 10%に占める割合は男性よりも女性の方がわずかに高い (図 3)。つまり、女性研究者は学際研究に貢献し、質の高い研究成果を上げている。

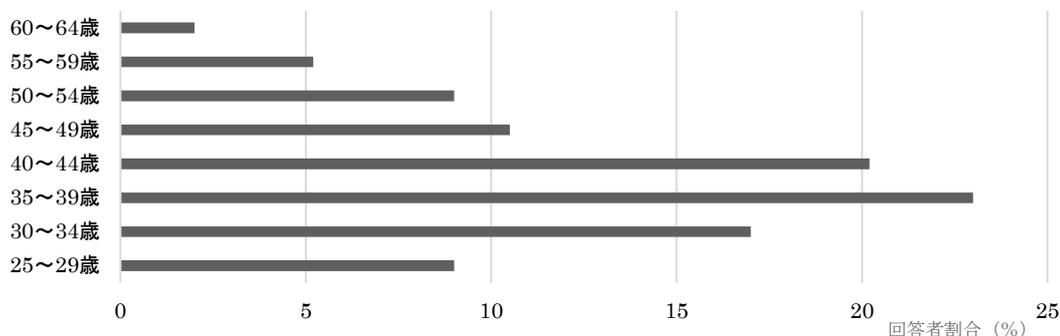


図 4. 研究者の年代別論文生産性

注: 文科省 2018 「日本の研究力低下の主な経緯・構造的要因案 参考データ集」

https://www.mext.go.jp/content/1407654_009.pdf より筆者作成。

図 4 は研究者の年代別論文生産性を示している。論文生産性のピークは「30～44 歳」だが、その特徴からみえる問題とは何か。これに関連する研究に、2300 人以上の計算機科学教員を PI (Principal Investigator : 研究責任者) としての勤続年数順に配置し、各教員のキャリアにおいて最も多く論文を書いた時期を分析したものがあ (A.Clauset, Daniel B.Larremore and R.Sinatra,2017)。それによると、論文生産性の最も高い時期はキャリア開始から 8 年以内であることが示された。トップリサーチャーの年代は女性のライフイベントと重なるため、アカデミック・キャリアを断念せざるを得ない。とくに、WLB の困難が女性研究者の論文生産性を押し下げており、トップリサーチャーのアンバランスなジェンダー構成 (男性 95.0%、女性 5.0%) をもたらしめている (富澤ら、2006b)。

3-3. 研究専従換算係数の男女差

論文生産性を高める上で、研究時間の確保は重要である。本節では家族形成との関係から、研究専従換算係数 (研究時間数) の男女差と論文生産への影響について検討したい。

90 年代以降、大学の構造改革に伴って教員の職務活動時間も変化している。神田・伊神 (2020) によると、全大学における教員の職務活動時間割合は「研究」33.3%、「教育」27.8%、「その他の職務 (学内事務等)」17.9%で、これら 3 つの活動が大半を占める。なかでも私立大学は「研究」(28.5%) よりも、「教育」(31.8%) の割合が高い。

つぎに、大学教員の職務活動時間割合について、2 時点を比較したデータを確認する。1992 年の「カーネギー大学教授職国際調査」と、2016 年に広島大学が行った「大学への資源配分と教育研究活動に関する教員調査」である。調査結果から、研究活動の配分率は国立大学で 43% から 27%、私立大学は 36% から 20% へ激減し、教育時間の配分率は国立大学で 31% から 35%、私立大学は 42% から 44% へ増加した。管理運営の配分率は国立大学の 12% から 21%、私立大学は 11% から 20% へ増えている。以上から、大学教員の職務活動は過去 4 半世紀で「研究」時間が大きく減退したことがわかる (藤村、2017a)。

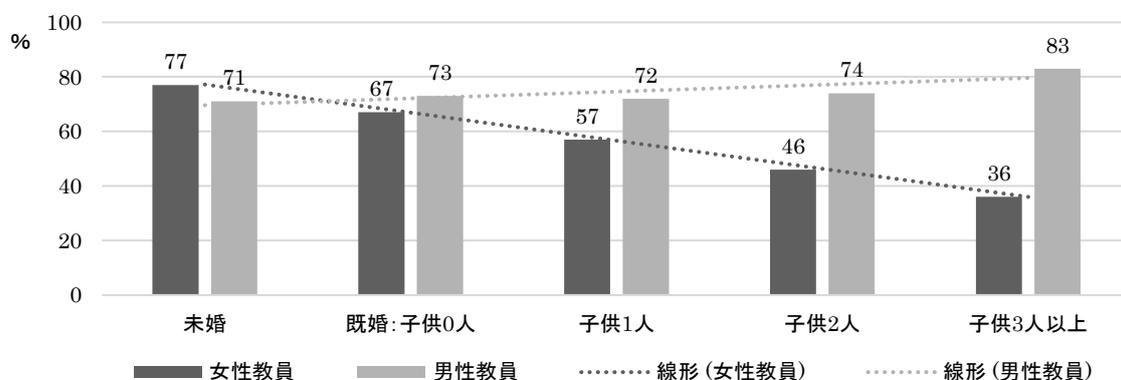


図 5. 研究時間が週 50 時間以上の教員比率

注: 藤村正司 2017 「なぜ研究生産性が失速したのか? 大学教員の現在」 DaigakuRonshu_50_1.pdf より筆者作成。

では、研究時間に男女の違いはあるのだろうか。前述の「大学への資源配分と教育研究活動に関する教員調査」を参考に、研究専従換算係数の男女差について確認したい。

図5は、広島大学が2016年、60歳未満の大学専任教員（女性648人／男性1,526人）を対象に、研究時間が週50時間以上の教員比率と子ども数について調査した結果である（藤村、2017b）。男性教員の約70～80%は未婚・既婚を問わず、また家族形態の変化に左右されず「週50時間以上の研究時間」を確保している。ところが、女性教員は未婚者の77%が週50時間以上の研究時間を持てるが、結婚を機に減少する。家族形態の変化に影響されやすく、子ども数に応じて10%前後ずつ減少している。つまり、女性教員が抱えるケア労働、WLBの困難が男性教員以上に大きく、論文生産性にマイナス影響を与えていることがわかる。さらに、大学内のジェンダー規範が「男性＝研究者／女性＝教育者」としての比重を増加させている側面も否定できず、概ね女性教員は学生のケアに尽力し、自身の研究が進めにくい状況に置かれている。

4. 女性研究者の<キャリア形成>をめぐる問題

科学技術分野の研究は実験や観察を伴うため、長時間勤務、研究への没頭、家族関連による研究の中断が最小限であることなど、「男性的な働き方」が求められてきた。時間の制限なく、研究に没頭する研究と家庭生活との両立は難しい。このような科学技術分野において、女性研究者は研究活動と家庭生活とのバランスに強いプレッシャーを感じるものが指摘されている（篠原、2020）。

とくに、若手女性研究者は家族形成とキャリア形成の時期が重なりやすく、その両立に複雑な課題を抱えやすい。妊娠・出産、育児等の負担によるキャリアへの影響は大きい。男女共同参画学協会連絡会の実態調査（2017a）では、自然科学系研究者が理想の子ども数を実現できない状況が示された。その理由として、女性から最も多く挙げられたのは「育児とキャリア形成の両立」である。また女性研究者が少ない理由として、女性研究者から最も多かった回答は「家庭と仕事の両立が困難」であった。つまり、出産・育児等の家庭役割と研究との両立困難が女性研究者の過少代表の大きな要因と考えられる。WLBがとれている認識があれば、女性研究者のキャリア継続意識やプロフェッショナル・コンフィデンス⁽⁸⁾につながる可能性が高い（藤本・篠原、2015）。

4-1. 学位取得の状況

アカデミック・キャリアを形成する上で学位取得は節目となる。世界的に女性の博士号取得者は増えており、2016年の時点でフランス44.5%、ドイツ45.2%、イギリス46.2%といった状況にある。小川（2019）が指摘するように、研究者の博士号取得は国際的潮流となり、その半数近くを女性が占める時代になりつつある。しかし、研究者のキャリアは

不透明で「就業難」というイメージは拭えない。日本の博士課程人材の問題点は、博士号取得後のキャリア形成にあると言える。とくに女性は雇用形態やライフイベントとの関係から、不利な状況に置かれやすい。キャリア初期の指標として学位取得や雇用状態は重要な意味を持つが、女性のキャリア形成に大きく影響するのは、紛れもなく妊娠・出産と育児である。女性の博士学位取得率は男性より 5% 低く、任期制や非正規雇用率は女性の方が高いため、女性博士のキャリア形成は必ずしも順調ではない。さらに、学位取得率への家族形成の影響をロジスティック回帰分析した結果、子どもを持つ女性の場合、学位取得率が下がる (小林、2017a)。

4-2. 雇用形態による影響

研究者の雇用状況には男女でどのような違いがあるのか。男女共同参画学協会連絡会の実態調査 (2017b) によると、大学等研究機関の場合、男性は 35 歳未満で無期雇用の割合が高くなるが、女性は 35 歳を過ぎても有期雇用の割合が高い。学位取得後 16 年以上 (40 代半ば) の任期付き研究者も女性に多く、男性は任期なしの在職期間が長い。総じて男性は安定的な雇用状況にあり、女性は不安定な非正規雇用にある。

先述したように、女性研究者のライフイベントとトップリサーチャーの年代は重なる。論文生産性のピークはキャリア開始から 8 年以内というデータもあり、家族形成の時期と重なりやすい女性研究者は、出産・育児等で非労働力化しやすい。一般に研究者は 30 代半ばから後半にかけて研究室を持ち、研究助成金を獲得しながら、論文を公表し、会議等に出席して学生を教えるわけだが、30 代は家庭や子どもを持ちたいと願う時期でもある。つまり、女性にとってこうした時期が重なることは大きな代償になってしまい、身体的代償 (baby penalty) ⁽⁹⁾ を支払わなければならない。

家族形成は学位取得にいかなる影響を与えるだろうか。小林 (2017b) によると、未婚者よりも既婚者で学位取得率が高く、キャリアの節目を超えてから結婚や出産を選択するという。とくに女性は子どもがいると学位取得率が低くなる傾向がみられる。また工学との比較でみると、農学はやや学位取得率が低く、医歯薬系は学位取得率が高い。これについては「第 6 期科学計画」 (2021) でも研究ダイバーシティと GI の推進に向けて、女性研究者 (指導的立場を含む) の活躍とともに、博士後期課程で学ぶ女子学生 (潜在的な知の担い手) を増やしていくことが求められている。だが、現状は厳しい。

4-3. 研究業績と昇進との関係

論文はアカデミック・パフォーマンスを測る代表的な指標の 1 つとして、昇進に与える影響が大きい。アカデミアでの昇進は、個人のパフォーマンスや生産性を「論文数」という明確な指標で測ることが可能であることから、パフォーマンスと昇進の関係をみる上で効果的とされてきた (Lutter & Schröder, 2016)。しかし、アカデミアは男性社会であり、

女性は様々なバイアスに直面しやすい。出産や育児に伴うキャリアの中断により、共同研究の機会が得られないケースや、共同研究仲間として選ばれにくいケース、家族の状況が研究中断の要因になることが指摘されている(Tartaria & Ammon,2015)。

昇進との関係では、女性研究者の昇進確率が男性よりも低いことや、マチルダ効果（女性研究者の研究成果に対する過小評価）は多くの先行研究によって明らかにされてきた。職位が上がるごとに女性教員の割合は低下し、理工系の教授職においてはきわめて低い。STEM 分野の研究職では職位が上がるごとに女性研究者の割合が低下し、昇進速度も遅く研究助成金や論文の被引用数が少ない（Lerchenmueller, Sorenson and Jena,2019）。

業績と昇進との関係におけるジェンダー格差を明らかにした藤原（2019a）によると、すべての学術分野で論文数や書籍数、競争的資金の獲得件数が教授になる上で正の影響を与えている。研究業績がアカデミアでの昇進に与える影響は、男性研究者の場合、共著者数や受賞数、競争的資金の獲得件数が教授昇進に影響を与えるのに対し、女性研究者では医学・生物学分野で書籍数や競争的資金の獲得件数、論文数が教授昇進にプラスの影響を与えるという。その結果、女性研究者は男性研究者に比べて教授昇進の確率が「人文・社会科学系」19.1%、「医学・生物学系」29.0%、「理学・工学系」は49.6%も低い（表3）。昇進の速度も女性は男性より10年遅く、教授昇進に影響を与える要素とスピードが男女で異なる（男女共同参画学協会連絡会、2017c）。アカデミアでの昇進において、性別は重要な要素の1つと考えられる。

表3. 研究者の属性や業績が教授昇進に与える影響

注：藤原綾乃 2019「データ分析で見るジェンダー平等の日本の課題」『学術の動向 24 巻』p.38

https://www.jstage.jst.go.jp/article/tits/24/12/24_12_36/_pdf-char/ja より筆者作成。

	人文・社会科学系	理学・工学系	医学・生物学系
論文数	+0.9	+0.7	+1.0
書籍数	+1.8	+3.8	+3.4
競争的資金獲得件数	+4.0	+5.2	+10.2
女性研究者	-19.1	-49.6	-29.0

大学はジェンダー・センシティブな人材育成を行い、ロールモデルを提供することで、ジェンダー平等を実現することが求められる。多様性が求められる学術界でさえバイアスが存在し、女性であるがゆえに過小評価されやすい。女性研究者は男性研究者以上の成果を出さない限り、採用や昇進は厳しい状況にあるとも言われる。これについて藤原（2019b）は、女性研究者は男性研究者と比べて、たとえ研究業績など他の要素が等しくとも、昇進の確率が低いことを明らかにした。しかも、この傾向は一連の大学改革以後も統計的に有意には改善されていない。

5. おわりに

以上のように、日本のアカデミアにはマチルダ効果が存在し、研究者としてのキャリアを形成する上で女性研究者は様々な困難に直面する。課題が山積するなか、何より重要なのは、科学技術分野のジェンダー主流化に他ならない。フェムテックやGIの動向を踏まえた研究人材の多様性はイノベーションの創出とともに、人間中心の文化と生活をめざす Society5.0 や SDGs の理念とも一致する。

それには、男性を標準とした研究を見直し、若手男性研究者の変化を促す取り組みが望まれる(田村, 2019)。とくにSTEM分野の研究フィールドは長時間労働など、男性的な働き方が根付いてきた。女性研究者支援の方向性が男性研究者の現状を標準としていないか、という点に注視しなければならない。たとえば、「普遍的ケア提供者モデル」⁽¹⁰⁾は男性研究者的な標準を見直すことで、ジェンダー平等をめざす考え方であり、ケア労働に従事する男性研究者が標準となる方向へ変えていくことである。「ケアする男性性」(Caring Masculinity)⁽¹¹⁾への着目であり、育休取得や家事参加など、柔軟で変化の兆しがみえる若手男性研究者を対象とした支援を進めれば、ケア労働に従事する男性研究者が標準となり、延いては女性研究者の活躍につながるのではないだろうか。

また、STEM分野に根付く「脱男性化」に向けて、篠原(2016)は研究者個人としての達成からグループとしての達成に対する評価へ変えることや、男女ともに不採択となった競争的外部資金や論文を報告するなど、研究上の失敗を公表できる環境づくりを提案している。森永(2017)も、研究のイメージを1人で活動するという側面から共同的な側面に変えることが、科学に対する意識や態度をポジティブなものに変えていくとしている。

科学技術人材の多様性は新たなパラダイムの創造を通じて学術研究にもプラスの影響を与える。研究パフォーマンスの高い女性が参加することで、Top10%補正論文が増加し、女性特有の視点やアイデアにより既存の学問体系に新たな価値をもたらす。人類の半数の潜在力を「科学と知の生産」から排除してはならない。

[注]

- (1) Society 4.0 (情報社会) に続く未来社会 (超スマート社会) であり「第5期科学技術基本計画」(2016)において提唱された。仮想空間と現実空間を高度に融合させ、経済発展と社会的課題の解決を両立する「人間中心の社会」と定義される。AIやIoT、ロボットを通じて地域、年齢、性別、言語等による格差がなく、誰もが質の高い生活を送ることができ、SDGsの達成にもつながる。主な取り組みに、オンライン診断や手術支援ロボット、自動運転支援システム、スマート農業、STEAM教育などがある。
- (2) スタンフォード大学のロンダ・シービンガー (Londa Schiebinger) 教授が提唱した概念。男女の「性差」を考慮し研究開発をすることで、すべての人々に適した真のイノ

- バージョンを創り出す考え方であり、世界的に重要性が高まっている。
- (3) アプリやAI (人工知能) 等のテクノロジーを使い、女性のライフステージにおける様々な健康課題を解決する製品やサービスを指す。
- (4) たとえば、創薬の動物実験でオスが使われた結果、男性には効果があっても、女性には効果が低く、副作用が出やすい薬剤が開発されることがあった。また、車のシートベルトの設計も成人男性の体型を基準に開発された結果、女性の方が交通事故で大けがを負いやすいというデータもある。研究開発におけるジェンダー配慮の欠如が個人のリスクを高め、無駄な研究開発費や社会的損失をもたらす事例が次々と明らかになってきた。こうしたことから性差に配慮した研究開発の重要性が指摘されている。
- (5) ジェンダー平等の視点をあらゆる政策や事業の企画段階から組み込んでいくことであり、男女双方が意思決定過程に参加するという考え方である。ただし、現代においては多様性や交差性にも目を向ける必要がある。
- (6) "Science, Technology, Engineering and Mathematics"の分野を総称する語で、90年代にアメリカ国立科学財団 (NSF)が用いた SMET が起源とされる。近年は"Arts"の要素を加えた STEAM (Science, Technology, Engineering and Arts)が注目される。
- (7) ジェンダー・ギャップ指数 (Gender Gap Index : GGI) は経済・教育・健康・政治における男女間の不均衡を示す指標 (完全不平等0、完全平等1)。ジェンダー不平等指数 (Gender Inequality Index : GII) は妊産婦死亡率、議員の男女比率、男女の就労率などにおける男女間の不平等を示す指標 (完全平等0、不完全平等1) である。
- (8) 「複雑で専門的な業務を遂行するために必要な知識やスキルに関する自信」と定義される。プロフェッショナル・コンフィデンスの低い研究者はキャリア上の様々な障壁をうまく乗り越えられず、挫折する可能性が高い。また、自己効力感 (結果を生み出すために必要な行動をうまく遂行できるという確信) の一形態と捉えることができ、コンフィデンスが高ければ、高い目標を設定し、達成しようとする。
- (9) カリフォルニア大学のメアリー・アン・メイソン (Mary Ann Mason) によれば、男性が子どもを持つことはキャリアの利点になるが、女性にとってはキャリアキラーになる。テニユアトラックの仕事に応募する前に、子どもを持つ多くの女性はレースから脱落することを決めてしまう。アカデミアを母親にとって難しい場所に行っているのは、柔軟性に欠けるシステムと男性優位の環境であることをメイソンは指摘している。
- (10) アメリカの政治哲学者ナンシー・フレイザー (Nancy Fraser) が提唱した男女平等モデルの1つ。男性を「女性並み」のケア提供者に変化させることを通じて、男女平等を実現しようという考え方である。
- (11) ケアする男性性とは、覇権主義的な男性性の対極にあるもので、男性が稼ぎ手としての役割ではなく、「介護する役割」を担うことを基本としている。

[参考文献]

文部科学省 (2022) 「科学技術指標 2022」

<https://www8.cao.go.jp/cstp/gaiyo/yusikisha/20220818/siryu2.pdf> (2022/09/25 最終閲覧)

内閣府 (2022a) 「第 5 次男女共同参画基本計画における成果目標の動向」

https://www.gender.go.jp/about_danjo/seika_shihyo/pdf/numerical_targets_r040614.pdf

(2023/02/05 最終閲覧)

内閣府 (2022b) 「第 6 期科学技術・イノベーション基本計画に関する調査・分析等の委託」 <https://www8.cao.go.jp/cstp/kihonkeikaku/6data/2021report08.pdf> (2022/09/01 最終閲覧)

志牟田美佐・浜田盛久・三宅恵子・野尻美保子・小口千明・大坪久子 (2022) 「新型コロナウイルス感染拡大に伴う第一回緊急事態宣言が研究者・技術者へ与えた影響—弱い立場の研究者・技術者がさらなる困難に直面した」日本の科学者 Vol.57, No.3 pp.26-28.

<https://jsa.gr.jp/04pub/2022/JJS202203shimuta.pdf> (2022/08/30 最終閲覧)

総務省 (2021) 「科学技術研究調査 2021」

https://www.stat.go.jp/data/kagaku/kekka/kekkgai/pdf/2021ke_gai.pdf (2022/09/01 最終閲覧)

内閣府 (2021a) 「第 6 期科学技術・イノベーション基本計画」

<https://www8.cao.go.jp/cstp/kihonkeikaku/6honbun.pdf> (2022/08/22 最終閲覧)

内閣府 (2021b) 「Society5.0 の実現に向けた教育・人材育成に関する政策パッケージ」

https://www.mext.go.jp/content/20220124-mxt_kyoiku02-000019798_2.pdf (2022/09/30 最終閲覧)

男女共同参画学協会連絡会 (2021) 「2021 年女性比率調査」

https://www.djrenrakukai.org/doc_pdf/2021_ratio/2021ratio_table_202110120a.pdf (2023/01/29 最終閲覧)

国立国会図書館 (カレントアウェアネス・ポータル) (2021) 「2020 年の新型コロナウイルス感染症の大流行は学術出版・研究成果公開にどのような影響を与えたか」

<https://current.ndl.go.jp/node/42965> (2022/07/20 最終閲覧)

内閣府 (2020) 「第 5 次男女共同参画基本計画～すべての女性が輝く令和の社会へ～」

https://www.gender.go.jp/about_danjo/basic_plans/5th/index.html (2022/08/22 最終閲覧)

男女共同参画学協会連絡会 (2020) 「緊急事態宣言による在宅勤務中の科学者・技術者の実態調査結果報告」 https://www.djrenrakukai.org/doc_pdf/2020/survey_covid-19/report.pdf

(2022/09/30 最終閲覧)

日本学術会議 (2020) 「理工学分野におけるジェンダー・バランスの現状と課題」

<https://www.scj.go.jp/ja/info/kohyo/pdf/kohyo-24-h200605.pdf> (2023/02/01 最終閲覧)

神田由美子・伊神正貫 (2020) 「研究専従換算係数を考慮した日本の大学の研究開発費及び研究者数の詳細分析：調査資料 297」文部科学省 科学技術・学術政策研究所

https://nistep.repo.nii.ac.jp/?action=repository_action_common_download&item_id=6704&item_no=1&attribute_id=13&file_no=1 (2022/09/15 最終閲覧)

- 篠原さやか (2020) 「女性研究者のキャリア形成とワーク・ライフ・バランス」 『日本労働研究雑誌 No.722』 労働政策研究・研修機構、pp.4-17.
<https://www.jil.go.jp/institute/zassi/backnumber/2020/09/pdf/004-017.pdf> (2022/09/25 最終閲覧)
- 信田理奈・村上涼 (2020) 『新たな時代のジェンダー・イシュー：性差と育児、科学と女性を問う』 三恵社、pp.131-134.
- Elsevier (2020) "The Researcher Journey Through a Gender Lens" (ジェンダーの視点から見た研究者のキャリアパス) pp.8-9.
https://www.elsevier.com/_data/assets/pdf_file/0017/1084022/Gender-2020-Japan-Japanese-version.pdf (2022/07/30 最終閲覧)
- 小川眞里子 (2019) 「女性研究者進出の歴史」 『GRL Studies Vol.2』 名古屋大学ジェンダー・リサーチ・ライブラリ年報編集委員会、p.39.
- 藤原綾乃 (2019) 「データ分析で見るジェンダー平等の日本の課題」 『学術の動向 24 巻』 日本学術協力財団、pp.36-41.
https://www.jstage.jst.go.jp/article/tits/24/12/24_12_36/_pdf/-char/ja (2022/08/31 最終閲覧)
- 田村哲樹 (2019) 「「男性問題」としての女性研究者問題」 『GRL Studies Vol.2』 名古屋大学ジェンダー・リサーチ・ライブラリ年報編集委員会、pp.55-57.
- 文部科学省 (2018) 「日本の研究力低下の主な経緯・構造的要因案 参考データ集」
https://www.mext.go.jp/content/1407654_009.pdf (2022/09/20 最終閲覧)
- 男女共同参画学協会連絡会 (2017) 「第 4 回 科学技術専門職の男女共同参画実態調査」
https://djrenrakukai.org/doc_pdf/2017/4th_enq/enq_kaiseki_kekka.pdf (2022/08/22 最終閲覧)
- Elsevier (2017) "Gender in the Global Research Landscape" (世界の研究環境におけるジェンダー) p.17.21.
https://danjyo.kyushu-u.ac.jp/file_upload/Gender_report_Kyushu_U_workshop_Nov_9_2017_to_print.pdf (2022/07/20 最終閲覧)
- 藤村正司 (2017) 「なぜ研究生産性が失速したのか？ 大学教員の現在」 『大学論集 第 50 集 (2017 年度)』 広島大学高等教育研究開発センター pp.7-8. DaigakuRonshu_50_1.pdf (2022/10/01 最終閲覧)
- 小林淑恵 (2017) 「女性博士のキャリア構築と家族形成」 文部科学省 科学技術・学術政策研究所、pp.5-6. <https://www.nistep.go.jp/wp/wp-content/uploads/NISTEP-DP147-FullJ.pdf> (2022/08/15 最終閲覧)
- 森永康子 (2017) 「女性は数学が苦手—ステレオタイプの影響を考える」 『心理学評論』 vol.60,No1 京都大学、pp.49-59.
- 篠原さやか (2016) 「子どもをもつ自然科学系女性研究者の仕事意識」 『日本労働研究雑誌』 労働政策研究・研修機構 No.671,pp.82-83.
<https://www.jil.go.jp/institute/zassi/backnumber/2016/06/pdf/082-083.pdf> (2022/09/30 最終閲覧)

- 北原零未・信田理奈 (2016) 『ジェンダーが拓く未来～多様性と包摂性の尊重に向けて』一粒書房、pp.28-32.
- 藤本哲史・篠原さやか (2015) 「女性研究開発技術者の家族的責任とプロフェッショナル・コンフィデンスがキャリア継続に与える影響」『経営行動科学』 第 28 巻 第 2 号 pp.105-115.
https://www.jstage.jst.go.jp/article/jaas/28/2/28_105/_pdf/-char/ja (2022/09/01 最終閲覧)
- 信田理奈 (2015) 『ジェンダー平等の国際的潮流～国際女性年 (1975) 以降の動きを通して』三恵社、pp.121-127.
- 坂無淳 (2015) 「大学教員の研究業績に対する性別の影響」『社会学評論 65 巻 4 号』日本社会学会、pp.592-594.
- 加藤真紀 (2014) 「女性研究者の増加が研究成果に与える影響：試行的分析と考察」『研究・イノベーション学会年次学術大会講演要旨集』 第 29 巻、p.625-628.
https://www.jstage.jst.go.jp/article/randl/29/0/29_625/_pdf/-char/ja (2022/07/25 最終閲覧)
- 辻村みよ子 (2011) 『ポジティブ・アクション』岩波書店、pp.34-38.
- 富澤宏之・林隆之・山下泰弘・近藤正幸 (2006) 「優れた成果をあげた研究活動の特性：トップリサーチャーから見た科学技術政策の効果と研究開発水準に関する調査報告書」 pp.1-2,13-15
<https://warp.da.ndl.go.jp/info:ndljp/pid/2931731/www.nistep.go.jp/achiev/ftx/jpn/mat122j/pdf/mat122j.pdf> (2022/08/15 最終閲覧)
- Lerchenmueller, Marc J., Sorenson, Olav and Jena, Anupam B. 2019 “Gender Differences in How Scientists Present the Importance of Their Research: Observational Study.” The British Medical Journal (Clinical research ed.) , p.367.
- Aaron Clauset, Daniel B. Larremore and Roberta Sinatra, 2017 “Data-driven Predictions in the science of science,” Science 355, pp.477-480.
- Lutter, M., & Schröder, M. 2016. Who becomes a tenured professor, and why? Panel data evidence from German sociology, 1980–2013. Research Policy, 45(5), pp.999-1013.
- Tartaria Valentina and Ammon Salterb, 2015. The engagement gap: Exploring gender differences in University – Industry collaboration activities. Research Policy, 44(6): pp.1176–1191.
- Blickenstaff, Jacob Clark, 2005 “Women and Science Careers: Leaky Pipeline or Gender Filter?” Gender and Education, 17 (4) , pp.369–386.

[書評]

『ベルリン 1933 一壁を背にして上・下』

岡田浩平先生との思い出とともに

*松木 久子

The Book Review of “MIT DEM RÜCKEN ZUR WAND by Klaus Kordon”
In remembrance of Mr. Kohei Okada

Hisako Matsuki

キーワード: ドイツ, アドルフ・ヒトラー, ナチス党, AEG 社, ユダヤ人, 国会選挙

Key Words: Germany, Adolf Hitler, Nazi Party, Jews, elections

要約: 表題のベルリンというドイツの都市において、1933 年に何が起きたのかということは、現在では世界史上の出来事として誰もが知るところである。民主主義的で合法的な手続きにより、ヒトラー率いるナチス党が政権を取った年である。その後のドイツが歩んだ歴史についても、今や明らかである。民主主義の危機と言われる現代社会において、本書は児童書とは言え、示唆に富む事柄に満ちている。しかし同時に、100 年近く経った今日において、人間は基本的に変わらないのでは、という疑問も湧いてくる。是非とも一読していただきたく思う、素晴らしい児童書を紹介する。

Abstract: Today, we know that what happened at Berlin, Germany in 1933. Yes, The Nazi Party won a seat in the lawfully democratic parliamentary election and Adolf Hitler came into power finally. We also know that what happened in Germany and the World during World War II. Nowadays many people worry about the crisis of democracy all over the world. There is a brilliant juvenile book here. I'll show you the reason you should read that book.

はじめに

2022 (令和 4) 年 7 月から 8 月にかけて、東京都や神奈川県といった首都圏を中心にして、「ファイナル・アカウント ―第三帝国最後の証言」というタイトルの映画が上映されていた。この映画は、2020 (令和 2) 年にアメリカ・イギリス合作の映画として作成されたドキュメンタリー映画である。ナチス支配下のドイツ・第三帝国に参加したドイツ人高齢者たちの証言を記録したドキュメンタリーであるが、80 代後半から 90 代前半の男女の高齢者たちが、10 代・20 代の若かりし時にどのようにナチスに同調し黨員となったか、そしてやがて軍部の上官となり戦争に加担していき、あるいは、ユダヤ人たちや社会的に不適合とナチス党からレッテルを貼られ排除された人びとを収容していた、強制収容所の係官として活躍するようになったのか、といったシビアな質問に対して、時には顔の表情を歪めたり、撮影をやめてくれと言いながら苦悩に満ち、また時には良き思い出を語るに相応しい笑顔になったりしながら、具体的な説明を加えながら語るという内容となっている。長きにわたって沈黙を続けてきた高齢者たちが語ったことは、ほとんどがナチスへの加担や受容したことを悔いる言葉が主なものであるが、中にはヒトラーの政策を正当化する発言がなされたりもする。しかし共通していたことは、愛国心があったからこそ、よかれと思ってナチスを信奉していたということであった。わが国日本同様に、第二次世界大戦において敗戦国となったドイツにおいても、戦勝国によるニュルンベルク裁判が行われナチスの幹部たちは感情的に一方的に裁かれた、という批判があることは否めないが、いずれにしてもこのドキュメンタリー映画は、賛否両論が示されているということからして非常に複雑な思いにさせられることは間違いないし、物事というものはそれほど簡単に単純化はできないということを改めて痛感させられる。

わが国日本と比較すると、第二次世界大戦に対して徹底的に向き合ってきていると言われるドイツならではのと思うが、今回書評として取り上げた『ベルリン 1933 ―壁を背にして上・下』という著作も、あの当時に何が起きたのかということ、しっかりと着実に次の世代に伝えようという意気込みが感じられる内容である。日本における書物の分類としては児童書として分類されているとは言え、内容は読みごたえのある要素で満たされており、現在の日本とも共通するかと見紛う事柄も記載されている。日本における昭和史研究の第一人者と言われていた半藤一利氏が、2021 (令和 3) 年 1 月 12 日に逝去された。生前半藤氏は、ここ数年間があまりにも 1930 年代の雰囲気、日本社会全体が似てきている、という警告をするかのごとく、同じく昭和史研究の重鎮とも言える保阪正康氏と共に、太平洋戦争に関する著作を共著で出版したり、単著で出版されたりしていた。半藤一利氏や保阪正康氏だけではなく、2021 (令和 3) 年 11 月 9 日に逝去された瀬戸内寂聴さんや、今もご健在でいらっしゃる美輪明宏さんにしても、1930 年代というまさに日本において昭和初期時代の太平洋戦争に向かっていく社会的雰囲気を、実際に知っているお二人もあの時代の雰囲気に似てきているという警告を、2015 (平成 27) 年に長崎県で行われた二人の対談

において指摘をしている。太平洋戦争を直接に体験・経験された人びとが、戦後 75 年以上を経て年々減ってきている今日において、わずかとは言えあの戦争に突入していく雰囲気を実際に知っている人びとからの警告には注意を傾ける必要がある。

しかしながら我われ人間はいつの時代もそうだと思うが、時代の当事者となっているときは、何もかもがよくわからない状態で時が流れていってしまい、意識することはない。そうした時には、おそらくあの時があ時代の転換点だったのだ、ということは後から我われは理解するという代物かもしれない。この 2 年半におよぶコロナ禍において、日本における経済状態はかなり悪化していることは確かであり、また「忖度」という怪しげな言葉が跋扈する状態にあった政府が実行した、これまたトンドEMONAI 経済政策の失敗の結果によって国民が苦しむ状況がすぐそこにまで来ていることを考えると、先の戦争が起きることになったきっかけはやはり経済の悪化であったことを思い起こす必要がある。結局、経済の行き詰まりが戦争に結び付く、ということを折しも 100 年前の状況と重ね合わせて考えてみると、およそ 100 年前にもスペイン風邪と言われたインフルエンザが世界中に蔓延していた状態で、おまけに関東大震災という大規模災害が起きた状況が重なり、その結果、当時の日本経済も徐々に悪化していくという酷似したような状況が展開していたと考えられる。

ドイツのかつての首都であったベルリンにおいて、1933 (昭和 8) 年に起きたことと言えば、世界史を少しでも学んだことがある人であれば、ドイツの歴史を決定的に変えることが起きたことは誰もが今や知っている。つまりヒトラー率いるナチス党が、1933 (昭和 8) 年 1 月 30 日の国会選挙において、合法的に民主主義的な選挙という手段によって第一党となり、ヒトラーが首相となりその後ありとあらゆる法律を成立させ、全体主義的な政治手段によってドイツを支配し、破滅に導いていくことになった始まりの年であった。当時のドイツにおけるこうしたナチス党の台頭という背景には、既成の政党政治が上手に機能せず、労働者というか国民を守るべき立場のドイツ社会民主党やドイツ共産党が、手を携えて協力しようとしめない状況に人びとの間に嫌気が蔓延し出し、そうした中で人びとの不満や不安をうまく取り入れ、選挙を行うたびにナチス党が得票率を伸ばし、合法的に民主主義制度の中から生まれてきたという皮肉がある。

現在の日本の政治状況に目を転じてみれば、1930 年代のドイツの政治状況とよく酷似している。数の論理だけでやりたい放題の与党勢力に対し、明らかに国民の中の不満や不安の声を拾うべき野党勢力はまとまる気配が一向になく、自分たちの党利党略に基づいて政治を行っている状態である。明らかに、国民は呆れてかえっている状態であるが、そのことに野党勢力は気付いていない。「歴史は繰り返す」、という言葉の通りにならないようにするためにもこの著作を一読する価値は大いにあると思う。しかし、年月が経とも基本的に人間の本质は変化しないものなのか、ということはこの著作は我われに痛烈に突き付けてくるように感じるが、微かな希望を見出せる側面も備えている。

1. 主人公ハンス少年を取り巻く暴力の嵐

今となればヒトラーが率いたナチス党は、どう考えてもならず者たちの集団であったとすることができる。総統ヒトラーにしても、どこか誇大妄想狂のような一面があったことや、自分が不遇であることは専ら社会の側に非があるということを若い頃から心に抱いており、自分の野望を実現するためには暴力をも容易に用いるということからも、考え方が非常に偏っていることは今となっては明らかである。私たち日本人は、社会というか集団における同調圧力が殊のほか強く、ここ 20 年あまりにおいては「空気を読む」などという言葉も聞かれることもあり、そうしたことから当時のドイツ人たちがすべてナチス的な考え方に同調していたと考えがちである。日本においてもまたドイツにおいても、いついかなるどんな時代であっても、正常な考え方をする人びとは存在し異議申し立てをする人びともいるのだと思うが、その時代を鋭く批判する声が消されてしまう時代というものがあるのだ、ということを『ベルリン 1933 一壁を背にして上・下』は教えてくれている。明らかにナチス党が発する文言には非がある、何かおかしいと認め思いながらも、いつの間にか靡いていく人びとがある程度いるということを見ると、いつの時代も人間は変わらないということも理解できる。

本書の主人公は、15 歳のハンス・ゲーブハルトという少年である。彼は、「人はなべて平等なり」というフィヒテの言葉を協会のモットーにしていた、1890 年に設立された体操協会であるフィヒテ・スポーツクラブに所属している体操選手である。しかしまさに、このフィヒテ・スポーツクラブが辿ってきた経緯に表れているように、ハンス少年も 15 歳にして社会というか国家に翻ろうされていくことになるのである。フィヒテ・スポーツクラブは第一次世界大戦後、左翼系の体操協会となり、1927 (昭和 2) 年に労働者スポーツ協会に加盟し、1933 (昭和 8) 年の国会議事堂炎上後、ナチス党によって解散させられ、1935 (昭和 10) 年 10 月 18 日、裁判所より活動禁止の判決を受ける、ということになるのである。ハンス少年はまさにナチス党によって解散させられる寸前に、同じフィヒテ・スポーツクラブに所属している親友のノレ・フェルトマンから、1883 (明治 16) 年に創業されたドイツ最大の電機メーカーである AEG での仕事を紹介され、学校を辞め人生で初めての会社に出勤するところから話が始まる。ドイツ史において、明らかに時代の大きな転換点となった 1933 (昭和 8) 年の前年 1932 (昭和 7) 年からの出来事を追いながら、ハンス少年の目そして彼自身の行動を通して、世界史的視点からも大きなモメントとなったドイツにおける民主主義の崩壊から、ファシズムというか全体主義国家果ては独裁国家へと変貌を遂げていく状況が、物語全体を通して語られている。

ドイツという国家が変貌を遂げることになった直接の原因は、第一次世界大戦の大敗によって天文学的数字と言われる賠償金の支払いを要求されたことにより、国内の経済が次第に衰退していき大量の失業者を産み出すことになる一方で、資本家たちや貴族は何の被害も被らないというどうにもならない格差が存在していたことが関係していよう。こうし

た状況の元凶としてナチス党の恰好のプロパガンダとして挙げられたのが、ユダヤ人をはじめとして、税金の無駄な投入がなされているとされた障がい者や低所得者、あるいは社会的な墮落者とされた同性愛者といったナチス党が社会に不要とレッテル貼りをした存在であったと言える。

ハンス少年の家庭においても、第一次世界大戦が大きな影響を与えている。ハンス少年が尊敬している父親ルディも、もともとは腕のよい左官職人であったが、第一次世界大戦に参戦し爆弾の攻撃によって片腕を失ったことから、左官の仕事をするができなくなり、なけなしの賃金しか得ることができない製作所の守衛をしている状況である。このような体験からかはよくわからないが、もともと父親のルディは共産党員であったのであるが頑固な一面もあり、党の方針に納得がいかにずい共産党を脱退したという過去をもっているのであるが、労働者によるデモがあればそれに参加し、労働者が置かれている立場が少しでも現状よりはよい状態になるように、という信念をもち続けている。母親のマリーは夫ルディの意見は常に正しいと考えてはいるが、ドイツ共産党員であり続けている。夫のルディが満足いく仕事に就けないために、母親が仕事によって稼ぐ賃金によって、ゲープハルト家が住むアパートの家賃や生活費が賄われているが、十分なものとは言えず毎月ぎりぎりの状態で家族が生活しているというのが正直なところである。

ギムナジウムに通っていたハンス少年は学校の成績が良かったのであるが、いくら学校の成績が良くても生活に余裕が生まれるわけではない、ということから学校を続けるよりは少しでも家庭の家計を助けたい、という一心で親友のノアに相談したところ、社会に失業者が溢れる中で唯一空きが生じているポストである、AEGの倉庫係としての職をノアの口利きによって得ることになるのである。いつの時代も似たようなものだと思うが、国家が推し進める政策が適切に機能しない場合、その最悪の場合は戦争であり経済政策といったものになると思われるが、割を被るのは稼ぎ頭の父親または母親や若い世代の子どもとなることのよい例が、この著作の中でも展開されている。ハンス少年の家庭は、経済的には恵まれていない状況であるとは言え、父親と母親はとても仲がよく、兄弟姉妹もみな仲がよいと言うことが救いとも言える。しかしその仲のよい家族の関係の中にも、ナチスの問題が忍び寄ることになり、後にまで続く亀裂が入り家族の絆が戻らないことになろうとは誰も知る由はない。現在の日本においても注意すべきことは、国民の不満や不安を上手に汲み取り、あたかもその政党に投票し政権を担当させればすべてうまく事が運ぶ、というようなことを声高に唱えるような政党の出現は要注意だということである。

ハンス少年には、憧れの存在であり尊敬する兄でゲープハルト家の長男のヘレ（ヘルムート）がいる。すでに結婚して独立し、別な場所にアパートを借りて住んでいるが、共産党員であり青年部の中では重要な働きをしていることから、仕事に就くことができずに無職の状態にある。兄ヘレの妻であるユッタも共産党員であるが、夫ヘレが無職であることから、妊娠中でありながらも家賃や生活費を稼ぐために、ビアホールの掃除婦として安い

賃金の仕事に従事しているが、出産した後にその仕事に再び就くことができるかどうかを心配するという、実に不安定な立場にある。ハンス少年にとって、兄ヘレの妻であるユッタは非常に気の合うもう一人の姉のような存在であり、一緒にいると寛げいろいろな話や相談のできる存在である。ハンス少年の実の姉であるマルタは、非常に上昇志向の強い女性であり、事務所の事務員としての仕事に就き、実はゲーブハルト家の間取りが手狭となったために、屋根裏部屋にマルタとハンスと一緒に寝ているのであるが、その家賃はマルタが支払っているという現実もある。実はこの姉マルタが、仲睦まじく暮らしていたゲーブハルト家を分裂させてしまう張本人となる。このことはおそらく、当時のドイツ中の家庭で起きたことだと想像できることであるが、マルタが付き合っており後に両親をはじめ兄弟たちからの反対を押し切って、婚約そして結婚してしまうことになるギュンター・ブレームは、ナチスの突撃隊の一員となり暴力的な活動にも徐々に参加することになっていくという存在である。

ギュンター・ブレームは兄ヘレの元級友でもあり、ギュンター自身はそもそも残虐性など少しももち合わせていない優しい人物であるが、そうした性格の青年であっても、社会における自分自身の地位向上に憧れるあまり、ナチス突撃隊に入隊するという暴挙を犯してしまうのである。ある意味、時代の雰囲気そうさせた、と言えそうであるかもしれないが、歴史的な結果を知り得ている現代に生きる我われからすると、ギュンターがとった行動は軽率だと言わざるを得ない。しかし、そうした道にしか可能性を見出せない、というある種追い詰められた状況で過酷な現実を前にしたときに、果たして自分自身はギュンターとは異なる道を選ぶ自信はあるだろうか、という不安を想起させる。ハンス少年には、もう一人中学生の弟であるムルケル（ハインツ）がいる。ムルケルはゲーブハルト家の末っ子として、父親や母親そして兄であるハンス少年に甘える弟でありながらも、家族のバランスをよい感じでとっている存在である。末っ子のムルケルにとってハンス少年はギムナジウムで優秀な成績を修め、体操選手としても活躍している誇りに思える兄であり自分の勉強特に数学の勉強の面倒を見てくれる、いつでも頼りにできる存在である。同じ兄弟姉妹といっても、ムルケルにとってハンス少年は比較的年齢も近いこともあり、親しい友だちのような存在でもある。

ハンス少年はギムナジウムでいくら成績がよくても、家庭が貧しい労働者階級であることから、本当は大学に進学したいという思いがあっても実現するのはまず不可能であり、将来は父親のような職人になりたいという夢をもってはいるが、母親の決して充分とは言えない稼ぎの足しになるようにと、かつて自分の父親も勤めていたAEGというドイツを代表する大会社に、たった一つ空いたポストにたまたま就職できるというだけで、幸運と言わざるを得ない環境にあったということである。ゲーブハルト家が共産党を信奉し、党员であるということはある程度知られていたことであることから、ハンス少年も共産党を礼賛しているものと他の人びとも見なしていた。しかしハンス少年は、非常に慎重なとこ

ろがあり、自分の政治的立場をはっきりさせることにはまだ至っていない。ハンス少年を取り巻く人びとからすれば、彼の家族の状況から判断しハンス少年も共産党を礼賛しているものと思っているのである。そのような誤解からハンス少年は、大会社への緊張みなぎる出勤の初日から、あの当時のドイツという国家を象徴するような暴力の嵐の洗礼を受けることになるのである。AEGの倉庫係として勤務することになったハンス少年は、油や埃にまみれた職場での汚れを落とすためのシャワールームにおいて、新入社員に対するある種の洗礼とも言える嫌がらせに遭遇する。こうした嫌がらせの背景には、共産党員へのナチス党員からの嫌悪というものがあるが、徐々に党員を増やしつつあったナチス党員のこれ見よがしの存在誇示ということも関係していた。男性同士の争いということもあり、シャワールームにおいて壮絶な暴力の横行になるのであるが、ハンス少年の味方という存在もあり、暴力から逃れることもできる一方で、窮地に陥る状況に遭遇してしまうことも起きる。先にも述べたように、ハンス少年自身は自分の政治的立場を決め兼ねている状況であるとは言え、ナチス党員たちにしてみればそのようなことは一切関係のないことであり、ある種ハンス少年はナチ党員の恰好の餌食となり得ていたのである。

ハンス少年は、父親ルディがかつては熱心な党員であり支部のリーダーも務めていたにもかかわらず、労働者のための政党であるはずのドイツ共産党が、いつの間にか中央集権的な党指導部とモスクワの命令を無批判に受け入れる風潮に納得がいかず、共産党が奴隷制と官僚主義に染まり、偽りに満ち非人間的になったという理由から脱党した、という理由には一理あると思っていた。ハンス少年を取り巻く周りの多くの人びとも、なぜハンス少年が共産主義青年同盟に加入しないのかという疑問を、事あるごとに彼に訊ねるという状態でもある。この著作の読者はおそらく、ハンス少年の物事を慎重に深く考えようとする態度に好感がもてると同時に、用心深くことを運ぼうとする姿勢や当時のドイツが陥っていた時代の過ちに鋭く気付いている聡明さに、児童文学ならではの将来への希望を垣間見る思いがすることであろう。いつの時代にも、その時代特有の問題点に気付いている人びとが存在しているのであり、時にはその問題点を声高に叫び、少しでもよい方向を模索していこうとする人びとがいるからこそ、絶望的な状況を迎えてもやがて正常な方向性が打ち出されてくるのだと言える。この児童書におけるハンス少年という存在は、まさに新しい時代へのささやかな希望という象徴と言えるが、しかし現実には実に過酷である。

第一次・第二次・第三次安倍晋三政権において、約10年間もの間財務大臣を務めていた麻生太郎氏は、憲法改正がなかなか捗らない状態についての見解において、「ナチスの方法に倣ったらどうか!？」という問題のある発言をしたことで物議をかもした。100年近く経った今日においても、ナチス的なものの台頭という問題にはある種の誘惑が潜んでいるように、今後も永遠に考え続けていかなければならない事柄だと捉えることができよう。多くの人びとが何となく胡散臭い、怪しいと思いながらも靡いてしまう、という人間心理というものは、いつの時代にも共通性があることを絶えず思い起こす必要があるだろう。

本書の主人公ハンスは、まさに時代の流れに同調することに疑問を絶えず抱いており、周りの人びとが自然にナチス的な考え方に同調し始めていることに対しても、大いに疑問を抱いている少年である。確かに、尊敬する両親や兄が共産黨員ということもあり、ハンス自身も周りの人びとから当然、共産黨員であると思われるしており、また共産党的な考え方を信奉しているものと思われる節があるが、ハンス少年は絶えずそうした見方に対して、ささやかな抵抗をし続けているのである。

2. ささやかな抵抗をし続けることが次の時代へと繋がる重要な要素

ドイツ人作家クラウス・コルドン(Klaus Kordon, 1943-)氏によって著され、酒寄進一氏によって訳され、岩波書店から岩波少年文庫『ベルリン 1933 一壁を背にして上・下』として出版された著作は、20 世紀前半の〈転換期〉を描いた三部作の二巻目にあたる。つまり 1933 (昭和 8) 年 1 月 30 日にヒトラーが首相に就任し、ファシズム国家に邁進していく状況がドイツに突然現れたわけではない。第一巻『ベルリン 1919 一赤い水兵』は、1918 (大正 7) 年から 1919 (大正 8) 年にかけて起きた出来事である、スパルタクス団ないしはドイツ共産党の理想の実現を目指した、ドイツ再出発の夢と希望に満ちた内容となっている。そして第三巻『ベルリン 1945 一はじめての春』は、ナチス党のファシズム体制により繰り広げられた第二次世界大戦の大敗と、その後の混乱について語られている。第一・第二・第三巻とも、ベルリン在住の労働者階級のゲープハルト家を通して、それぞれの時代が描かれている。第一巻の主人公は長男ヘレの目を通して、第二巻では先述したようにヘレの弟である次男のハンスが主人公として、第三巻ではヘレとその妻ユッタの娘エンネが 12 歳の時の目を通して物語が展開されている。

クラウス・コルドン氏による三部作は、いずれもそれぞれ岩波少年文庫として上・下巻本として出版されている。ちなみに第一巻は 2020 (令和 2) 年 2 月に、第二巻は同年 4 月に、第三巻は同年 6 月に刊行され児童文学としての扱いとなっている。よく日本とドイツは、第二次世界大戦への向き合い方が比較されるように、日本においては昨今いまだに、「歴史認識」なる言葉が跋扈し第二次世界大戦に対する名称 (太平洋戦争や大東亜戦争、日中戦争や先の大戦など) や評価も定まっておらず、後世にどのように伝えるべきかという明確な基準も示されていない状況にある。一方ドイツは、ヨーロッパ大陸というお互いの国境を接している国々においては、歴史学者たちが半年や一年に一度、というように定期的に歴史的な事柄を話し合う機会がもたれていることから、歴史的事実についての共通認識をもち得ている。このようなことから考えると、児童文学としてこれからの国や社会を担う世代に歴史的事実を踏まえた物語が提供されている状況に、日本人としてはとても羨ましく感じ、また我われ日本人もこのようにありたいと思う。歴史的事実に向き合うということには時折、痛みが伴うものだと思うが、次世代の若者たちに過去の出来事をしっかりと伝え、二度と同じようなことが起きないようにすることが先を生きる大人の責任だ

と思うのであるが、適切に機能しているとは言えない状況がある。

『ベルリン 1933』の帯紙には、作家のひこ・田中氏の「大人には痛いし、読むには覚悟がいるが、その価値はある。」という言葉が記載されている。児童文学とは言え、当時のドイツというか世界中に渦巻く暴力礼賛のような世情において、特にナチス党に所属する人びとからの日常的な暴力に曝されるハンス少年の物語を読むのは、確かに苦痛を伴う。しかしその反面、15歳という思春期ならではの甘酸っぱい出来事も、要所要所に織り込まれていることが救いでもあり、さらに児童文学ならではのと言えらると思うが、将来を見据えた希望も織り込まれていることも確かである。ハンス少年は不安を抱きながら、日常的に暴力に支配されているドイツを代表する大会社 A E G 社に勤めながら、同じ会社に勤めているミーツェという年上の女性の存在を知るようになる。お互いがお互いの存在を意識し合うという状況から、また会社にはハンスやミーツェくらいの若い存在が珍しいこともあり、女性たちの職場において二人は恰好のおはやしの存在ともなるのであるが、徐々に親しくなりやがて恋人同士に発展していくが、実はミーツェはナチスが最も嫌うユダヤ人にルーツをもっているのである。ハンス少年の家族それぞれも、ユダヤ人に対して差別意識などは何もなく、むしろ息子に出来た初めての彼女ということから大歓迎する。またハンスとミーツェの関係から考えても、当時のナチス党による最大のプロパガンダであったユダヤ人差別ということが、いかに滑稽なものであるかということも、ハンス少年とミーツェの関係から非常によく理解できる。

ミーツェは、ユダヤ人のカールおじさんとベルタおばさんと共に、まるで息をひそめるかのように一緒に住んでいる。ハンス少年が居住している地域からは少し距離のあるミーツェの家であるが、その距離が二人にとっては苦痛とはならず、まるでデートを楽しむかのようにいろいろな話をしながら、ハンス少年がミーツェを時折送っていくのである。ハンス少年は、ミーツェのおじさんやおばさんとも親しくなっていくのであるが、次第にユダヤ人への嫌がらせが横行していく状況もよく記載されている。社会が平穏で無事な時には、ある特定の人種や民族への嫌悪というものは、トンデモナイことであることを我われ人間はよく理解しているものだと思うが、社会的に不満や不安が渦巻き始めストレスが溜まり始めると、弱者や嫌悪感を抱く人びとへのヘイトめいたものが現れてくる。また、そうしたことを声高に叫ぶ扇動者に、いつの間にか同調していく傾向がどうも我われ人間にはあると言わざるを得ない。時が経ち冷静に考えれば理不尽なことも、理不尽なこととして考えられなくなる時代というか、社会的雰囲気あるいは空気感というものが生じるときがあるが、そうしたときにどのような態度を自分では取り得るのか、といった問題が問われていると言えよう。嵐のようにことが過ぎれば「私は騙されていたのだ!？」、と声高にいう人は枚挙に暇がないが、騙されることへの責任はどうなのか、と問わずにはいられない。昨今の日本の社会に渦巻く空気感といったものを考えても、共通性は大きいと言える。時代を鋭く見つめる目というものを考える上でも、『ベルリン 1933』は必読書に値

し得ると言える。

ハンス少年自身は、政治的立場を決めかねているとは言え、兄ヘレの共産党員仲間の少年たちや他の党員たちとともに、反ナチスの集会やデモ行進に参加することはもちろん、駅周辺やベルリンの街の至る所にポスターを貼る手伝いをするなど、自分たちが置かれた立場でできる限りの抵抗を試みる。ナチス党に所属している誰かに、そうした様子が見つかることになれば、銃で撃たれ死に至るかもしれない、という熾烈な闘いを試みているのである。社会の雰囲気が変わってしまうと、今まで味方だと思っていた人びとが簡単に敵方に寝返りを打ち密告されてしまう可能性が出てくるなど、またその反対の場合も容易に他人を信じるのが出来なくなっていく様子も非常によく描かれている。所詮、人間とはこういう者かという絶望的な思いをする一方で、意外なところに味方ならぬ助っ人めいた人びとがいる様子を知ると、人間社会もそれほど捨てたものではない、といった思いも浮かび上がってくる。時の政権担当者がならず者となったときには、これほどまでに人びとの精神は荒廃し、やがて社会もそして国家も腐敗していくという様子が、手に取るように理解できる作品でもある。それゆえに、有権者であることの意義は非常に大きい、という教訓も導き出せるのであるが、時として人心は言葉巧みな為政者に簡単に絡めとられる、という悪しき習慣ももち合わせていることも想起させられる。

1933 (昭和8) 年1月30日の国会選挙において、決して起きてはならぬヒトラーが首相となるということが起きてしまった。選挙結果を聞いた良識ある人びとは、絶望の淵に追いやられ不安感が増していくこととなった。ナチスを支持する人びとは、街中に出て狂喜乱舞することになるのであるが、今や恋人同士となったハンス少年とミーツェの二人は、兄ヘレが住むアパートの屋上から、密かに共産党の旗を垂らすという暴挙をやっているのである。このような暴挙に出ることは、実は命がけのことであったのである。共産党員を一網打尽にしようとして計画していたナチス党の面々は、少し前から兄ヘレのアパートの部屋を監視しており、何かあればすぐに襲撃しようという体制をとっていたからである。そうしたことにもめげずに、ハンス少年とミーツェはちょっとした隙をついて堂々と翻る共産党の旗を誰からも見える位置に吊るすことに成功するのである。それはまるで、民主主義的な選挙という合法的な手段で政権を獲得したところで、私たちはナチス党が支配し、ヒトラーによる独裁政権などには決して屈することはない、というメッセージそのものを風に翻る旗は象徴していたからである。そしてまた、その光景を見た人びとも密かに、ナチスに対してまたはヒトラー政権に対して、抵抗していくことを新たに決意していくことになったからである。

しかしながらその後、約12年にもおよぶヒトラー政権下において行われたことの数々の悪行を考えると、改めて民主主義の意味や選挙という問題そして人間心理といったことを深く学ぶ必要性があることに気付く。「歴史は繰り返す」という言葉があるが、ここ数年の日本をはじめとする世界中の各国における民主主義の劣化や、選挙制度の破綻といった

問題を考えると、誰も真剣に過去から学ぼうとしていないように思われる。確かに我われ人間は多少、成長や進歩そして発展はしているように思うが、それほどでもないかもしれないとも思うこともある。戦争に突入していった 1930 年代に似てきている時代状況であるからこそ、この著作は現代に生きる我われに多くの問題点を容易に気付かせてくれる。手遅れとならないうちに、是非とも手に取って一読してほしいと思わせる内容に満ちた児童書である。作家のひこ・田中氏の「子ども（未来）に信頼を抱くのが児童書の強さだ。」という帯紙の言葉の通りであるし、未来を展望できる社会の実現あるのみである。

おわりに

2 年前の 2020（令和 2）年や 2015（平成 27）年といった 1945（昭和 20）年の第二次世界大戦終結から数えて、75 年や 70 年という節目の年には必ず、戦争についてのテレビ番組や書籍などの特集が組まれる。そうでなくともこの頃は、あの戦争を体験した人びとが年々減少していくことから、毎年のように殊に日本においては、8 月は戦争月間と言えるほど何かしら特集が放送されている。おそらく平成生まれの人びとにとっては、またか！と思うことが多々あるであろう。映画においてもやはり毎年のように、必ず 1・2 本またはそれ以上にナチスに関連した内容をもつ映画が公開されている。よく言われるように、世の中から戦争の惨たらしさを実際に経験したり体験したりして、知っている人がいなくなると次の戦争が準備される、と言われるように、昨今のコロナ禍によってさらに拍車をかけられたような殺伐とした社会状況はそうしたことを示唆しているのかもしれない。やはり知らないよりは知っているに限るわけであるから、これからも意識してそうしたものに触れていかざるを得ない時代が到来したと思う次第である。

本書は、ドイツ史において最大の汚点とも言えるナチス党の台頭といった時代を、児童文学という分野で取り上げ著された作品である。自国の歴史のマイナス面を的確に捉え、後世の人びとにしっかりと語り継ごうという意味からも、我われ日本人が学ぶべき点、大いに含まれている内容であると思われる。この 30 年あまりの間に、自虐史観という言葉で表されるように、旧日本軍が行った事柄に真摯に向き合うどころか、否定的にとらえることに異議申し立てをすること自体は再考する必要があるとは言え、どこか感情的に声高に叫んでいる状況が垣間見られることは悲しい限りである。やはり後世の人びとに、歴史的な事実に向き合うことの大切さや、2 度と同じことを繰り返さないためにも、何が起きたのかということを確認しながら語り継いでいることの重要さが、本書を通じてよく理解できる。しかしながら毎回の選挙の度に、もう少し何とかならないのか、という思いが渦巻く昨今ではあるが、時代の潮流をよく読みながら、少しでもより良い社会の到来を実現するためにも、意思表示の手段である選挙について真剣に向き合いたいと思う時代の到来でもあるように思う。

献辞：特に、ナチスに関連する内容をもったものに筆者自身が興味を惹かれるようになったのは、小学校高学年において歴史を学び始めた時に教科書の写真資料の中に、「労働すれば自由になれる (Arbeit Macht Frei)」という文言がとても気になったことである。その後、高校生や大学生の時から現在に至るまで、毎年欠かさずにナチスに関連した映画を見るようになっていく。早稲田大学の大学院生時代に確か単位取得のための対策として、学部の女子大時代に第二外国語がドイツ語であったため、岡田浩平先生が担当されている「ドイツ語講読」の授業を取ったところ、ナチス関連の事柄をそれなりに筆者自身を知っているということに岡田浩平先生が興味をもってください、その後毎年のように授業に参加するようになったことから、親しく関わりをもつようになったという経緯がある。岡田浩平先生が授業で扱われ使用された教材は、ドイツから直輸入される新聞記事が主なものであった。それも、ナチスに関連する新しい発見めいた内容であり、授業に間に合わせてせっせと毎回辞書を引いて文章を訳していったことが思い出される。岡田浩平先生の授業を通して感じたことは、ドイツ人というものは年月が経ってもしつこく歴史的事実に向き合う人たちなのだ、ということである。いくら年月が経過したとしても、過去の出来事は過ぎ去ってしまったことではなく、新たな資料や目で何度でも見直す必要のあることだ、という考え方をしていることには感心させられる。

昨今、日本において政治家や官僚が関わった事柄において、文書改竄や破棄ということが平気でまかり通っているという状況があるが、おそらくドイツ人をはじめとして他の欧米人からしてみれば、信じられないことが起きているという感覚であろう。歴史からの審判を仰ぎ見ない状況は、下手をすれば日本という国家は信用できない国である、と思われるかもしれない。いずれにしても、歴史というものに向かい合う姿勢が、こうも異なるものなのか、と思うのである。ある時、大学院から放出されて何年も経った時に公開された映画の内容が、まさに岡田浩平先生の授業で扱われた新聞記事の内容であったことから、その旨を岡田浩平先生に手紙で伝えたところ、自分の授業内容を覚えてくれていたことが嬉しい、ととても喜んでくださったことがあった。それ以来折に触れて、いろいろなことを相談したりしながら連絡を取っていたのであるが、残念ながら今年〔2022（令和4）年の3月30日に逝去されたという報告を奥様からこの8月に知らされた。最後に電話で岡田浩平先生と話したのは、昨年2021（令和3）年の12月30日のことであったが、事前に『ベルリン 1933』という児童書についてお知らせしたこともあり、その児童書についての話になったが、「遂に僕も教え子から、文献を紹介してもらうようになったんだなあ〜」と感慨深げに仰っていただけた。「必ず購入して、読んでみるよ。」とも仰っていたが、今となってはその後の岡田浩平先生のご様子を知る由もない。

ナチスに関連する内容に触れるたびに、今までもまたこれからもお世話になった岡田浩平先生のことを思い出すことになろう。厳格に定義すれば、第二次世界大戦で敗戦国となった日本とドイツでは、ファシズムというか全体主義国家という内容は異なるであろう。

しかし同じような時期に、同じような方向性をもって国家が傾いていったことの共通性はあろう。絶えずナチスのことに関心を抱いていらっしやった岡田浩平先生の研究姿勢を思い出しながら、これからも国家が少しでもおかしな方向へ傾かないようにするにはどうすればよいか、ということを考え続け、確信めいたものを得ることが難しい問題であることは確かであるが、思考停止に陥ることの無いように関心をもち続けたいと思う。それはいみじくも、ユダヤ人でありハンス少年の恋人であるミーツェが語っている言葉、「信じるものを乗り換えるのはむずかしいことじゃないわ。自分の頭で考えることのほうがずっとむずかしいことよ」、とまさ言っている通りであろう。我われ人間は、絶えず他人が言うことに左右される傾向があると思うが、しっかりと他人の意見を聞いて吟味しながらも、自分の頭で考えていくことがいかに重要かということである。

興味の尽きないナチスという永遠のテーマをお教えたくださった岡田浩平先生の思い出とともに、この書評を終えたいと思うのであるが実は、今となってはこれも岡田浩平先生からの遺言めいたものであるかもしれないことにも触れておきたい。それは、12月という師走ではないが、岡田浩平先生が近くの郵便局に走って行って投函して送ってくださった文章の中に、岡田浩平先生が早稲田大学の学部生時代に体験された「日米安保反対闘争」のデモに参加された時の模様が綴られた内容のものが入っていた。つまり、国家がおかしな方向に傾き始めようとした場合には、時にはしっかりと国民の一員として意志表示をするべきだ、ということだと思ふ。岡田浩平先生は確か生前、「正論はひるまずに言わなければいけないよ！」と常に仰っていた。亡命ユダヤ人文学者、特にヴァルター・ベニヤミンの研究をされていた岡田浩平先生について知り得ていることは、ほんの少しではあるが、それでも一人の人間としてどのように生きることが良いのか、というお手本めいたものを事あるごとに示していただいたと思う。岡田浩平先生のご冥福をお祈りしながら、少しでも生前の岡田浩平先生がお考えになっていたことに近づけるように、自分の頭でしっかりと考え、言わなければならないときはしっかりとと言えるように、日々精進して参りたいと思ひながらこの書評を終えたいと思う。それにしても改めて、コロナ禍が終息した暁には岡田浩平先生にお会いして話がしたいと思っていたが、その存在自体がこの世からなくなってしまった今、本当に残念至極である。岡田浩平先生という素晴らしい先生にお会いできたことだけでも、大学院という怪しげなところで学んだ価値があったことは確かであり意味あることであつたと思ふ次第である。

*松木 久子 秋草学園短期大学 幼児教育学科 准教授

秋草学園短期大学紀要 第39号 2022年度

2023年3月31日発行

編集・発行 秋草学園短期大学
〒359-1112 埼玉県所沢市泉町 1789
電話 04(2925)1111(代)
